

2. 品 質 管 理

(白紙)

品質管理 目 次

1.セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹き付けコンクリートを除く）	418
2.プレキャストコンクリート製品（JIS I 類）	432
3.プレキャストコンクリート製品（JIS II 類）	432
4.プレキャストコンクリート製品（その他）	432
5.ガス圧接	440
6.既製杭工	444
7.基礎工	446
8.場所杭工	446
9. 既製杭工（中掘り杭工コンクリート打設方式）	446
10.下層路盤	448
11.上層路盤	456
12.アスファルト安定処理路盤	466
13.セメント安定処理路盤	468
14.アスファルト舗装	472
15.転圧コンクリート	486
16.グースアスファルト舗装	496
17.路床安定処理工	504
18.表層安定処理工（表層混合処理）	506
19.固結工	510
20.アンカー工	512
21.補強土壁工	514
22.吹付工	516
23.現場吹付法砕工	524
24.河川土工	534
25.海岸土工	536
26.砂防土工	538
27.道路土工	540
28.捨石工	548
29.コンクリートダム	550
30.覆工コンクリート（NATM）	562
31.吹付コンクリート（NATM）	572
32.ロックボルト（NATM）	580
33.路上再生路盤工	582
34.路上表層再生工	584
35.排水性舗装工・透水性舗装工	588
36.プラント再生舗装工	596
37.工場製作工（鋼橋用鋼材）	600
38.ガス切断工	600
39.溶接工	602
40.中層混合処理	610
41.鉄筋挿入工	612

港湾編・港湾海岸編

1. 石材等	614
2. 鋼材	616
3. 芝・樹木等	622
4. 防食材料	624
5. 防舷材	626
6. 係船柱	628
7. 車止め・縁金物	628
8. マット	630
9. その他	632

(白 紙)

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合を除く）	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1～5 JIS A 5021	設計図書による。
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1～5 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 （砕砂・碎石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照）	
		粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	碎石 40%以下 砂利 35%以下 舗装コンクリートは 35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は 25%以下	
		骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下（ただし、粒形判定実績率が 58% 以上の場合は 5.0%以下） スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外（砂利等） 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下） スラグ細骨材 7.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下） それ以外（砂等） 5.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は 3.0%以下）	
		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90% 以上の場合は使用できる。	
		モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90% 以上	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第 1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第 2 部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第 3 部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第 4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中 1 回/週以上)		○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	その他（JISマーク表示されたレディミクスコンクリートを使用する場合は除く）	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
			セメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
			セメントの水和熱測定	JIS R 5203	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント）
			セメントの蛍光 X線分析方法	JIS R 5204	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5214（エコセメント）
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回／月以上及び産地が変わった場合。		○
砂、砂利： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中 1 回／月以上		○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回／日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	製造（プレキャスト）	その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く）	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月		○
2 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1 回/日以上		○

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上仕様書」仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	

工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	単位水量測定	「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案）（平成16年3月8日事務連絡）」	<p>1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工してよい。</p> <p>2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>なお、「15kg/m³以内に安定するまで」とは、2回連続して15kg/m³以内の値を観測することをいう。</p> <p>3) 配合設計±20kg/m³の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行う。</p> <p>なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は1回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。</p>
			スランブ試験	JIS A 1101	<p>スランブ 5 cm以上 8 cm未満 : 許容差±1.5 cm</p> <p>スランブ 8 cm以上 18 cm以下 : 許容差±2.5 cm</p> <p>スランブ 2.5cm : 許容差±1.0 cm</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>100m³/日以上の場合： 2回/日（午前1回、午後1回）以上、または重要構造物の場合は重要度に応じて100m³～150m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</p>	<p>示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本とする。</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スランプ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランプ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。</p>	<p>小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）</p>	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1 回の試験結果は指定した呼び強度の 85%以上であること。 3 回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1 回の試験結果は、3 個の供試体の試験値の平均値)
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）
			コンクリートの曲げ強度試験（コンクリート舗装の場合、必須）	JIS A 1106	1 回の試験結果は指定した呼び強度の 85%以上であること。 3 回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
	コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112			
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・荷卸し時、または工場出荷時に運搬車から採取した試料</p> <p>1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに1回</p> <p>なお、テストピースの採取は打設場所で採取し、1回につき6個 ($\sigma 7 \cdots 3$ 個、$\sigma 28 \cdots 3$ 個)とする。</p> <p>・早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個 ($\sigma 3$)を追加で採取する。</p>	<p>小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
<p>・荷卸し時</p> <p>1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>打設日1日につき2回(午前・午後)の割りで行う。なおテストピースは打設場所で採取し、1回につき原則として3個とする。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		
<p>本数 総延長 最大ひび割れ幅等</p>	<p>高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、架空断面積が25m²以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象(ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。</p> <p>フーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。</p> <p>ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する。</p> <p>ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」により施工完了時のひび割れ状況を調査する場合は、ひび割れ調査の記録を同要領(案)で定める写真の提出で代替することができる。</p>	

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工後試験	必須	テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504-2013	設計基準強度
	その他		コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で行う。その他の構造物については強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所周辺において、再調査を5カ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	<p>高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象。(ただし、いずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない。)また、再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。</p> <p>工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする。</p>	
<p>所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。</p>	<p>コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないように十分な検討を行う。</p> <p>圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。</p>	

品質管理

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
2 プレキャストコンクリート製品 (JIS I類)	材料	必須	JIS マーク確認 又は「その他」の 試験項目の確認	目視 (写真撮影)	
	施工	必須	製品の外観検査 (角欠け・ひび割 れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと
3 プレキャストコンクリート製品 (JIS II類)	材料	必須	製品検査結果 (寸法・形状・外 観、性能試験) ※協議をした項目	JIS A 5363 JIS A 5371 JIS A 5372 JIS A 5373	設計図書による
			JIS マーク確認 又は「その他」の 試験項目の確認	目視 (写真撮影)	
	施工	必須	製品の外観検査 (角欠け・ひび割 れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと
4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	必須	セメントのアルカリシリカ反応抑制対策	アルカリ骨材反応抑制対策について (平成 14 年 7 月 31 日付け国官技第 112 号、国港環第 35 号、国空建第 78 号)	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成 14 年 7 月 31 日付け国官技第 112 号、国港環第 35 号、国空建第 78 号)
			コンクリートの塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則 0.3kg/m ³ 以下
			コンクリートのスランプ試験/スランプフロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	製造工場の管理基準

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
全数		
製造工場の検査ロット毎		○
全数		
1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合		○
1 回/月以上 (塩化物量の多い砂の場合 1 回/週以上)		○
1 回/日以上		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
4 プレキャストコンクリート製品（その他）	材料	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1 回の試験結果は指定した呼び強度の 85%以上であること。 3 回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1 回の試験結果は、3 個の供試体の試験値の平均値)	
			コンクリートの空気量測定 (凍害を受ける恐れのあるコンクリート製品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5% (許容差)	
	その他 (JIS マーク表示されたレディミックスコンクリートを使用する場合は除く)			骨材のふるい分け試験 (粒度・粗粒率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308
				骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308
				粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308
				骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材 砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)
				砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1回/日以上		○
1回/日以上		○
1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部: 電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)	○
1回以上/12か月及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中 1回/月以上及び産地が変わった場合。(山砂の場合は1回/週以上)	/	○
1回以上/12か月及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
4 プレキャストコンクリート製品（その他）	材料	その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
			セメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
			コンクリート用混和材 ・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS A 6201（フライアッシュ） JIS A 6202（膨張材） JIS A 6204（化学混和剤） JIS A 6206（高炉スラグ微粉末） JIS A 6207（シリカフューム）
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200mg/L以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 回／月以上及び産地が変わった場合。		○
砂、砂利： 工事開始前、1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 砕砂、碎石： 工事開始前、1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。		○
1 回／月以上		○
1 回／月以上 ただし、JIS A 6204（化学混和剤）は 1 回／6 ヶ月以上	試験成績表による。	○
1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
4 プレキャストコンクリート製品（その他）	材料	必須	鋼材	JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3137 JIS G 3506 JIS G 3521 JIS G 3532 JIS G 3536 JIS G 3538 JIS G 3551 JIS G 4322 JIS G 5502	JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3137 JIS G 3506 JIS G 3521 JIS G 3532 JIS G 3536 JIS G 3538 JIS G 3551 JIS G 4322 JIS G 5502
	施工	必須	製品の外観検査（角欠け・ひび割れ調査）	目視検査（写真撮影）	有害な角欠け・ひび割れの無いこと

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1回/月又は入荷の都度	試験成績表による。	○
全数	/	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
5 ガス圧 接	施工前試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> ・目視 ・圧接面の研磨状況 ・たれ下がり ・焼き割れ等 ・ノギス等による計測 (詳細外観検査) ・軸心の偏心 ・ふくらみ ・ふくらみの長さ ・圧接部のずれ ・折れ曲がり ・等 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/5 以下。</p> <p>②ふくらみは鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1.4 倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が SD490 の場合は 1.5 倍以上。</p> <p>③ふくらみの長さが鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1.1 倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が SD490 の場合は 1.2 倍以上。</p> <p>④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/4 以下。</p> <p>⑤折れ曲がりの角度が 2° 以下</p> <p>⑥片ふくらみの差が鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/5 以下。</p> <p>⑦垂れ下がり、へこみ、焼き割れが著しくない。</p> <p>⑧その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p> <hr/> <p>熱間押抜法の場合</p> <p>①ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。</p> <p>②ふくらみの長さが鉄筋径の 1.1 倍以上。ただし、SD490 の場合は 1.2 倍以上。</p> <p>③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があつてはならない。</p> <p>④その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>鉄筋メーカー、圧接作業班、鉄筋径毎に自動ガス圧接の場合は各 2 本、手動ガス圧接及び熱間押抜ガス圧接の場合は各 3 本のモデル供試体を作成し実施する。</p>	<p>・モデル供試体の作成は、実際の作業と同一条件・同一材料で行う。直径 19mm 未満の鉄筋について手動ガス圧接、熱間押抜ガス圧接を行う場合、監督職員と協議の上、施工前試験を省略することができる。</p> <p>(1)SD490 以外の鉄筋を圧接する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手動ガス圧接及び熱間押抜ガス圧接を行う場合、材料、施工条件などを特に確認する必要がある場合には、施工前試験を行う。 ・特に確認する必要がある場合とは、施工実績の少ない材料を使用する場合、過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件、圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。 ・自動ガス圧接を行う場合には、装置が正常で、かつ装置の設定条件に誤りのないことを確認するため、施工前試験を行わなければならない。 <p>(2)SD490 の鉄筋を圧接する場合</p> <p>SD490 を圧接する場合、手動ガス圧接、自動ガス圧接、熱間押抜法のいずれにおいても、施工前試験を行わなければならない。</p>	

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
5 ガス圧接	施工後試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> ・目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ等 ・ノギス等による計測 (詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 折れ曲がり 等 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/5 以下。</p> <p>②ふくらみは鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1.4 倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が SD490 の場合は 1.5 倍以上。</p> <p>③ふくらみの長さが鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1.1 倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が SD490 の場合は 1.2 倍以上。</p> <p>④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/4 以下。</p> <p>⑤折れ曲がりの角度が 2° 以下</p> <p>⑥片ふくらみの差が鉄筋径（径が異なる場合は、細い方の鉄筋）の 1/5 以下。</p> <p>⑦垂れ下がり、へこみ、焼き割れが著しくない。</p> <p>⑧その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p> <p>熱間押抜法の場合</p> <p>①ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。</p> <p>②ふくらみの長さが鉄筋径の 1.1 倍以上。ただし、SD490 の場合は 1.2 倍以上。</p> <p>③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があつてはならない。</p> <p>④その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>
			超音波探傷検査	JIS Z 3062	<p>各検査ロットごとに 30 ヶ所のランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が 1 ヶ所以下の時はロットを合格とし、2 ヶ所以上のときはロットを不合格とする。ただし、合否判定レベルは基準レベルより -24db 感度を高めたレベルとする。</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・目視は全数実施する。 ・特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格値を外れた場合は以下による。いずれの場合も監督職員の承諾を得るものとし、処置後は外観検査及び超音波探傷検査を行う。 ・①は、圧接部を切り取って再圧接する。 ・②③は、再加熱し、圧力を加えて所定のふくらみに修正する。 ・④は、圧接部を切り取って再圧接する。 ・⑤は、再加熱して修正する。 ・⑥⑦は、圧接部を切り取って再圧接する。 	
<p>超音波探傷検査は抜取検査を原則とする。</p> <p>抜取検査の場合は、各ロットの30ヶ所とし、1ロットの大きさは200ヶ所程度を標準とする。ただし、1作業班が1日に施工した箇所を1ロットとし、自動と手動は別ロットとする。</p>	<p>熱間押抜法の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格値を外れた場合は以下による。いずれの場合も監督職員の承諾を得る。 ・①②③は、再加熱、再加圧、押抜きを行って修正し、修正後外観検査を行う。 ・④は、再加熱して修正し、修正後外観検査を行う。 <p>規格値を外れた場合は、以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不合格ロットの全数について超音波探傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督職員の承諾を得て、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査及び超音波探傷検査を行う。 	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
6 既製杭工	材料	必須	外観検査（鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）・コンクリート杭・H鋼杭）	目視	目視により使用上有害な欠陥（鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など）がないこと。
			外観検査（鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む））	JIS A 5525	【円周溶接部の目違い】 外径 700 mm未満：許容値 2 mm以下 外径 700 mm以上 1016 mm以下：許容値 3 mm以下 外径 1016 mmを超え 2000 mm以下：許容値 4 mm以下
	施工	必須	鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接 浸透探傷試験（溶剤除去性染色浸透探傷試験）	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	割れ及び有害な欠陥がないこと。
			鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）・H鋼杭の現場溶接 放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104 の 1 類から 3 類であること
			鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）の現場溶接 超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060 の 1 類から 3 類であること
その他					

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
設計図書による。		○
	<p>外径 700 mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $2\text{ mm} \times \pi$ 以下とする。</p> <p>外径 700 mm以上 1016 mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $3\text{ mm} \times \pi$ 以下とする。</p> <p>外径 1016 mmを超え 2000 mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を $4\text{ mm} \times \pi$ 以下とする。</p>	
<p>原則として全溶接箇所で行う。</p> <p>ただし、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全溶接箇所 の 10% 以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6 により定められた認定技術者が行うものとする。</p> <p>試験箇所は杭の全周とする。</p>		
<p>原則として溶接 20ヶ所毎に 1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は、現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を 4 方向から透過し、その撮影長は 30cm/1 方向とする。</p> <p>(20ヶ所毎に 1ヶ所とは、溶接を 20ヶ所施工した毎にその 20ヶ所から任意の 1ヶ所を試験することである。)</p>		
<p>原則として溶接 20ヶ所毎に 1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は、現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を 4 方向から探傷し、その探傷長は 30cm/1 方向とする。</p> <p>(20ヶ所毎に 1ヶ所とは、溶接を 20ヶ所施工した毎にその 20ヶ所から任意の 1ヶ所を試験することである。)</p>	<p>中掘り杭工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）・コンクリート杭（根固め） 水セメント比試験	比重の測定による水セメント比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は 60%～70%（中掘り工法）、60%（プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法）とする。
			鋼管杭（鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む）・コンクリート杭（根固め） セメントミルクの圧縮強度試験	セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周固定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による。
7 基礎工	施工	必須	支持層の確認	試験杭	試験杭の施工により定めた方法を満足していること
8 場所杭工	施工	必須	孔底沈殿物の管理	検測テープ	設計図書による
9 既製杭工 (中掘り杭工 コンクリート打設方式)	施工	必須	孔底処理	検測テープ	設計図書による

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>試料の採取回数は一般に単杭では 30 本に 1 回、継杭では 20 本に 1 回とし、採取本数は 1 回につき 3 本とする。</p>	/	
<p>供試体の採取回数は一般に単杭では 30 本に 1 回、継杭では 20 本に 1 回とし、採取本数は 1 回につき 3 本とすることが多い。 なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成した $\phi 5 \times 10\text{cm}$ の円柱供試体によって求めるものとする。</p>	<p>参考値：20N/mm²</p>	
/	<p>中掘り杭工法（セメントミルク噴出攪拌方式）、プレボーリング杭工法、鋼管ソイルセメント杭工法及び回転杭工法における支持層の確認は、支持層付近で掘削速度を極力一定に保ち、掘削抵抗値（オーガ駆動電流値、積分電流値又は回転抵抗値）の変化をあらかじめ調査している土質柱状図と対比して行う。 この際の施工記録に基づき、本施工における支持層到達等の判定方法を定める。</p>	
/	<p>孔底に沈積するスライムの量は、掘削完了直後とコンクリート打込み前に検測テープにより測定した孔底の深度を比較して把握する。</p>	
/	<p>泥分の沈降や杭先端からの土砂の流入等によってスライムが溜ることがあるので、孔底処理からコンクリートの打設までに時間が空く場合は、打設直前に孔底スライムの状態を再確認し、必要において再処理する。</p>	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
10 下層路盤	材料	必須	修正 CBR 試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-68	粒状路盤：修正 CBR20%以上（クラッシュラン鉄鋼スラグは修正 CBR30%以上） アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が 30cm より小さい場合は 30%以上とする。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表 2 参照

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
10 下層路盤	材料	必須	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数 PI : 6 以下
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-80	1.5%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄鋼スラグには適用しない。 ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ① 施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ② 使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CS：クラッシュラン鉄鋼スラグに適用する。 ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ① 施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ② 使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	○

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
10 下層路盤	材料	必須	道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015	呈色なし
	その他		粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生クラッシュランに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
10 下層路盤	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が 53mm 以下の場合のみ適用できる	最大乾燥密度の 93%以上 X_{10} 95%以上 X_6 96%以上 X_3 97%以上 歩道路盤については、個々の測定値が、最大乾燥密度の 90%以上	
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-288		
			その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
				骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	
				土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数 PI : 6 以下
				含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の 93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10 孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。また、10 孔の測定値が得がたい場合は 3 孔の測定値の平均値 X3 が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1 工事あたり 3,000 m²を超える場合は、10,000 m²以下を 1 ロットとし、1 ロットあたり 10 孔で測定する。</p> <p>(例)</p> <p>3,001～10,000 m² : 10 孔</p> <p>10,001 m² 以上の場合、10,000 m²毎に 10 孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば 12,000 m²の場合 : 6,000 m²/1 ロット毎に 10 孔、合計 20 孔</p> <p>なお、1 工事あたり 3,000 m²以下の場合(維持工事を除く)は、1 工事あたり 3 孔以上で測定する。</p>		
<p>・全幅、全区間で実施する。</p>	<p>・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</p>	
<p>1,000m²につき 2 回の割合で行う。</p>	<p>・セメントコンクリートの路盤に適用する。</p>	
<p>・中規模以上の工事：異常が認められたとき。</p>	<p>中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p>	
	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p>	

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
11 上層路盤	材料	必須	修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	修正 CBR 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合 90%以上 40℃で行った場合 80%以上
			鉄鋼スラグの修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	修正 CBR 80%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
	<p>・ MS:粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。</p> <p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
11 上層路盤	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表 2 参照
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数 PI : 4 以下
			鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法便覧 [4]-73	呈色なし

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満）</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
	<p>・ ただし、鉄鋼スラグには適用しない。</p> <p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満）</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
	<p>・ MS：粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。</p> <p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満）</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○

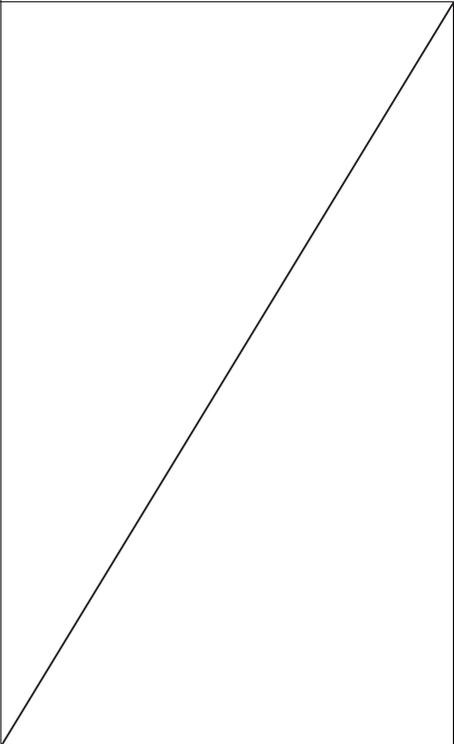
工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
11 上層路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-80	1.5%以下
			鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-75	1.2Mpa 以上(14日)
			鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-131	1.50kg/L 以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<p>・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満 (コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
	<p>・HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満 (コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
	<p>・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満 (コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
11 上層路盤	材料	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・粒度調整及びセメントコンクリート再生骨材を使用した再生粒調整に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	○
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
11 上層路盤	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法 便覧 [4]-256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大 粒径が 53mm 以下の 場合のみ適用でき る	最大乾燥密度の 93%以上 X ₁₀ 95%以上 X ₆ 95.5%以上 X ₃ 96.5%以上
			粒度（2.36mm フルイ）	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	2.36mm ふるい：±15%以内
			粒度（75 μm フルイ）	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	75 μm ふるい：±6%以内

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の 93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10 孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。また、10 孔の測定値が得がたい場合は 3 孔の測定値の平均値 X3 が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1 工事あたり 3,000 m³を超える場合は、10,000 m³以下を 1 ロットとし、1 ロットあたり 10 孔で測定する。</p> <p>(例)</p> <p>3,001~10,000 m³ : 10 孔</p> <p>10,001 m³ 以上の場合、10,000 m³毎に 10 孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば 12,000 m³の場合 : 6,000 m³/1 ロット毎に 10 孔、合計 20 孔</p> <p>なお、1 工事あたり 3,000 m³以下の場合(維持工事を除く)は、1 工事あたり 3 孔以上で測定する。</p>		
<p>・中規模以上の工事：定期的または随時(1回~2回/日)</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
11 上層路盤		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：4以下
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
12 アスファルト安定処理路盤			アスファルト舗装に準ずる。		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1,000m ² につき2回の割合で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。	
観察により異常が認められたとき。		

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
13 セメント安定処理路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-102	下層路盤：一軸圧縮強さ [7 日間] 0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ [7 日間] 2.9Mpa (アスファルト舗装)、 2.0Mpa (セメントコンクリート舗装)
			骨材の修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 舗装調査・試験法便覧 [4]-167	下層路盤 塑性指数 PI : 9 以下 上層路盤 塑性指数 PI : 9 以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定処理材に適用する。 ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満） ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満） ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満） ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
13 セメント安定処理路盤	施工	必須	粒度 (2.36mm フルイ)	JIS A 1102	2.36mm ふるい : ±15%以内
			粒度 (75 μ m フルイ)	JIS A 1102	75 μ m ふるい : ±6%以内
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214)	最大乾燥密度の93%以上。 X ₁₀ 95%以上 X ₆ 95.5%以上 X ₃ 96.5%以上
	その他		含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			セメント量試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-293、[4]-297	±1.2%以内

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：定期的または随時（1回～2回／日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：異常が認められたとき。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の 93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10 孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。また、10 孔の測定値が得がたい場合は 3 孔の測定値の平均値 X3 が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。 ・1 工事あたり 3,000 m²を超える場合は、10,000 m²以下を 1 ロットとし、1 ロットあたり 10 孔で測定する。 <p>(例)</p> <p>3,001～10,000 m² : 10 孔</p> <p>10,001 m²以上の場合、10,000 m²毎に 10 孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば 12,000 m²の場合 : 6,000 m² / 1 ロット毎に 10 孔、合計 20 孔</p> <p>なお、1 工事あたり 3,000 m²以下の場合（維持工事を除く）は、1 工事あたり 3 孔以上で測定する。</p>	/	
<p>観察により異常が認められたとき。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回／日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
14 アスファルト舗装	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表 2 参照
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-51	細長、あるいは扁平な石片：10%以下
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧 表 3.3.17 による。
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
		○
		○
		○
		○
		○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
14 アスファルト舗装	材料	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4 以下
			フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-83	50%以下
			フィラーの水浸膨張試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-74	3%以下
			フィラーの剥離抵抗性試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-78	1/4 以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p>

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
14 アスファルト舗装	材料	その他	製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-94	水浸膨張比：2.0%以下
			製鋼スラグの密度及び吸水率試験	JIS A 1110	SS 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	すり減り量 砕石：30%以下 CSS：50%以下 SS：30%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
14 アスファルト舗装	材料	その他	針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3 ・ セミプローンアスファルト： 表 3.3.4
			軟化点試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3
			伸度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3
			トルエン可溶分試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ セミプローンアスファルト： 表 3.3.4
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3 ・ セミプローンアスファルト： 表 3.3.4

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p>	○
	<p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p>	○
	<p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
14 アスファルト舗装	材料	その他	薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3 ・セミブローンアスファルト： 表 3.3.4
			蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1
			密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト： 表 3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3 ・セミブローンアスファルト： 表 3.3.4
			高温動粘度試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-212	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト：表 3.3.4
			60℃粘度試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-224	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト： 表 3.3.4
			タフネス・テナシ ティ試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-289	舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト： 表 3.3.3

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
		○
		○
		○
		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
14 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度 (2.36mm フルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-16	2.36mm ふるい : ±12%以内基準粒度
			粒度 (75 μ m フルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-16	75 μ m ふるい : ±5%以内基準粒度
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-318	アスファルト量 : ±0.9%以内
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	配合設計で決定した混合温度。
	その他		水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -65	設計図書による。
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -44	
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -18	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・中規模以上の工事：定期的または随時。</p> <p>・小規模以下の工事：異常が認められたとき。</p> <p>印字記録の場合：全数</p> <p>または</p> <p>抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
随時		○
設計図書による。	<p>アスファルト混合物の耐剥離性の確認</p> <p>アスファルト混合物の耐流動性の確認</p> <p>アスファルト混合物の耐摩耗性の確認</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の94%以上。 X ₁₀ 96%以上 X ₆ 96%以上 X ₃ 96.5%以上 歩道については、個々の測定値が基準密度の90%以上。
			温度測定（初転圧前）	温度計による	110℃以上
			外観検査（混合物）	目視	
		その他	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1]-101	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・縮固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の 94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・縮固め度は、10 孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。また、10 孔の測定値が得がたい場合は 3 孔の測定値の平均値 X3 が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1 工事あたり 3,000 m²を超える場合は、10,000 m²以下を 1 ロットとし、1 ロットあたり 10 孔で測定する。</p> <p>(例)</p> <p>3,001～10,000 m² : 10 孔</p> <p>10,001 m²以上の場合、10,000 m²毎に 10 孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば 12,000 m²の場合 : 6,000 m² / 1 ロット毎に 10 孔、合計 20 孔</p> <p>なお、1 工事あたり 3,000 m²以下の場合 (維持工事を除く) は、1 工事あたり 3 孔以上で測定する。</p>	<p>・橋面舗装はコア採取しないで As 合材量 (プラント出荷数量) と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。</p>	
<p>随時</p>	<p>測定値の記録は、1 日 4 回 (午前・午後各 2 回)</p>	
<p>舗設車線毎 200m 毎に 1 回</p>		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
15 転圧コンクリート	材料 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	必須	コンシステンシーVC試験	/	舗装施工便覧 8-3-3 による。 目標値 修正 VC 値 : 50 秒
			マーシャル突き固め試験		転圧コンクリート舗装技術指針(案) ※いずれか1方法
			ランマー突き固め試験	/	舗装施工便覧 8-3-3 による。 目標値 締固め率 : 97%
			含水比試験		JIS A 1203
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。
	その他		骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	舗装施工便覧 細骨材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.22
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	設計図書による。
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地 25%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初	/	
	/	
	/	
	含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむえずおこなえない場合に適用する。なお測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが望ましい。	
2回/日（午前・午後）で、3本1組/回	/	
細骨材 300m ³ 、粗骨材 500m ³ ごとに1回、あるいは1回/日	/	○
	/	○
工事開始前、材料の変更時	/	○
	ホホワイトベースに使用する場合：40%以下	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
15 転圧コンクリート	材料（JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用の場合は除く）	その他	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕砂 3.0%以下（ただし、粒形判定実績率が 58% 以上の場合は 5.0%以下） スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外（砂利等） 1.0%以下 細骨材 砕砂、スラグ細骨材 5.0%以下 それ以外（砂等） 3.0%以下（ただし、砕砂で粘土、シルト等を含まない場合は 5.0%以下）
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、材料の変更時	/	○
工事開始前、材料の変更時	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	/	○
工事開始前、材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。	○
	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中 1 回/月以上	/	○

工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規 格 値
15 転圧コンクリート	材料（JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く）	その他	ボルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ボルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
		練混ぜ水の水質試験		上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回／月以上	/	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回／日	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
15 転圧コンクリート	製造 (プラント) (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	その他	計量設備の計量精度	/	水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	
			ミキサの練混ぜ性能試験		バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート中の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート中の空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下
					連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下
			細骨材の表面水率試験		JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験		JIS A 1125	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回以上/12か月	・総使用量が50m ³ 未満の場合は1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	○
2回/日以上	レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
15 転圧コンクリート	施工	必須	コンシステンシー VC 試験		修正 VC 値の±10 秒
			マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-344 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%
			ランマー突き固め試験		
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験回数が 7 回以上（1 回は 3 個以上の供試体の平均値）の場合は、全部の試験値の平均値が所定の合格判断強度を上まわるものとする。 ・ 試験回数が 7 回未満となる場合は、 <ul style="list-style-type: none"> ①1 回の試験結果は配合基準強度の 85%以上 ②3 回の試験結果の平均値は配合基準強度以上
			温度測定（コンクリート）	温度計による	
			現場密度の測定	RI 水分密度計	基準密度の 95.5%以上
			コアによる密度測定	舗装調査・試験法 便覧 [3]-353	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1日2回（午前・午後）以上、その他コンシテンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視観察を行う。		
2回／日（午前・午後）で、3本1組／回（材令28日）		
2回／日（午前・午後）以上		
40mに1回（横断方向に3ヶ所）		
1,000m ² に1個の割合でコアを採取して測定		

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
16 グース アスファルト 舗装	材料	必須	骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照
			骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下
			骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-51	細長、あるいは扁平な石片：10% 以下
			フィラー（舗装用 石灰石粉）の粒度 試験	JIS A 5008	便覧 表3.3.17による。
			フィラー（舗装用 石灰石粉）の水分 試験	JIS A 5008	1%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p style="text-align: center;">○</p>

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
16 グース アスファルト 舗装	材料 その他		粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121	30%以下
			硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122	損失量：12%以下
			針入度試験	JIS K 2207	15～30 (1/10mm)
			軟化点試験	JIS K 2207	58～68℃
			伸度試験	JIS K 2207	10 cm以上 (25℃)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<p>・規格値は、石油アスファルト（針入度 20～40）にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p>

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
16 グース アスファルト 舗装	材料	その他	トルエン可溶分試験	JIS K 2207	86～91%
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	240℃以上
			蒸発質量変化率試験	JIS K 2207	0.5%以下
			密度試験	JIS K 2207	1.07～1.13g/cm ³
	プラント	必須	貫入試験 40℃	舗装調査・試験法 便覧 [3]-402	貫入量 (40℃) 目標値 表層：1～4mm 基層：1～6mm
			リュエル流動性試験 240℃	舗装調査・試験法 便覧 [3]-407	3～20 秒 (目標値)
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-44	300 以上
			曲げ試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-79	破断ひずみ (－10℃、50mm/min) 8.0×10 ⁻³ 以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・規格値は、石油アスファルト（針入度 20～40）にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000m² 以上 10000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満（コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満）。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの 	<p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p>
<p>配合毎に各 1 回。ただし、同一配合の合材 100t 未満の場合も実施する。</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	<p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p> <hr/> <p style="text-align: center;">○</p>

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
16 グース アスファルト 舗装	プラント	必須	粒度 (2.36mm フルイ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	2.36mm ふるい：±12%以内基準粒度
			粒度 (75 μ m フルイ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	75 μ m ふるい：±5%以内基準粒度
			アスファルト量抽出 粒度分析試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-318	アスファルト量：±0.9%以内
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	アスファルト：220℃以下 石 粉：常温～150℃
	舗設現場	必須	温度測定 (初転圧前)	温度計による	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・中規模以上の工事：定期的または随時。</p> <p>・小規模以下の工事：異常が認められたとき。</p> <p>印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
随時	/	○
随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
17 路床安定処理工	材 料	必 須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
			CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-227、[4]-230	設計図書による。
	施 工	必 須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3 種類) のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm : 砂置換法 (JIS A 1214)	設計図書による。
				最大粒径 > 53 mm : 舗装調査・試験法便覧 [4]-256 突砂法	
				または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領 (案)」	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から 1m 以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。
				または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び土質の変化したとき。		
当初及び土質の変化したとき。		
<p>500m³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。</p> <p>1 回の試験につき 3 孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。</p>		
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>1 日の 1 層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は 1,500m² を標準とし、1 日の施工面積が 2,000m² 以上の場合、その施工面積を 2 管理単位以上に分割するものとする。1 管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500m² 未満:5 点 ・ 500m² 以上 1000m² 未満:10 点 ・ 1000m² 以上 2000m² 未満:15 点 		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも 1 日の 1 層当たりの施工面積は 1,500 m² を標準とする。また、1 日の施工面積が 2,000m² 以上の場合、その施工面積を 2 管理単位以上に分割するものとする。 3. 1 日の施工が複数層に及ぶ場合でも 1 管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。 		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
17 路床安定処理工	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-288	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			現場 CBR 試験	JIS A 1222	設計図書による。
			含水比試験	JIS A 1203	
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-284 (ハンゲルマンビーム)	
18 表層安定処理工 (表層混合処理)	材料	その他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。
		施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm : 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm : 舗装調査・試験法便覧 [4]-256 突砂法
				または、RI 計器を用いた盛土の締め管理要領 (案)	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	
延長 40m につき 1ヶ所の割合で行う。	・セメントコンクリートの路床に適用する。	
各車線ごとに延長 40m につき 1 回の割合で行う。	/	
500m ³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m ³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。		
ブルーフローリングでの不良箇所について実施。		
当初及び土質の変化したとき。		配合を定めるための試験である。
500m ³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m ³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。 1 回の試験につき 3 孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。	/	
盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 1 日の 1 層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は 1,500m ² を標準とし、1 日の施工面積が 2,000m ² 以上の場合、その施工面積を 2 管理単位以上に分割するものとする。1 管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・ 500m ² 未満 : 5 点 ・ 500m ² 以上 1000m ² 未満 : 10 点 ・ 1000m ² 以上 2000m ² 未満 : 15 点		・最大粒径<100 mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
18 表層安定処理工 (表層混合処理)	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3 種類)のいずれかを実施する。	または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-288	
	その他		平板載荷試験	JIS A 1215	
			現場 CBR 試験	JIS A 1222	設計図書による。
			含水比試験	JIS A 1203	
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-284 (ハンゲルマンビーム)	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m²を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m²以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。</p> <p>3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</p> <p>4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>	/	
路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	
各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	/	
500m ³ につき1回の割合で行う。ただし、1,500m ³ 未満の工事は1工事当たり3回以上。	/	
ブルーフローリングでの不良箇所について実施。	/	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
19 固結工	材 料	必 須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。 なお、1 回の試験とは 3 個の供試体の試験値の平均値で表したものの
			ゲルタイム試験	/	/
	施 工	必 須	改良体全長の連続性確認	ボーリングコアの目視確認	
			土の一軸圧縮試験 (改良体の強度)	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の 85%以上。 ②1 回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1 回の試験とは 3 個の供試体の試験値の平均値で表したものの。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び土量の変化したとき	配合を定めるための試験である。	
当初及び土量の変化したとき。	配合を定めるための試験である。	
改良体の上端から下端までの全長をボーリングにより採取し、全長において連続して改良されていることを目視確認する。 改良体 500 本未満は 3 本、500 本以上は 250 本増えるごとに 1 本追加する。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。	ボーリング等により供試体を採取する。 改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認したボーリングコアを利用してもよい。	
改良体 500 本未満は 3 本、500 本以上は 250 本増えるごとに 1 本追加する。 試験は 1 本の改良体について、上、中、下それぞれ 1 回、計 3 回とする。 ただし、1 本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に 3 回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。	ボーリング等により供試体を採取する。	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
20 アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。
			モルタルのフロー値試験	JSCE-F 521-2018	10～18秒 P ロート (グラウンドアンカー設計施工マニュアルに合わせる)
			適正試験 (多サイクル確認試験)	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。
			確認試験 (1 サイクル確認試験)	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。
	その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	所定の緊張力が導入されていること。	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
2回（午前・午後）／日		
練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。		
<ul style="list-style-type: none"> ・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。 	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
<ul style="list-style-type: none"> ・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。 	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオフ試験 等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
21 補強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
			外観検査（ストリップ、鋼製壁面材、コンクリート製壁面材等）	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左
			コンクリート製壁面材のコンクリート強度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	
	その他		土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm : 砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径 > 53 mm : 舗装調査・試験法便覧 [4]-256 突砂法	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）。 または、設計図書による。
			または、RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは92%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法） または、設計図書による。	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び土質の変化時。		
同左		○
設計図書による。		
<p>500m³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。</p> <p>1 回の試験につき 3 孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。</p>	<p>・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E 法)</p> <p>【一般の橋台背面】 平均 92%以上、かつ最小 90%以上</p> <p>【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均 97%以上、かつ最小 95%以上</p>	
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>路体・路床とも、1 日の 1 層あたりの施工面積を基準とする。管理単位的面積は 1,500m² を標準とし、1 日の施工面積が 2,000m² 以上の場合、その施工面積を 2 管理単位以上に分割するものとする。1 管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・500m² 未満：5 点 ・500m² 以上 1000m² 未満：10 点 ・1000m² 以上 2000m² 未満：15 点 	<p>・最大粒径 < 100 mm の場合に適用する。</p> <p>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。</p> <p>・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E 法)</p> <p>【一般の橋台背面】 平均 92%以上、かつ最小 90%以上</p> <p>【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均 97%以上、かつ最小 95%以上</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
21 補強土壁工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	または、「TS・GNSSを用いた盛土の締め固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締め固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。
22 吹付工	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・碎石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	/	
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
	JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部:高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部:銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部:電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材-第5部:石灰ガス化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
22 吹付工	材料	その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が 58% 以上の場合は 5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 3.0%以下)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材 : 1.0%以下 粗骨材 : 0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材 : 10%以下 粗骨材 : 12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	/	○
工事開始前、工事中1回以上/12か月及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
砂、砂利： 工事開始前、工事中1回以上/12か月及び産地が変わった場合。 砕砂、碎石： 工事開始前、工事中1回以上/12か月産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中1回/月以上	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上	/	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
22 吹付工	材料 （場合は除く）	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリート使用する場合を除く）	練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30 分以内、終結は60 分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30 分以内、終結は60 分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
	製造 （ブランド）	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による。
	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	
		ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回/日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○
2 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	
1 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	
工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上	<ul style="list-style-type: none"> ・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。 ・急結材は適用外。 	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
22 吹付工	製造(フランド)～(JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3 cm以下
	施工	その他	塩化物総量規制	コンクリートの耐久性向上仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下
			スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ 5 cm以上 8 cm未満：許容差±1.5 cm スランブ 8 cm以上 18 cm以下：許容差±2.5 cm
	必須		コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE-F 561-2023	3本の強度の平均値が、材令28日で設計強度以上とする。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○
コンクリートの打設が午前と午後に来たがる場合は、午前に 1 回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の 1/2 以下の場合、午後を省略することができる。(1 試験の測定回数は 3 回とする) 試験の判定は 3 回の測定値の平均値。	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当りの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。</p> <p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023) または設計図書の規定により行う。</p> <p>・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
・荷卸し時 1 回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~150m ³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当りの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	
吹付 1 日につき 1 回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で 28 日養生し、直径 50 mm のコアを切りキャッピングを行う。原則として 1 回に 3 本とする。	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当りの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
22 吹付工	施工	その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
23 現場吹付法枠工	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他(J I S マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合を除く)	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<p>・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当りの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。 ※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>	/	
<p>骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合。</p>	/	○
<p>工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。</p>	/	○
	<p>JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第 1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第 2 部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第 3 部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第 4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材-第 5 部: 石灰ガス化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)</p>	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
23 現場吹付法砕工	材料	その他（JISマーク表示されたレディミックスコンクリート使用の場合は除く）	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下（ただし、粒形判定実績率が 58% 以上の場合は 5.0%以下） スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外（砂利等） 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下） スラグ細骨材 7.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下） それ以外（砂等） 5.0%（ただし、すりへり作用を受ける場合は 3.0%以下）
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	/	○
工事開始前、工事中1回以上/12か月及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
砂、砂利： 工事開始前、工事中1回以上/12か月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中1回以上/12か月及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中1回/月以上	/	○
	/	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
23 現場吹付法砕工	材料	練混ぜ水の水質試験 <small>その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリート使用の場合は除く）</small>		上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
			回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC		塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
	製造 (JISマーク表示されたレディミキストコンクリート使用の場合は除く)	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	
		その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月および水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回/日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○
2 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1 回/日以上		○
工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	・小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m ³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
23 現場吹付法砕工	製造（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下
	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE-F 561-2023	設計図書による。
		その他	塩化物総量規制	コンクリートの耐久性向上仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前及び工事中1回以上/12か月	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○
1回6本。吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用すると同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(σ7・3本、σ28・3本)とする。	<p>・参考値：18N/mm²以上(材令28日)</p> <p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照</p>	
コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。</p> <p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023)または設計図書の規定により行う。</p> <p>※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照</p>	

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
23 現場吹付法砕工	施工	その他	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ 5 cm以上 8 cm未満 : 許容差±1.5 cm スランブ 8 cm以上 18 cm以下 : 許容差±2.5 cm
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<p>小規模工種※で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当たりの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ 1m 以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅 2.0m 以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<p>小規模工種で 1 工種当りの総使用量が 50m³ 未満の場合は 1 工種 1 回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1 工種当たりの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照</p>	
<p>設計図書による。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
24 河川土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
			土の含水比試験	JIS A 1203	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の圧密試験	JIS A 1217	
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の透水試験	JIS A 1218	
	施工		必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	
最大粒径 $> 53\text{ mm}$: 突砂法 (舗装調査・試験法便覧[4]-256)		1 管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の92%以上。ただし、上記により難しい場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。 【砂質土 (25% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分 $< 50\%$)】 空気間隙率 V_a が $V_a \leq 15\%$ 【粘性土 (50% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分)】 飽和度が S_r が $85\% \leq S_r \leq 95\%$ または空気間隙率 V_a が $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または、設計図書による。			
			または、 「RI 計器を用いた盛土の締固め管理要領 (案)」による。		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び土質の変化した時。		
当初及び土質の変化した時。		
必要に応じて。		
<p>築堤は、1,000m³ に 1 回の割合、または堤体延長 20m に 3 回の割合のうち、測定頻度の高い方で実施する。</p> <p>1 回の試験につき 3 孔で測定し、3 孔の平均値で判定を行う。</p>	<p>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で（再）転圧を行うものとする。</p>	
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>築堤は、1 日の 1 層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は 1,500m² を標準とし、1 日の施工面積が 2,000m² 以上の場合、その施工面積を 2 管理単位以上に分割するものとする。1 管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500m² 未満：5 点 ・ 500m² 以上 1000m² 未満：10 点 ・ 1000m² 以上 2000m² 未満：15 点 	<p>・最大粒径<100 mmの場合に適用する。</p> <p>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
24 河川土工	施工	必須		または、「TS・GNSSを用いた盛土の締め固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。
		その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1]-273	
25 海岸土工	材料	必須	土の締め固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
			土の含水比試験	JIS A 1203	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の圧密試験	JIS A 1217	
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の透水試験	JIS A 1218	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
含水比の変化が認められたとき。		
トラフィカビリティが悪いとき。		
当初及び土質の変化時。		
当初及び土質の変化した時。		
必要に応じて		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	
25 海岸土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm : 砂置換法 (JIS A 1214)	最大乾燥密度の85%以上。 または、設計図書に示された値。
				最大粒径 > 53 mm : 突砂法 (舗装調査・試験法便覧 [4]-256)	
				または、 「RI 計器を用いた盛土の締固め管理要領 (案)」による	1 管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。 または、設計図書による。
				「TS・GNSS を用いた盛土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。
		その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1]-273	
26 砂防土工	材料	必須	土の締固め試験 現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	JIS A 1210 最大粒径 ≤ 53 mm : 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53 mm : 突砂法 (舗装調査・試験法便覧 [4]-256)	設計図書による。 最大乾燥密度の85%以上。または設計図書に示された値。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>築堤は、1,000m³に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合のうち、測定頻度の高い方で実施する。</p> <p>1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。</p>	<p>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</p>	
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の間積は1,500m²を標準とし、1日の施工面積が2,000m²以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・500m²未満：5点 ・500m²以上1000m²未満：10点 ・1000m²以上2000m²未満：15点 	<p>・最大粒径<100mmの場合に適用する。</p> <p>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</p>	
<p>1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</p> <p>3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>	/	
<p>含水比の変化が認められたとき。</p>	/	
<p>トラフィカビリティが悪いとき。</p>	/	
<p>当初及び土質の変化した時。</p>	/	
<p>1,000m³に1回の割合、または設計図書による。</p> <p>1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。</p>	<p>左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</p>	

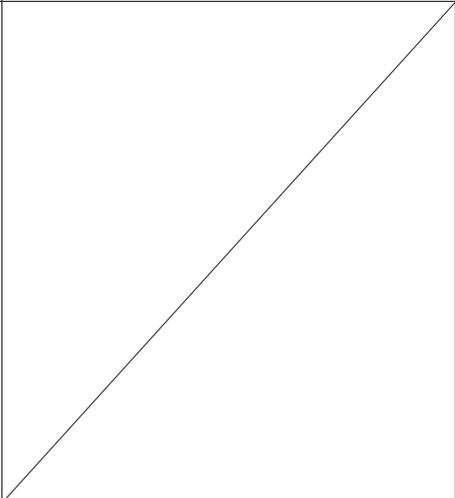
工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
26 砂防土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	または、 「RI 計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による	1 管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。 または、設計図書による。	
				または、 「TS・GNSS を用いた盛土の締固め管理要領」による		施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。
27 道路土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	
			CBR 試験 (路床)	JIS A 1211		
	その他			土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。
				土粒子の密度試験	JIS A 1202	
				土の含水比試験	JIS A 1203	
				土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
				土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	
				土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	
				土の圧密試験	JIS A 1217	
				土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	
				土の透水試験	JIS A 1218	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は、1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満：5点 ・500m ² 以上1000m ² 未満：10点 ・1000m ² 以上2000m ² 未満：15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	
1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
当初及び土質の変化した時（材料が岩枠の場合は除く） ただし、法面、路肩部の土量は除く。		
当初及び土質の変化した時。 （材料が岩枠の場合は除く）		
当初及び土質の変化した時。		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
27 道路土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm : 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53 mm : 突砂法 (舗装調査・試験法便覧 [4]-256)	<p>【砂質土】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）。 ・路床及び構造物取付部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）もしくは90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法） <p>【粘性土】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路体：自然含水比またはトラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率 V_a が $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または飽和度 S_r が $85\% \leq S_r \leq 95\%$。 ・路床及び構造物取付部：トラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率 V_a が $2\% \leq V_a \leq 8\%$。 <p>ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 その他、設計図書による。</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>路体の場合、1,000m³ につき 1 回の割合で行う。ただし、5,000m³ 未満の工事は、1 工事当たり 3 回以上。</p> <p>路床及び構造物取付け部の場合、500m³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。</p> <p>1 回の試験につき 3 孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。</p>		

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
27 道路土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	<p>または、 「RI 計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」</p> <p>または、 「TS・GNSS を用いた盛土の締固め管理要領」による</p>	<p>【砂質土】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1 管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の 92%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B 法）。 路床及び構造物取付部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1 管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の 97%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B 法）もしくは 92%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E 法） <p>【粘性土】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体、路床及び構造物取付部：自然含水比またはトラフィカビリティが確保できる含水比において、1 管理単位の現場空気間隙率の平均値が 8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。または、設計図書による。 <p>施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>路体・路床とも1日1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m²を標準とし、1日の施工面積が2,000m²以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・500m²未満：5点 ・500m²以上1000m²未満：10点 ・1000m²以上2000m²未満：15点 	<ul style="list-style-type: none"> ・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。 		

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
27 道路土工	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -288	/
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	/
			現場 CBR 試験	JIS A 1222	設計図書による。
			含水比試験	JIS A 1203	
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -273	
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [4] -284 (ハンゲルマンビーム)	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
路床仕上げ跡全幅、全区間について実施する。ただし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	
各車線ごとに延長 40m について 1ヶ所の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
各車線ごとに延長 40m について 1 回の割で行う。	/	
路体の場合、1,000m ³ につき 1 回の割合で行う。ただし、5,000m ³ 未満の工事は、1 工事当たり 3 回以上。 路床の場合、500m ³ につき 1 回の割合で行う。ただし、1,500m ³ 未満の工事は 1 工事当たり 3 回以上。	/	
必要に応じて実施。 (例) トラフィカビリティが悪い時	/	
ブルーフローリングでの不良箇所について実施	/	

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
28 捨石工	施工	必須	岩石見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。
			岩石の吸水率	JIS A 5006	
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 500m³ 以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・ 参考値： <ul style="list-style-type: none"> ・ 硬石：約 2.7g/cm³～2.5g/cm³ ・ 準硬石：約 2.5 g/cm³～2g/cm³ ・ 軟石：約 2g/cm³ 未満 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 500m³ 以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・ 参考値： <ul style="list-style-type: none"> ・ 硬石：5%未満 ・ 準硬石：5%以上 15%未満 ・ 軟石：15%以上 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 500m³ 以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・ 参考値： <ul style="list-style-type: none"> ・ 硬石：4903N/cm² 以上 ・ 準硬石：980.66N/cm² 以上 4903N/cm² 未満 ・ 軟石：980.66N/cm² 未満 	○
5,000m ³ につき 1 回の割で行う。ただし、5,000m ³ 以下のものは 1 工事 2 回実施する。	500m ³ 以下は監督職員承諾を得て省略できる。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
29 コンクリートダム	材料 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用の場合は除く)	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	絶乾密度：2.5 以上 吸水率：[2023 年制定]コンクリート標準示方書ダムコンクリート編による。
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5021	設計図書による。
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第 1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第 2 部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第 3 部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第 4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材-第 5 部: 石灰ガス化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)	○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上		○
		○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
29 コンクリートダム	材料 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103	粗骨材：1.0%以下。ただし、碎石の場合、微粒分量試験で失われるものが碎石粉のときには3.0%以下。 細骨材： ・7.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下、 ・砕砂の場合、微粒分量試験で失われるものが碎石粉であって、粘土、シルトなどを含まないときには9.0%以下。ただし、同様の場合で、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下。
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	40%以下
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回／月以上及び産地が変わった場合。 （山砂の場合は、工事中 1 回／週以上）	/	○
工事開始前、工事中 1 回／月以上及び産地が変わった場合。	/	○
砂、砂利： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 砕砂、碎石： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月および水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回／日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
29 コンクリートダム	製造（ブランク）（JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用の場合は除く）	その他	計量設備の計量精度	/	水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内
			ミキサの練混ぜ性能試験		バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2
				連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
設計図書による。	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	/	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月	/	○
2 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
29 コンクリートダム	施工	必須	塩化物総量規制	コンクリートの耐久性向上仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>コンクリートの打設が午前と午後に来たがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m³以上の場合、50m³ごとに1回の試験を行う。</p> <p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023)または設計図書の規定により行う。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	

工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規 格 値
29 コンクリートダム	施工	必須	単位水量測定	「レディミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」	<p>1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。</p> <p>2) 測定した単位水量が、配合設計±15 を超え±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。</p> <p>なお、「15kg/m³ 以内で安定するまで」とは、2 回連続して 15kg/m³ 以内の値を観測することをいう。</p> <p>3) 配合設計±20kg/m³ の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m³ 以内になるまで全運搬車の測定を行う。</p> <p>なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は 1 回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は 2 回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。</p>

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
100m ³ /日以上の場合： 2回/日（午前1回、午後1回）以上、または重要構造物の場合は重要度に応じて100m ³ ～150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
29 コンクリートダム	施工	必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ 5 cm以上 8 cm未満 : 許容差±1.5 cm スランブ 8 cm以上 18 cm以下 : 許容差±2.5 cm	
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	(a)圧縮強度の試験値が、設計基準強度の 80%を 1/120 以上の確率で下回らない。 (b)圧縮強度の試験値が、設計基準強度を 1/4 以上の確率で下回らない。	
			温度測定 (気温・コンクリート)	温度計による		
	その他			コンクリートの単位容積質量試験	JIS A 1116	設計図書による。
				コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112	
				コンクリートのブリーディング試験	JIS A 1123	
コンクリートの引張強度試験				JIS A 1113		
コンクリートの曲げ強度試験				JIS A 1106		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20m³～150m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m³以上の場合は、50m³ごとに1回の試験を行う。 	
<p>1回3ヶ</p> <p>1.1 ブロック1リフトのコンクリート量500m³未満の場合1ブロック1リフト当たり1回の割で行う。なお、1ブロック1リフトのコンクリート量が150m³以下の場合及び数種のコンクリート配合から構成される場合は監督職員と協議するものとする。</p> <p>2.1 ブロック1リフトコンクリート量500m³以上の場合1ブロック1リフト当たり2回の割で行う。なお、数種のコンクリート配合から構成される場合は監督職員と協議するものとする。</p> <p>3. ピア、埋設物周辺及び減勢工などのコンクリートは、打設日1日につき2回の割で行う。</p> <p>4. 上記に示す基準は、コンクリートの品質が安定した場合の標準を示すものであり、打ち込み初期段階においては、2～3時間に1回の割合で行う。</p>	<p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
1回供試体作成時各ブロック打ち込み開始時終了時。		
1回2ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。	参考値：2.3t/m ³ 以上	
1回 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。		
1回1ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。		
1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。		
1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
30 覆工コンクリート (NATM)	材料 (JIS マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	絶乾密度：2.5 以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・碎石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については適用を参照)
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	碎石 40%以下 砂利 35%以下
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が 58% 以上の場合は 5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 3.0%以下)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第 1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第 2 部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第 3 部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第 4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材-第 5 部: 石灰ガス化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中 1 回/月及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中 1 回/週以上)	/	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
30 覆工コンクリート (NATM)	材料 (JIS マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が 90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の 90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は 30 分以内、終結は 60 分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は 30 分以内、終結は 60 分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。		○
砂、砂利： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中 1 回/月以上		○
		○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中 1 回以上/12 か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は 1 回/日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
30 覆工コンクリート (NATM)	製造 (プレキャスト) (JIS マーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
			ミキサの練混ぜ性能試験	パッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の 偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率：15%以下
				連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回以上/12か月	/	○
工事開始前及び工事中1回以上/12か月		○
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
30 覆工コンクリート (NATM)	施工	必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ 5 cm以上 8 cm未満 : 許容差±1.5 cm スランブ 8 cm以上 18 cm以下 : 許容差±2.5 cm
			単位水量測定	「レディミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15 を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。なお、「15kg/m ³ 以内で安定するまで」とは、2 回連続して 15kg/m ³ 以内の値を観測することをいう。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m ³ 以内になるまで全運搬車の測定を行う。 なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は 1 回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は 2 回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1 回の試験結果は指定した呼び強度の 85%以上であること。 3 回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1 回の試験結果は、3 個の供試体の試験値の平均値)

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回／日以上または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。 	/	
<p>100m³／日以上の場合：</p> <p>2 回／日（午前 1 回、午後 1 回）以上、または重要構造物の場合は重要度に応じて 100m³～150m³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</p>	<p>示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が 20mm～25mm の場合は 175kg/m³、40mm の場合は 165kg/m³ を基本とする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時または、工場出荷時に運搬車から採取した試料 ・1回／日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³～150m³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。なお、テストピースの採取は、1 回につき 6 個（σ 7$\cdot$$\cdot$$\cdot$3 個、$\sigma$ 28$\cdot$$\cdot$$\cdot$3 個）とする。 	/	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
30 覆工コンクリート (NATM)	施工	必須	塩化物総量規制	コンクリートの耐久性向上仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
			コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112	
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm
			テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504-2013	設計基準強度
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>コンクリートの打設が午前と午後またはがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023)または設計図書の規定により行う。</p>	
<p>・荷卸し時 ・1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m³~150m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		
<p>1回 品質に異常が認められる場合に行う。</p>		
<p>本数 総延長 最大ひび割れ幅等</p>	<p>ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する。</p>	
<p>トンネルは11打設部分を単位とし、各単位につき3カ所の調査を実施する。 また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所周辺において、再調査を5カ所実施。 材齢28日~91日の間に試験を行う。</p>	<p>再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。 工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする。</p>	
<p>所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。</p>	<p>コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないように十分検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
31 吹付け コンクリート (NATM)	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	コンクリートの耐久性向上仕様書	同左
		その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリート使用する場合は除く)	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	設計図書による。
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下（ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下） スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外（砂利等） 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下） スラグ細骨材 7.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下） それ以外（砂等） 5.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下）
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに 1 回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに 1 回。		
		○
		○
		○
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに 1 回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに 1 回。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
31 吹付け コンクリート (NATM)	材料	その他 (JISマーク表示されたレディミクス トコンクリート使用 する場合は除く)	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			粗骨材の粒形判定実績率試験	JIS A 5005	55%以上
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	懸濁物質の量：2g/L 以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L 以下 塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308 附属書 JC	塩化物イオン量：200mg/L 以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢 7 及び 28 日で 90%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	/	○
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上	/	○
	/	○
工事開始前、工事中1回以上/12か月及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前、工事中1回以上/12か月及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	その原水は上水道及び上水道以外の水の規定に適合するものとする。	○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
31 吹付け コンクリート (NATM)	製造 (テラント) (JIS マーク表示されたレディミクスト コンクリート使用する場合を除く)	その他	計量設備の計量精度	/	水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
		ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2		コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の 偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率：15%以下
			連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3 cm以下	
		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による。	
		粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
工事開始前、工事中 1 回/6 ヶ月以上	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中 1 回以上/12 か月		○
2 回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1 回/日以上		○

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
31 吹付け コンクリート (NATM)	施 工	必 須	塩化物総量規制	コンクリートの耐 久性向上仕様書	原則 0.3 kg/m ³ 以下
			コンクリートの圧 縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE-F 561-2023	1回の試験結果は指定した呼び強 度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定 した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体 の試験値の平均値)
	そ の 他		吹付けコンクリ ートの初期強度（引 抜きせん断強度）	引抜き方法による 吹付けコンクリ ートの初期強度試験 方法（JSCE-G561- 2010）	1日強度で5N/mm ² 以上
			スランブ試験	JIS A 1101	スランブ 5 cm以上 8 cm未満 : 許容 差±1.5 cm スランブ 8 cm以上 18 cm以下 : 許容 差±2.5 cm
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）
			コアによる強度試 験	JIS A 1107	設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>コンクリート打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。 (1 試験の測定回数は3回とする) 試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2023, 503-2023) または設計図書の規定により行う。</p>	
<p>トンネル施工長 40m 毎に 1 回 材齢 7 日, 28 日 (2×3=6 供試体) なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付け、現場で 7 日間及び 28 日間放置後、φ5 cm のコアを切り取りキャッピングを行う。1 回に 6 本 (σ7…3 本、σ28…3 本、) とする。</p>		
<p>トンネル施工長 40m ごとに 1 回</p>		
<p>・荷卸し時 ・1 回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20m³~150m³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>・荷卸し時 ・1 回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~150m³ ごとに 1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		

工 種	種 別	試 験 区 分	試 験 項 目	試 験 方 法	規 格 値
32 ロック ボルト (NATM)	材 料	そ の 他	外観検査（ロックボルト）	・目視 ・寸法計測	設計図書による。
			施 工	必 須	モルタルの圧縮強度試験
	モルタルのフロー値試験	JIS R 5201			設計図書による。
	ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による			

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
材質は製造会社の試験による。		○
1) 施工開始前に1回 2) 施工中は、トンネル施工延長 50m ごとに1回 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回		
1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回		
掘削の初期段階は 20m ごとに、その後は 50m ごとに実施、1 断面当たり 3 本均等に行う（ただし、坑口部では両側壁各 1 本）。		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
33 路上再生路盤工	材料	必須	修正 CBR 試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	修正 CBR20%以上
			土の粒度試験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照表-3.2.9 路上で破砕した路盤再生骨材の目標粒度範囲による。
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数 PI : 9 以下
	その他		セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上、3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上、1,000m³ 未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	
当初及び材料の変化時		
工事開始前、工事中 1 回/月以上		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
33 路上再生路盤工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法 便覧 [4]-256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大 粒径が 53mm 以下の 場合のみ適用でき る。	基準密度の 93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上
			土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-133	設計図書による。
			CAE の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-135	
			含水比試験	JIS A 1203	
34 路上表層再生工	材料	必須	旧アスファルト針 入度	JIS K 2207	
			旧アスファルトの 軟化点	JIS K 2207	
			既設表層混合物の 密度試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-218	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000 m³を超える場合は、10,000 m³以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。</p> <p>(例)</p> <p>3,001～10,000 m³ : 10孔</p> <p>10,000 m³以上の場合、10,000 m³毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば12,000 m³の場合： 6,000 m³/1ロット毎に10孔、合計20孔</p> <p>なお、1工事あたり3,000 m³以下の場合（維持工事を除く）は、1工事あたり3孔以上で測定する。</p>	<p>CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。</p>	
<p>当初及び材料の変化時</p>		
<p>1～2回/日</p>		
<p>当初及び材料の変化時</p>	<p>十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合には、それらを用いてもよい。</p>	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
34 路上表層再生工	施工	必須	既設表層混合物の最大比重試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-309	
			既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-318	
			既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-16	
			新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	同左
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の96%以上 X10 98%以上 X6 98%以上 X3 98.5%以上
			温度測定	温度計による	110℃以上
			かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」	-0.7cm 以内

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合には、それらを用いてもよい。	○
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の 96%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10 孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。また、10 孔の測定値が得がたい場合は 3 孔の測定値の平均値 X3 が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1 工事あたり 3,000 m³を超える場合は、10,000 m³以下を 1 ロットとし、1 ロットあたり 10 孔で測定する。</p> <p>(例)</p> <p>3,001～10,000 m³ : 10 孔</p> <p>10,000 m³以上の場合、10,000 m³毎に 10 孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。</p> <p>例えば 12,000 m³の場合 :</p> <p>6,000 m³/1 ロット毎に 10 孔、合計 20 孔</p> <p>なお、1 工事あたり 3,000 m³以下の場合 (維持工事を除く) は、1 工事あたり 3 孔以上で測定する。</p>	空隙率による管理でもよい。	
随時	測定値の記録は、1 日 4 回 (午前・午後各 2 回)	
1,000m ² 毎		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
34 路上表層再生工	材料	その他	粒度 (2.36mm フルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-16	2.36mm ふるい : ±12%以内
			粒度 (75 μ m フルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-16	75 μ m ふるい : ±5%以内
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-318	アスファルト量 : ±0.9%以内
35 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「舗装施工便覧」3-3-2(3)による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	碎石・玉砕、製鋼スラグ (SS) 表乾比重 : 2.45 以上 吸水率 : 3.0%以下
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量 : 0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-51	細長、あるいは偏平な石片 : 10%以下
			フィラー (舗装用石灰石粉) の粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」3-3-2(4)による。
			フィラー (舗装用石灰石粉) の水分試験	JIS A 5008	1%以下

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	<p style="text-align: center;">○</p>

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
35 排水性 舗装工・透 水性舗装工	材料	その他	ファイラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4 以下
			ファイラーのフロー試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-83	50%以下
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-94	水浸膨張比：2.0%以下
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	碎石・玉砕、製鋼スラグ (SS) : 30%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下
			針入度試験	JIS K 2207	40(1/10mm)以上
			軟化点試験	JIS K 2207	80.0℃以上
			伸度試験	JIS K 2207	50cm 以上 (15℃)
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	260℃以上
			薄膜加熱質量変化率	JIS K 2207	0.6%以下
			薄膜加熱針入度残留率	JIS K 2207	65%以上
			タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-289	タフネス：20N・m
			密度試験	JIS K 2207	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<p>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。</p> <p>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満</p> <p>②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満)</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの</p>	○
		○
		○
		○
		○
		○
		○
		○
		○
		○
		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
35 排水性 舗装工・透 水性舗装工	プ ラ ン ト	必 須	粒度 (2.36mm フルイ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	2.36mm ふるい：±12%以内基準粒度
			粒度 (75 μ m フルイ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	75 μ m ふるい：±5%以内基準粒度
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-318	アスファルト量：±0.9%以内
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	配合設計で決定した混合温度。
	そ の 他		水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-65	設計図書による。
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-44	
			ラベリング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-18	
			カンタプロ試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-110	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：定期的または随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000m² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> ①施工面積で 1,000m² 以上 10,000m² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が 500t 以上 3,000 t 未満(コンクリートでは 400m³ 以上 1,000m³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が 100t 以上のもの	○ ○ ○
随時		○
設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離動性の確認	○
	アスファルト混合物の耐流動性の確認	○
	アスファルト混合物の耐摩耗性の確認	○
	アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	○

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
35 排水性 舗装工・透 水性舗装工	舗設現場	必須	温度測定（初転圧前）	温度計による	
			現場透水試験	舗装調査・試験法便覧 [1]-154	X10 1000mL/15sec 以上 X10 300mL/15sec 以上(歩道箇所)
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-224	基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上 歩道箇所：設計図書による。
			外観検査（混合物）	目視	

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	
1,000m ² 毎		
<p>・ 締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・ 締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・ 1工事あたり3,000 m²を超える場合は、10,000 m²以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。</p> <p>（例） 3,001～10,000 m² : 10孔 10,000 m²以上の場合、10,000 m²毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。 例えば12,000 m²の場合： 6,000 m²/1ロット毎に10孔、合計20孔</p> <p>なお、1工事あたり3,000 m²以下の場合（維持工事を除く）は、1工事あたり3孔以上で測定する。</p>		
随時		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
36 プラント再生舗装工	材料	必須	再生骨材 アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	/	
			再生骨材 旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法 便覧 [4]-318		3.8%以上
			再生骨材 旧アスファルト針入度	マーシャル安定度 試験による再生骨材の旧アスファルト性状判定方法		20(1/10mm)以上 (25℃)
			再生骨材 洗い試験で失われる量	舗装再生便覧		5%以下
			再生アスファルト混合物	JIS K 2207		JIS K 2207 石油アスファルト規格
			粒度 (2.36mm フライ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16		2.36mm ふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。
粒度 (75μm フライ)	舗装調査・試験法 便覧 [2]-16	75μm ふるい：±5%以内 再アス処理の場合、75μm：±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。				
再生アスファルト量	舗装調査・試験法 便覧 [4]-318	アスファルト量：±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファルト量：±1.2%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。				

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
再生骨材使用量 500 t ごとに 1 回		○
再生骨材使用量 500 t ごとに 1 回		○
再生混合物製造日ごとに 1 回。 1 日の再生骨材使用量が 500 t を超える場合は 2 回。 1 日の再生骨材使用量が 100 t 未満の場合は、再生骨材を使用しない日を除いて 2 日に 1 回とする。		○
再生骨材使用量 500 t ごとに 1 回	洗い試験で失われる量とは、試料のアスファルトコンクリート再生骨材の水洗前の 75 μm ふるいにとどまるものと、水洗後の 75 μm ふるいにとどまるものを気乾もしくは 60℃以下の炉乾燥し、その質量の差からもとめる。	○
2 回以上及び材料の変化した時		○
抽出ふるい分け試験の場合：1～2 回／日 ・中規模以上の工事：定期的または随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められるとき。 印字記録の場合：全数		○
		○
		○

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
36 プラント再生舗装工	その他		水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-65	設計図書による。	
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-44		
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-18		
	舗設現場	必須		外観検査（混合物）	目視	
				温度測定（初転圧前）	温度計による	
				現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上 再アス処理の場合、基準密度の93%以上 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
同左	耐水性の確認	○
	耐流動性の確認	○
	耐摩耗性の確認	○
随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	
<p>・ 締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上（再アス処理の場合は基準密度の93%以上）を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・ 締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・ 1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。</p> <p>（例） 3,001～10,000㎡：10孔 10,000㎡以上の場合、10,000㎡毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合： 6,000㎡/1ロット毎に10孔、合計20孔</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合（維持工事を除く）は、1工事あたり3孔以上で測定する。</p>		

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
37 工場製作工 (鋼橋用鋼材)	材料	必須	外観・規格 (主部材)	現物照合、帳票 確認	JISによる	
			機械検査(JIS マーク表示品以外かつ ミルシート照合不可な主部材)	JISによる		
			外観検査 (付属部材)	目視及び計測		
38 ガス切断工	施工	必須	表面粗さ	目視	主要部材の最大表面粗さ 50 μ m 以下 二次部材の最大表面粗さ 100 μ m 以下 (ただし、切削による場合は 50 μ m 以下)	
			ノッチ深さ	・目視 ・計測	主要部材：ノッチがあってはならない 二次部材：1mm 以下	
			スラグ	目視	塊状のスラグが点在し、付着しているが、痕跡を残さず容易にはく離するもの。	
			上縁の溶け	目視	わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のもの。	
	その他			平面度	目視	設計図書による。(日本溶接協会規格「ガス切断面の品質基準」に基づく)
				ベベル精度	計測器による計測	
				真直度		

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
現物とミルシートの整合性が確認できること。 規格、品質がミルシートで確認できること。		○
JISによる	試験対象とする材料は監督職員と協議のうえ選定する。	
	最大表面粗さとは、JIS B 0601 (2013) に規定する最大高さ粗さ RZ とする。	
	ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示す。	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
39 溶接工	施工	必須	引張試験：開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。
			型曲げ試験（19mm未満裏曲げ）（19mm以上側曲げ）：開先溶接	JIS Z 3122	亀裂が生じてはならない。ただし、亀裂の発生原因がブローホールまたはスラグ巻き込みであることが確認され、かつ、亀裂の長さが 3mm 以下の場合は許容するものとする。
			衝撃試験：開先溶接	JIS Z 2242	溶着金属及び溶接熱影響部で母材の要求値以上（それぞれの 3 個の平均値）。
			マクロ試験：開先溶接	JIS G 0553 に準じる。	欠陥があつてはならない。
			非破壊試験：開先溶接	「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.6 外部きず検査 20.8.7 内部きず検査の規定による	同左

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
試験片の形状：JIS Z 3121 1号 試験片の個数：2	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.4 溶接施工法図-20.8.1 開先溶接試験溶接方法による。	○
試験片の形状：JIS Z 3122 試験片の個数：2	・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○
試験片の形状：JIS Z 2242 Vノッチ 試験片の採取位置：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.4 溶接施工法 図-20.8.2 衝撃試験片 試験片の個数：各部位につき3		○
試験片の個数：1		○
試験片の個数：試験片継手全長	<p>・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.4 溶接施工法図-20.8.1 開先溶接試験溶接方法による。</p> <p>・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。</p> <p>(非破壊試験を行う者の資格)</p> <p>・磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応した JIS Z 2305 (非破壊試験—技術者の資格及び認証) に規定するレベル 2 以上の資格を有していなければならない。</p> <p>・放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験におけるレベル 2 以上の資格とする。</p> <p>・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル 3 の資格とする。</p> <p>・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル 2 以上の資格とする。</p>	○

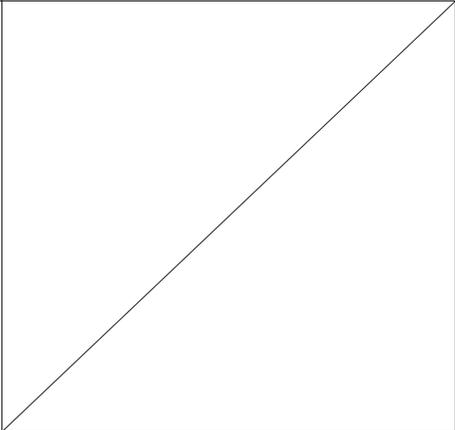
工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
39 溶接工	施工	必須	マクロ試験：すみ肉溶接	JIS G 0553 に準じる。	欠陥があつてはならない。
			引張試験：スタッド溶接	JIS Z 2241	降伏点は 235N/mm ² 以上、引張強さは 400～550N/mm ² 、伸びは 20%以上とする。ただし溶接で切れてはいけない。
			曲げ試験：スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。
			突合せ溶接継手の内部欠陥に対する検査	JIS Z 3104 JIS Z 3060	試験で検出されたきず寸法は、設計上許容される寸法以下でなければならない。 ただし、寸法によらず表面に開口した割れ等の面状きずはあつてはならない。 なお、放射線透過試験による場合において、板厚が 25mm 以下の試験の結果については、以下を満たす場合には合格としてよい。 ・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104 付属書 4 (透過写真によるきずの像の分類方法) に示す 2 類以上とする。 ・圧縮応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104 付属書 4 (透過写真によるきずの像の分類方法) に示す 3 類以上とする。
			外観検査 (割れ)	・目視	あつてはならない。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
試験片の形状：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.4 溶接施工法 図-20.8.3 すみ肉溶接試験（マクロ試験）溶接方法及び試験片の形状 試験片の個数：1	<ul style="list-style-type: none"> 溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.4 溶接 図-20.8.3 すみ肉溶接試験（マクロ試験）溶接方法および試験片の形状による。 なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略することができる。 	○
試験片の形状：JIS B 1198 試験片の個数：3	なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略することができる。	○
試験片の形状：JIS Z 3145 試験片の個数：3		○
放射線透過試験の場合は JIS Z 3104 による。 超音波探傷試験（手探傷）の場合は JIS Z 3060 による。	<ul style="list-style-type: none"> 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 表一解 20.8.6 及び表一解 20.8.7 に各継手の強度等級を満たす上での内部きず寸法の許容値が示されている。なお、表一解 20.8.6 及び表一解 20.8.7 に示されていない強度等級を低減させた場合などの継手の内部きず寸法の許容値は、「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 8.3.2 継手の強度等級に示されている。 （非破壊試験を行う者の資格） 放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験におけるレベル 2 以上の資格とする。 超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル 3 の資格とする。 手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル 2 以上の資格とする。 	○
検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延長実施する。ただし、判定が困難な場合は、磁粉探傷試験または浸透波探傷試験を用いる。	<ul style="list-style-type: none"> 磁粉探傷試験または浸透波探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応した JIS Z 2305（非破壊試験—技術者の資格及び認証）に規定するレベル 2 以上の資格を有していないといけない。 	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
39 溶接工	施工	必須	外観形状検査（ビード表面のビット）	・目視及びノギス等による計測	断面に考慮する突合せ溶接継手、十字溶接継手、T溶接継手、角溶接継手には、ビード表面にビットがあってはならない。その他のすみ肉溶接及び部分溶込み開先溶接には、1 継手につき 3 個または継手長さ 1m につき 3 個までを許容するものとする。 ただし、ビットの大きさが 1mm 以下の場合には、3 個を 1 個として計算するものとする。
			外観形状検査（ビード表面の凹凸）	・目視及びノギス等による計測	ビード表面の凹凸は、ビード長さ 25mm の範囲で 3mm 以下。
			外観形状検査（アンダーカット）	・目視及びノギス等による計測	「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 20.8.6 外部きず検査の規定による
			外観検査（オーバーラップ）	・目視	あってはならない。
			外観形状検査（すみ肉溶接サイズ）	・目視及びノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ肉サイズ及びのど厚を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の両端各 50mm を除く部分では、溶接長さの 10% までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに -1.0mm の誤差を認めるものとする。
			外観形状検査（余盛高さ）	・目視及びノギス等による計測	設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない開先溶接は、以下に示す範囲内の余盛りは仕上げなくてよい。余盛高さが以下に示す値を超える場合は、ビード形状、特に止端部を滑らかに仕上げるものとする。 ビード幅 (B[mm]) 余盛高さ (h[mm]) $B < 15 : h \leq 3$ $15 \leq B < 25 : h \leq 4$ $25 \leq B : h \leq (4/25) \cdot B$

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	/	
検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	<p>・「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編 表-解 20.8.4 及び表-解 20.8.5 に各継手の強度等級を満たす上でのアンダーカットの許容値が示されている。表-解 20.8.4 及び表-解 20.8.5 に示されていない継手のアンダーカットの許容値は、「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編 8.3.2 継手の強度等級に示されている。</p>	
検査体制、検査方法を明確にした上で、目視検査する。	/	
検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	/	
/	/	

工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規 格 値
39 溶接工	施工	必須	外観検査（アークスタッド）	・目視及びノギス等による計測	<ul style="list-style-type: none"> ・余盛り形状の不整：余盛りは全周にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ1mm、幅0.5mm以上 ・割れ及びスラグ巻込み：あつてはならない。 ・アンダーカット：鋭い切欠状のアンダーカットがあつてはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が0.5mm以内に納まるものは仕上げで合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ：（設計値±2mm）を超えてはならない。
		その他	ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	割れ等などの欠陥を生じないものを合格。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
<p>検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。</p>		
<p>外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から1%について抜取り曲げ検査を行なうものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・余盛が包圍していないスタッドジベルは、その方向と反対の 15° の角度まで曲げるものとする。 ・15° 曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すことなく、曲げたままにしておくものとする。 	

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値	
40 中層混合処理 ※全面改良の場合に適用。混合処理改良体（コラム）を造成する工法には適用しない	材料	必須	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による	
			土の湿潤密度試験	JIS A 1225		
			テーブルフロー試験	JIS R 5201		
			土の一軸圧縮試験（改良体の強度）	JIS A 1216		
			その他	土粒子の密度試験		JIS A 1202
				土の粒度試験		JIS A 1204
				土の液性限界・塑性限界試験		JIS A 1205
				土の一軸圧縮試験		JIS A 1216
				土の圧密試験		JIS A 1217
				土懸濁液の pH 試験		JGS 0211
	土の強熱減量試験	JGS 0221				
	施工	必須	深度方向の品質確保（均質性）	試料採取器またはボーリングコアの目視確認		採取した試料のフェノールフタレイン反応試験による均質性の目視確認
			土の一軸圧縮試験（改良体の強度）	JIS A 1216		①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したもの

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。	
土質の変化したとき必要に応じて実施する。		
有機質土の場合は必要に応じて実施する。		
1,000m ³ ～4,000m ³ につき1回の割合で行う。 試料採取器またはボーリングコアで採取された改良体上、中、下において連続されて改良されていることをフェノールフタレイン反応試験により均質性を目視確認する。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督員の指示による。	1. 実施頻度は、監督職員との協議による。 2. ボーリング等により供試体を採取する。	
1,000m ³ ～4,000m ³ につき1回の割合で行う。 試験は改良体について上、中、下それぞれ1供試体で1回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督員の指示による。	実施頻度は、監督職員との協議による。	

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規 格 値
41 鉄筋挿入工	材料	必須	品質検査 (芯材・ナット・プレート等)	ミルシート	設計図書による。
			定着材のフロー値試験	JSCE-F521-2018	9～22 秒
		その他	外観検査 (芯材・ナット・プレート等)	・目視 ・寸法計測	設計図書による。
			必須	圧縮強度試験	JIS A 1108
	施工	必須	引き抜き試験 (受け入れ試験) 引き抜き試験 (適合性試験)	地山補強土工法設計・施工マニュアル	設計図書による。
		その他	適合性試験		設計図書による。

試験基準	摘要	試験成績表等による確認
材料入荷時		○
<p>施工開始前 1 回および定着材の材料や配合変更時に実施。1 回の試験は測定を 2 回行い、測定値の平均をフロー値とする。</p>	<p>定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合</p>	
材料入荷時		
<p>施工開始前 1 回および施工日ごと 1 回 (3 本/回)</p>	<p>定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・施工全数量の 3%かつ 3 本以上を標準とする。 ・載荷サイクルは 1 サイクルとする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・地層ごとに 3 本以上を標準とする。 ・載荷サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は、5.0kN もしくは計画最大荷重の 0.1 倍程度とする。 		

港湾編・港湾海岸編

凡例

共：共通仕様書

特：図面及び特記仕様書

1. 石材等

1-1 砂

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 敷砂 2) 改良杭材 3) 置換材	材質	外観	観察
		種類、品質及び粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		シルト以下の細粒含有率	特による。
4) 中詰砂	材質	種類	観察
		外観	観察
		最大粒径 単位体積重量	観察 特による。
5) 載荷材	材質	外観	観察
		種類、品質及び粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		単位体積重量	特による。

1-2 砂利・碎石

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 碎石	材質	外観	観察
		粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		比重	JIS A 1110
		吸水量	JIS A 1110

1-3 石

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 石	材質	外観	観察
		石の種類 比重	観察 JIS A 5006
		規定外質量の比率	観察

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特 による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表を提出	
特 による。	施工中適宜		
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	湿潤または飽和状態の材料について単位体積重量を確認する。
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特 またはJIS の規定による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	
特 による。	搬入前、採取地毎に1回	試験成績表を提出	湿潤または飽和状態の材料について単位体積重量を確認する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特 による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	
特 による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	
特 による。	搬入前産地毎に1回	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第11編 2-3-4による。	施工中適宜		
特 による。	施工中適宜		
特 による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	石質の変化がない場合は1年以内の試験成績表とする。
特 及びJIS A 5006による。	施工中適宜		

2. 鋼 材

2-1 鋼矢板及び鋼杭

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 鋼矢板	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 観 察
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	
2) 鋼管矢板	本体の化学 成分、機械 的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	
3) 鋼管杭	本体の化学 成分、機械 的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時、全数		
JIS A 5523 JIS A 5528	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5530	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5530	搬入時、全数		
JIS A 5530	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	工場出荷時の測定表を含む
特 による。	特 による。	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5525	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5525	搬入時、全数		
JIS A 5525	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	工場出荷時の測定表を含む
特 による。	特 による。	試験成績表（検査証明書）を提出	

2-1 鋼矢板及び鋼杭

区分	管理項目	管理内容	管理方法
4) H形鋼杭	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 観 察
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 JIS Z 3104 放射線透過試験
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	

2-2 鋼板及び形鋼等

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 鋼板、形鋼等	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 観 察
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確認

2-3 棒 鋼

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 普通棒鋼	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 により確認
			JIS G 3112 または JIS G 3101 公的機関の試験成績表により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察
2) 異形棒鋼	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認
			JIS G 3112 公的機関の試験成績表により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察
	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS A 5526	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS A 5526	搬入時、全数		
JIS A 5526	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表（検査証明書）を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS G 3101	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS G 3101	搬入時、全数または 結束毎		
JIS G 3192 JIS G 3193 JIS G 3194	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117		試験成績表を提出	製造工場の試験成績表により確認できない場合
JIS G 3112 JIS G 3101 JIS G 3117	搬入時、全数または 結束毎		
JIS G 3191 JIS G 3117	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS G 3112 JIS G 3117	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS G 3112 JIS G 3117		試験成績表を提出	製造工場の試験成績表により確認できない場合
JIS G 3112 JIS G 3117	搬入時、全数または 結束毎		
JIS G 3191 JIS G 3117	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	

2-4 控 工

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 腹起し			
2) タイロッド	本体・附属品の化学成分、機械的性質	（一般構造用圧延鋼材の場合）JIS に適合していること。 （高張力鋼材の場合）機械的性質は 共 11-2-6-5に、化学成分は 特 及び承諾した規格に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認 製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認
	組立引張試験	特 に適合していること。	特 による。
3) タイワイヤー	本体・附属品の化学成分、機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認
	被覆材	特 の規格に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認
	組立品引張試験	特 に適合していること。	特 による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			2-2鋼板及び形鋼等を適用する。
JIS G 3101	ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
機械的性質は 共 表11-2-1、化学成分は 特 及び承諾した規格とする。	ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
異常が認められないこと。	搬入時、全数		
監督職員が承諾した図面	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表を提出	
JIS G 3502 JIS G 3536 JIS G 3506 JIS G 3521	ロット毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
JIS K 6922-2	ロット毎	試験成績表を提出	
異常が認められないこと。	搬入時、全数		
監督職員が承諾した図面	搬入時	試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表を提出	

3. 芝・樹木等

3-1 芝及び種子

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 芝	土	性状が生育に適していること。	特 または試験成績表により確認
	芝	種類、品質が 特 に適合していること。	品質等証明書により確認
	肥 料	種類、品質及び配合が 特 に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認。配合は 特 による。
2) 種 子 3) 播 種	土	性状が生育に適していること。	特 または試験成績表により確認
	種 子	種類、品質及び配合が 特 に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認。配合は 特 による。
	肥 料	種類、品質及び配合が 特 に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認。配合は 特 による。
	土壌改良剤、養生剤	種類、品質が 特 に適合していること。	品質等証明書により確認

3-2 植木等

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 樹 木 2) つる性植物 3) 竹	土	性状が生育に適していること。	特 または試験成績表により確認
	樹 木	種類、品質が 特 に適合していること。	特 による。
	肥 料	種類、品質及び配合が 特 に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は 特 による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第11編 2-10-1または 特 による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
共 第11編 2-10-2または 特 による。	産地毎に1回	品質等証明書を提出	
特 による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
共 第11編 2-10-1または 特 による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
特 による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
特 による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	
特 による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第11編 2-10-1または 特 による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
共 第11編 2-10-3または 特 による。	種類毎に搬入後適宜	品質等証明書を提出	
特 による。	種類毎に1回	品質等証明書を提出	

4. 防食材料

4-1 アルミニウム合金陽極

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 電気防食陽極	陽極の種類	承諾した品質に適合していること。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認
	化学成分		
	形状寸法	承諾図等の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認
	質 量	承諾した品質に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認計量器により測定
	陽極性能	陽極電位(閉路電位)	製造工場の試験成績表により確認
発生電気量		製造工場の試験成績表により確認	

4-2 防食塗装

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 塗装材	材 質	種 類	観 察
		品 質	特 による。

4-3 被覆防食材料

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) モルタル被覆	材 質	種 類	観 察
		品 質	特 による。
2) 保護カバー	材 質	種 類	観 察
		品 質	特 による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
監督職員が承諾した 図面	搬入前	試験成績表（検査 証明書）を提出	
監督職員が承諾した 図面 各陽極の形状寸法の 許容範囲は5%以内と する。	搬入前 陽極長さ：全数 陽極断面：製品1か ら5番目までの5個	工場の測定表を提 出	
各陽極の質量の許容 範囲は2%以内とし取 付総質量は陽極1個の 標準質量の和を下 回ってはならない。 ただし、陽極1個の標 準質量が30kg未満の 陽極質量の許容範囲 は±4%の範囲とす る。	搬入前、全数 搬入時、適宜	工場の測定表を提 出	
-1,050mV以下 (vs飽和 甘こう電極(SCE))	搬入前	試験成績表を提出	
2600A・h/kg以上	搬入前	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査 証明書）を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査 証明書）を提出	
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入時、ロット毎	試験成績表（検査 証明書）を提出	

5. 防舷材

5-1 ゴム防舷材

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ゴム防舷材	材 質	ゴムの物理試験（引張試験、硬さ試験、老化試験等）による材質が 共 第11編 表11-2-2に適合、かつ 共 第11編2-13-1 4.の耐久性試験を行ってもクラックや欠陥がないこと。	製造工場の試験成績表（検査証明書）により確認。 耐久性については、ゴム防舷材耐久性証明事業を実施する機関の証明書により確認。
	性 能	反力及び吸収エネルギー	特 による。 製造工場の試験成績表（検査証明書）により
	外 観	有害な傷等がないこと。	観 察
	形状寸法	長さ、幅、高さ、肉厚（測定可能なもの）、ボルトの穴径及び中心間隔等	製造工場の測定結果表により確認
2) 取付金具	外 観	有害な傷等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	観 察

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第11編 表11-2-2 JIS K 6250 JIS K 6251 JIS K 6253-3 JIS K 6257:1993 JIS K 6269 共第11編2-13-1 4.による。	製造前 ロットに使用した 練りゴムより資料1 セット	試験成績表（検査 証明書）を提出 耐久性について は、ゴム防舷材耐 久性証明事業を実 施する機関の証明 書を提出	
特 による。	搬入前 10本に1本	試験成績表（検査 証明書）を提出	
異常が認められない こと。	搬入時、適宜		
特 及び監督職員が承 諾した詳細図等	搬入前、全数	工場の測定表を提 出	製造工場の測定結果 表により確認。様式 品質5-1は参考。
異常が認められない こと。	搬入時、適宜		
特 及び監督職員が承 諾した詳細図等	搬入時、適宜		

6. 係船柱

6-1 係船柱

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 係船柱	本体・付属品の化学成分、機械的性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認

7. 車止め・縁金物

7-1 車止め・縁金物

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 鋼 製 (縁金物を含む)	本体、被覆材、付属品の化学成分、機械的性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認
	外 観	使用上有害な反り、溶接部の不良箇所等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認
2) その他 (縁金物を含む)	材 質	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認
	外 観	使用上有害な反り等がないこと。	観 察
	形状寸法	特 の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第11編 表2-3	1溶解毎	試験成績表（検査証明書）を提出	
異常が認められないこと。	搬入時、全数		
共 第11編 図5-1～3 及び 共 第11編 表5-1	搬入前、全数	工場の測定表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第11編 表2-4	搬入前	試験成績表（検査証明書）を提出	
異常が認められないこと。	搬入時適宜		
特 による。	搬入前、全数	工場の測定表を提出	
特 による。	搬入前	試験成績表（検査証明書）を提出	
異常が認められないこと。	搬入時適宜		
特 による。	搬入前、全数	工場の測定表を提出	

8. マット

8-1 アスファルトマット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法	
1) アスファルト マット	材 質	合材の配合、合材の強度、アスファルトの針入度、マットの押抜き強度が 特 に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認	
	外 観	補強材の種類は 特 に適合していること。	観 察	
	形状寸法	厚 さ		スチールテープ等で測定
		幅及び長さ		スチールテープ等で測定
2) 摩擦増大用 マット	材 質			
	形状寸法			

8-2 繊維系マット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 繊維系マット	材質及び規格	伸び、引裂、引張強度等が 特 に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認

8-3 合成樹脂系マット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 合成樹脂系 マット	材質及び規格	伸び、引裂、引張強度、比重、耐海水引張強度等が 特 に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認

8-4 ゴムマット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ゴムマット	材質及び規格	硬度、伸び、引裂、引張強度等が 特 に適合していること。	製造工場の試験成績表により確認
2) 摩擦増大用 マット	材 質	特 による。	製造工場の試験成績表により確認
	形状寸法	特 による。	スチールテープ等で測定

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第11編 2-16-1または特による。	1,000m ² に1回	試験成績表及び配合表を提出	
特による。	搬入時、適宜		
特による。	20枚に1枚を2箇所	管理表を作成し提出	
特による。	20枚に1枚を1箇所	管理表を作成し提出	
			8-1-1アスファルトマットを適用する。
			8-1-1アスファルトマットを適用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS L 1908 引裂試験JIS L 1096

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6723 引裂試験JIS K 6252 比重試験JIS K 7112 耐海水試験 JIS K 6773

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6251 引裂試験JIS K 6252
特による。	特による。	試験成績表を提出	
特による。	特による。	管理表を作成し提出	

9. その他

9-1 ペーパードレーン

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ドレーン材	材質	種類	観察
		品質	特による。

9-2 路盤紙

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 路盤紙	材質	種類	観察
		品質	特による。

9-3 防砂目地板

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 防砂目地板	材質	種類	観察
		品質	特による。

9-4 溶接材

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 溶接材	材質	種類	観察
		JISに適合していること。	製造工場の試験成績表により確認
		溶接部の強度	引張及び曲げ
		非破壊試験	JIS Z 3104放射線透過試験の他、特による。 カラーチェック

9-5 ガス切断材

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ガス切断材	材質	種類	観察
		JISに適合していること。	製造工場の試験成績表により確認

9-6 汚濁防止膜

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 汚濁防止膜	材質	種類	観察
		品質	特による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜	試験成績表を提出	
特 による。	搬入前に1回	管理表を作成し提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入前に1回	特 による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入前に1回	特 による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
共 第11編 2-19-4または 特 による。	搬入前に1回	監督職員が指示したとき試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	試験成績表（検査証明書）を提出	
特 による。	特 による。	写真またはフィルムを提出	
特 による。	特 による。	写真を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
共 第11編 2-19-5または 特 による。	搬入前に1回	監督職員が指示したとき試験成績表（検査証明書）を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特 による。	施工中適宜		
特 による。	搬入前に1回	特 による。	

防眩材形状管理表（例）

工事名 _____ 型 式 _____

年 月 日 _____ 現場代理人 _____

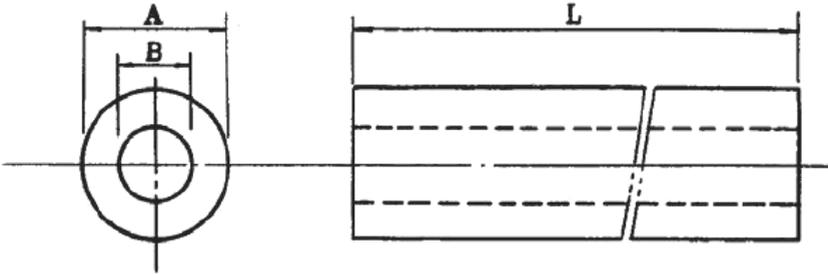
単位 mm

測定箇所	標準寸法	No.	No.	No.	備 考
長 さ	L ₁				
	L ₂				
幅	A				
	B				
高 さ	H				
肉 厚	d1				
底 版 厚	d2				
ボルト穴径	φ				
ボルト穴の 中心間隔	C				
	l				
	l ₁				
	l ₂				
そ の 他					

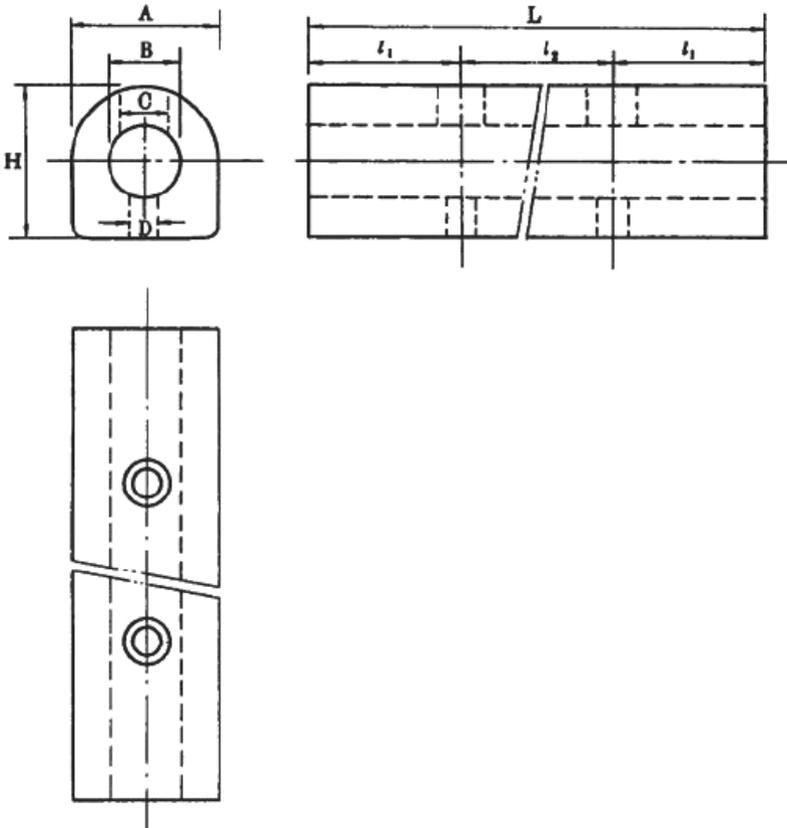
(別紙)

防触材形状測定箇所 (例)

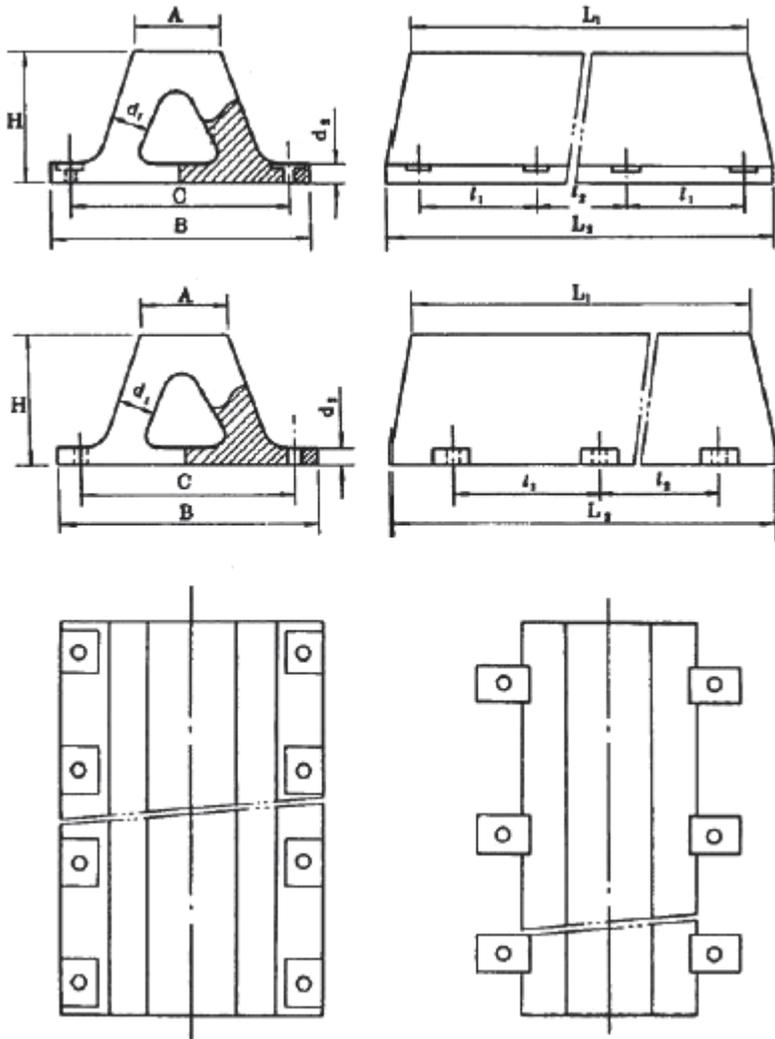
1. 中空円筒形



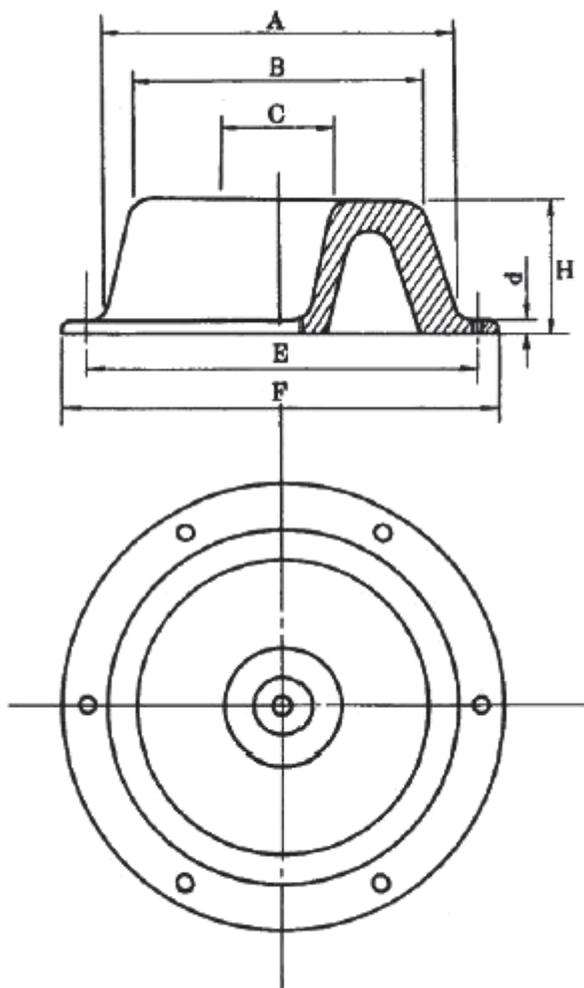
2. D 形



3. V 形



4. サークル形



品質管理

(白紙)

3. 写 真 管 理 基 準

(白紙)

写真管理基準

1.総則

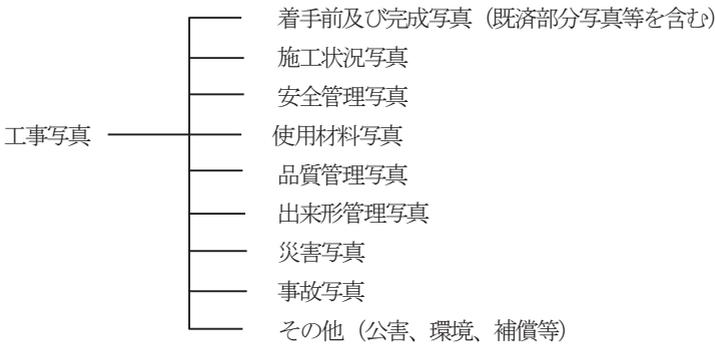
1-1 適用範囲

この写真管理基準は、土木工事施工管理基準に定める土木工事の工事写真による管理（デジタルカメラを使用した撮影～提出）に適用する。

また、写真を映像と読み替えることも可とする。

1-2 工事写真の分類

工事写真は以下のように分類する。



2.撮影

2-1 撮影頻度

工事写真は、撮影箇所一覧表に示す「撮影頻度」に基づき撮影するものとする。

2-2 撮影方法

写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点（位置）
- ④ 設計寸法
- ⑤ 実測寸法
- ⑥ 略 図

小黒板の判読が困難となる場合は、「デジタル写真管理情報基準」に規定する写真情報（写真管理項目-施工管理値）に必要事項を記入し、整理する。

また、特殊な場合で監督職員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影

するものとする。

2-3 情報化施工及び3次元データによる施工管理

「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」による出来形管理を行った場合には、出来形管理写真の撮影頻度及び撮影方法は、写真管理基準のほか、同要領の規定による。

また、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による品質管理を行った場合には、品質管理写真の撮影頻度及び撮影方法は、写真管理基準のほか、同要領の規定による。

2-4 写真の省略

工事写真は以下の場合に省略するものとする。

- (1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
- (2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
- (3) 監督職員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。臨場時の状況写真は不要。

2-5 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、『デジタル工事写真の黒板情報電子化についての一部改訂について』（令和5年3月15日付け、国技建管第6号）に基づく黒板情報電子的記入は、これに当たらない。

2-6 撮影の仕様

写真の色彩やサイズは以下のとおりとする。

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 有効画素数は黒板の文字が判読できることを指標とする。
(100万画素程度～300万画素程度＝1,200×900程度～2,000×1,500程度)
映像と読み替える場合は、以下も追加する。
- (3) 夜間など通常のカメラによる撮影が困難な場合は、赤外線カメラを用いる等確認可能な方法で撮影する。
- (4) フレームレートは、実速度で撮影する場合は、30fps程度を基本とする。
高倍速での視聴を目的とする場合は、監督職員と協議の上、撮影時に必要な間隔でタイムラプス映像を撮影することができる。

2-7 撮影の留意事項等

撮影箇所一覧表の適用について、以下の事項を留意するものとする。

- (1) 「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。
- (2) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、

特に注意して撮影するものとする。

- (3) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図（撮影位置図、平面図、凡例図、構造図など）を参考図として作成する。
- (4) 撮影箇所一覧表に記載のない工種については監督職員と写真管理項目を協議のうえ取り扱いを定めるものとする。

3. 整理提出

撮影箇所一覧表の「撮影頻度」に基づいて撮影した写真原本を電子媒体に格納し、監督職員に提出するものとする。

写真ファイルの整理及び電子媒体への格納方法（各種仕様）は「デジタル写真管理情報基準」に基づくものとする。

4. その他

撮影箇所一覧表の用語の定義

- (1) 適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (2) フィルムカメラを使用した撮影へ提出とする場合、岩手県電子納品ガイドラインに基づく事前協議により、電子納品の対象外とした場合は、「写真管理基準（令和8年4月1日以降適用）」を参考に監督職員と提出頻度等を協議の上、取り扱いを定めるものとする。

撮影箇所一覧表 (全体)

区分		写真管理項目			概要
		撮影項目	撮影頻度 (時期)	提出頻度	
着手前・完成	着手前	全景又は代表部分写真	着手前1回 [着手前]	着手前 1枚	
	完成	全景又は代表部分写真	施工完了後1回 [完成後]	施工完了後 1枚	
施工状況写真	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月1回 [月末]	不要	
		施工中の写真	工種、種別毎に設計図書、施工計画書に従い施工していることが確認できるように適宜 [施工中]	適宜	
			創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認できるように適宜 [施工中]	不要	創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付
	仮設(指定仮設)	使用材料、仮設状況、形状寸法	1 施工箇所につき1回 [施工前後]	代表箇所 1枚	

区分		写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	
施工状況 写真	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	<p>必要に応じて〔発生時〕</p> <p>ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)における空中写真測量(UAV)」による場合は、撮影毎に1回(写真測量に使用したすべての画像)〔発生時〕</p> <p>ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)における地上型レーザースキャナー(TLS)、地上移動体搭載型レーザースキャナー(地上移動体搭載型LS)、無人航空機搭載型レーザースキャナー(UAVレーザー)、TS(ノンブリズム方式)、TS等光波方式、RTK-GNSS)による場合は、計測毎に1回〔発生時〕</p>	工事打合簿に添付する

写真管理基準

区分	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	各種類毎に1回 〔設置後〕	
		各種保安施設の設置状況	各種類毎に1回 〔設置後〕	
		監視員交通整理状況	各1回 〔作業中〕	
		安全訓練等の実施状況	実施毎に1回 〔実施中〕	
使用材料	使用材料	形状寸法 使用数量 保管状況	各品目毎に1回 〔使用前〕	品質証明に添付する
		品質証明 (JISマーク表示)	各品目毎に1回	
		検査実施状況	各品目毎に1回 〔検査時〕	
品質管理		別添 撮影箇所一覧表(品質管理)に準じて撮影		
		不可視部分の施工	適宜	
出来形管理		別添 撮影箇所一覧表(出来形管理)に準じて撮影		
		不可視部分の施工	適宜	
		出来形管理基準が定められてない	監督職員と協議事項	

区分	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	
災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	その都度 〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	
事故	事故報告	事故の状況	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	発生前は付近の写真でも可
補償関係外	補償関係	被害又は損害状況等	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	
	環境対策 イメージ アップ等	各施設設置状況	各種毎に1回 〔設置後〕	

品質管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	
1	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く) (施工)	塩化物総量規制	コンクリートの種類毎に1回 [試験実施中]	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できるもの
		スランプ試験		
		コンクリートの圧縮強度試験		
		空気量測定		
		コンクリートの曲げ強度試験	コンクリートの種類毎に1回 [試験実施中]	コンクリート舗装の場合適用
		コアによる強度試験 コンクリートの洗い分析試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]	
	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く) (施工後試験)	ひび割れ調査 テストハンマーによる強度推定調査	対象構造物毎に1回 [試験実施中]	
		コアによる強度試験	テストハンマー試験により必要が認められた時 [試験実施中]	
5	ガス圧接	外観検査 超音波探傷検査	検査毎に1回 [検査実施中]	
6	既製杭工	外観検査	検査毎に1回 [検査実施中]	
		浸透探傷試験	試験毎に1回 [試験実施中]	
		放射線透過試験		
		超音波探傷試験		
		水セメント比試験 セメントの圧縮強度試験		
7	下層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 [試験実施中]	
		ブルフローリング	路盤毎に1回 [試験実施中]	
		平板載荷試験	各種路盤毎に1回 [試験実施中]	
		骨材のふるい分け試験 土の液性限界・塑性限界試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]	
		含水比試験		
8	上層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 [試験実施中]	
		粒度		
		平板載荷試験 土の液性限界・塑性限界試験	観察により異常が認められた場合 [試験実施中]	
		含水比試験		
9	アスファルト安定処理路盤	アスファルト舗装に準拠		
10	セメント安定処理路盤(施工)	粒度	各種路盤毎に1回 [試験実施中]	
		現場密度の測定 含水比試験	観察により異常が認められた場合 [試験実施中]	
		セメント量試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]	

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	
11	アスファルト舗装 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	
		アスファルト量抽出粒度分析試験		
		温度測定		
		水浸ホイルラッキング試験		
		ホイルラッキング試験		
	テハリング試験			
	アスファルト舗装 (舗設現場)	現場密度の測定	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	
		温度測定		
外觀検査				
すべり抵抗試験				
12	転圧コンクリート (施工)	コンシステンシーVC試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	
		マーシャル突き固め試験		
		ツマー突き固め試験		
		コンクリートの曲げ強度試験	コンクリートの種類毎に1回 〔温度測定中〕	
		温度測定（コンクリート）		
		現場密度の測定	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	
	コアによる密度測定			
13	ガスアスファルト舗装 (プラント)	貫入試験40℃	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	
		リュエル流動性試験240℃		
		ホイルラッキング試験		
		曲げ試験		
		粒度		
	アスファルト量抽出粒度分析試験			
	温度測定			
ガスアスファルト舗装 (舗設現場)	温度測定	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕		
14	路床安定処理工	現場密度の測定	路床每または施工箇所毎に1回 〔試験実施中〕 ただし、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による場合は、写真管理を省略する	
		ブルーフローリング		
		平板載荷試験		
		現場CBR試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕	
		含水比試験		
		たわみ量	ブルーフローリングの不良箇所について実施 〔試験実施中〕	
15	表層安定処理工 (表層混合処理)	含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕	
		現場密度の測定		
	ブルーフローリング	工種毎に1回 〔試験実施中〕		
	平板載荷試験		材質毎に1回 〔試験実施中〕	
	現場CBR試験			
	たわみ量	ブルーフローリングの不良箇所について実施 〔試験実施中〕		

品質管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要	
		撮影項目	撮影頻度 [時期]		
16	固結工	土の一軸圧縮試験	材質毎に1回 [試験実施中]		
17	アンカー工	モルタルのフロー値試験	適宜 [試験実施中]		
		モルタルの圧縮強度試験			
		多サイクル確認試験			
		1サイクル確認試験			
18	補強土壁工	現場密度の測定	土質毎に1回 [試験実施中] ただし、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による場合は、写真管理を省略する		
19	吹付工（施工）	塩化物総量規制	配合毎に1回 [試験実施中]		
		コンクリートの圧縮強度試験			
		スランプ試験	品質に変化がみられた場合 [試験実施中]		モルタルを除く
		空気量測定 コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]		
20	現場吹付法砕工	コンクリートの圧縮強度試験	配合毎に1回 [試験実施中]		
		塩化物総量規制			
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]		
		スランプ試験	品質に変化がみられた場合 [試験実施中]		モルタルを除く
		空気量測定			
		ロックボルトの引抜き試験	試験毎に1回 [試験実施中]		
21 22	河川海岸土工（施工）	現場密度の測定	土質毎に1回 [試験実施中] ただし、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による場合は、写真管理を省略する		
		土の含水比試験	含水比に変化が認められた場合		
		コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い場合		
23	砂防土工	現場密度の測定	土質毎に1回 [試験実施中] ただし、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による場合は、写真管理を省略する		

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要	
		撮影項目	撮影頻度 [時期]		
24	道路土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 [試験実施中] ただし、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による場合は、写真管理を省略する		
		ブルーローリング*	工種毎に1回 [試験実施中]		
		平板載荷試験	土質毎に1回		
		現場CBR試験	[試験実施中]		
		含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 [試験実施中]		
		コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い場合		
		たわみ量	ブルーローリング*の不良箇所について実施 [試験実施中]		
25	捨石工	岩石の見掛比重	産地又は岩質毎に1回 [試験実施中]		
		岩石の吸水率			
		岩石の圧縮強さ			
		岩石の形状			
26	コンクリートダム(材料)	アルカリ骨材反応対策	採取地毎に1回 [試験実施中]		
		骨材の密度及び吸水率試験			
		骨材のふるい分け試験			
		砂の有機不純物試験			砂質毎に1回 [試験実施中]
		モルタルの圧縮強度による砂の試験			[試験実施中]
		骨材の微粒分量試験			骨材毎に1回 [試験実施中]
		粗骨材中の軟石量試験			
		骨材中の粘土塊量の試験			
		硫酸トリカミによる骨材の安定性試験			
		粗骨材のすりへり試験			
	骨材中の比重1.95の液体に浮く粒子の試験				
	練り混ぜ水の水質試験				
	コンクリートダム(施工)	塩化物総量規制	配合毎に1回 [試験実施中]		
		スランプ試験	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]		
空気量測定		[試験実施中]			
コンクリートの圧縮強度試験		配合毎に1回 [試験実施中]	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できるもの		
温度測定			気温・コンクリート		
コンクリートの単位容積質量試験					
コンクリートの洗い分析試験					
コンクリートのブルーティング*試験					
コンクリートの引張強度試験					
コンクリートの曲げ強度試験					

品質管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	
27	覆工コンクリート (NA TM)	スランブ試験	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]	
		コンクリートの圧縮強度試験	配合毎に1回 [試験実施中]	
		塩化物総量規制	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]	
		空気量測定	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]	
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]	
		コンクリートの洗い分析試験		
28	吹付けコンクリート (NA TM)	塩化物総量規制	配合毎に1回 [試験実施中]	圧縮強度試験 に使用したコン クリートの供試体 が、当該現場 の供試体である ことが確認 できるもの
		コンクリートの圧縮強度試験		
		スランブ試験	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]	
		空気量測定	品質に変化が認められた場合 [試験実施中]	
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 [試験実施中]	
		吹付けコンクリートの初期強度	トンネル施工長40m毎に1回	
29	ロックボルト (NA TM)	モルタルの圧縮強度試験	配合毎に1回 [試験実施中]	
		モルタルのフロー値試験	適宜	
		ロックボルトの引抜き試験		
30	路上再生路盤工 (材料)	修正CBR試験	材料毎に1回 [試験実施中]	
		土の粒度試験		
		土の含水比試験		
		土の液性限界・塑性限界 試験		
	路上再生路盤工 (施工)	現場密度の測定	材料毎に1回 [試験実施中]	
		土の一軸圧縮試験		
		CAEの一軸圧縮試験 含水比試験		
31	路上表層再生工 (材料)	旧アスファルト針入度	材料毎に1回 [試験実施中]	
		旧アスファルトの軟化点		
	路上表層再生工 (施工)	現場密度の測定	材料毎に1回 [試験実施中]	
		温度測定		
		かきほぐし深さ		
		粒度		
		アスファルト量抽出粒度分析試 験		
32	排水性舗装工・ 透水性舗装工 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 [試験実施中]	
		アスファルト量抽出粒度 分析試験		
		温度測定		
		水浸ホイルラッキング試験		
		ホイルラッキング試験		
		ラベリング試験		
		カンタプロ試験		
	排水性舗装工・ 透水性舗装工 (舗設現場)	温度測定	合材の種類毎に1回 [試験実施中]	
		現場透水試験		
		現場密度の測定 外観検査		

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目		摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	
33	プラント再生舗装工（プラント）	粒度	合材の種類毎に1回 [試験実施中]	
		再生アスファルト量		
		水浸ホイルラッキング試験		
		ホイルラッキング試験		
	ヘアリング試験	合材の種類毎に1回 [試験実施中]		
	外観検査			
プラント再生舗装工（舗設現場）	温度測定	[試験実施中]		
	現場密度の測定			
34	工場製作工	外観検査	1橋に1回又は1工事に1回 [現物照合時]	
		在庫品切出	当初の物件で1枚 [切出時] ※他は焼き増し	
		機械試験	1橋に1回又は1工事に1回 [試験実施中]	
35	ガス切断工	表面粗さ	試験毎に1回 [試験実施中]	
		ノッチ深さ		
		スラグ		
		上縁の溶け		
		平面度		
		ベベル精度		
真直度				
36	溶接工	引張試験	試験毎に1回 [試験実施中]	
		型曲げ試験		
		衝撃試験		
		マクロ試験		
		非破壊試験		
		突合せ継手の内部欠陥に対する検査		
		外観検査		
		曲げ試験		
		ハンマー打撃試験	外観検査が不合格となったスタッドジベルについて [試験実施中]	
37	中層混合処理	テーブルフロー試験	適宜 [試験実施中]	
		土の一軸圧縮試験	材料毎に1回 [試験実施中]	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第1編 共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2		掘削工	土質等の判別	地質が変わる毎に1回 【掘削中】	1-2-3-2 ・出来映えの撮影 ・TS等の設置状況と出来形計測対象点上のプリズムの設置状況(プリズムが必要な場合のみ)がわかるように撮影
						法長 ※右のいずれかで撮影する。	200m又は1施工箇所(掘削後) 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」による場合は1工事に1回 【掘削後】	
							「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」における空中写真測量(UAV)に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることが出来る	
2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3			盛土工	巻出し厚	200mに1回 【巻出し時】 「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」における「締固め層厚分布図」を提出する場合は写真不要	1-2-3-3 ・出来映えの撮影 ・TS等の設置状況と出来形計測対象点上のプリズムの設置状況(プリズムが必要な場合のみ)がわかるように撮影
						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1回 【締固め時】	
						法長 幅 ※右のいずれかで撮影する。	200m又は1施工箇所(施工後) 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」による場合は1工事に1回 【掘削後】	
							「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることが出来る	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第1編 共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	厚さ	120m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	1-2-3-4
	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5		法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	120m又は1施工箇所につき1回 〔仕上げ時〕	1-2-3-5
	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6		堤防天端工	厚さ 幅	200mにつき1回 〔施工後〕	1-2-3-6
	2 土工	4 道路土工	2		掘削工	土質等の判別 法長 ※右のいずれかで撮影する。	地質が変わる毎につき1回 〔掘削中〕 200m又は1施工箇所につき1回 〔掘削後〕 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」による場合は1工事に1回 〔掘削後〕 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることができる	1-2-4-2 ・出来映えの撮影 ・TS等の設置状況と出来形計測対象点上のプリズムの設置状況(プリズムが必要な場合のみ)がわかるように撮影

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第1編 共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	巻出し厚	200mに1回 〔巻出し時〕	1-2-4-3
							「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」における「締固め層厚分布図」を提出する場合は写真不要	
						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔締固め時〕	
						法長幅 ※右のいずれかで撮影する。	200m又は1施工箇所1回 〔施工後〕	
						「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」による場合は1工事に1回 〔掘削後〕	・出来映えの撮影 ・TS等の設置状況と出来形計測対象点上のプリズムの設置状況(プリズムが必要な場合のみ)がわかるように撮影	
					「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編多点計測技術(面管理の場合)」に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることが出来る			
	2 土工	4 道路土工	5		法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	200m又は1施工箇所1回 〔仕上げ時〕	1-2-4-5
	3 無筋・鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4	1	組立て	平均間隔	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	1-3-7-4
かぶり						コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)		
	3 無筋・鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4	2	組立て ※新設のコンクリート構造物の内、橋梁上部工事と下部工事	非破壊試験 (電磁誘導法、電磁波レーダ法)	試験毎に1回 〔試験実施中〕	1-3-7-4

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]		
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	根入長	40m又は1施工箇所に1回 〔打込前後〕	3-2-3-4	
						変位	40m又は1施工箇所に1回 〔打込後〕		
						数量	全数量 〔打込後〕		
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	5			縁石工(縁石・アスカーブ)	出来ばえ	1種別毎に1回 〔施工後〕	3-2-3-5
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	6			小型標識工	基礎幅 基礎高さ 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-6
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	7			防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある 場合) 〔施工後〕	3-2-3-7
							パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	1		路側防護柵工(ガードレール)	※基礎幅 ※基礎高さ ※配筋状況	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある 場合) 〔施工後〕	3-2-3-8
							ビーム取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	8	2		路側防護柵工(ガードケーブル)	※基礎幅 ※基礎高さ ※基礎延長	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある 場合) 〔施工後〕	3-2-3-8
ケーブル取付高							1施工箇所に1回 〔施工後〕		
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	9			区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	3-2-3-9	
						出来ばえ	施工日に1回 〔施工前後〕		
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	10			道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-10	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11		コンクリート面塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量〔使用前後〕	3-2-3-11
						素地調整状 況(塗替)	スパン毎、部材別 〔施工前後〕	
						塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	1	プレテンション桁製作工(購 入工) (けた橋)	断面の外形 寸法 橋桁のそり 横方向の曲が り	1スパンに1回 〔製作後〕	3-2-3-12
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	2	プレテンション桁製作工(購 入工) (スラブ橋)	断面の外形 寸法 橋桁のそり 横方向の曲が り	1スパンに1回 〔製作後〕	3-2-3-12
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	13		ポストテンション桁製作工	シーす、PC鋼 材配置状況	桁毎に1回 (打設前)	3-2-3-13
幅(上)							桁毎に1回	
幅(下) 高さ							〔型枠取外後〕	
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14	1	プレキャストセグメント製作工 (購入工)	断面の外形 寸法	1スパンに1回 〔製作後〕	3-2-3-14	
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14	2	プレキャストセグメント主桁組 立工	組立状況	1スパンに1回 〔組立時〕	3-2-3-14	
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	15		PCホロースラブ製作工	シーす、PC鋼 材配置状況	桁毎に1回 (打設前)	3-2-3-15	
						幅 厚さ		桁毎に1回 〔型枠取外後〕
						中詰め及びブ ラウト状況		1スパンに1回 〔施工時〕

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	16	1	PC箱桁製作工	シーす、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	3-2-3-16
						幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕	
						内空幅 内空高さ	桁毎に1回 〔型枠設置後〕	
						中詰め及びブ ラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	16	2	PC押し箱桁製作工	シーす、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	3-2-3-16
						幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕	
内空幅 内空高さ						桁毎に1回 〔型枠設置後〕		
					中詰め及びブ ラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	17		根固めブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	3-2-3-17	
					ブロックの形 状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕		
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	18		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-18	
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	19		捨石工	幅	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-19	
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	22		階段工	幅 高さ 長さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-22	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2	3	24	1	伸縮装置工(ゴムジョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	3-2-3-24
	2	3	24	2	伸縮装置工(鋼製フィンガー ジョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	3-2-3-24
	2	3	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	胴込裏込厚	120m又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	3-2-3-26
						法長	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
	2	3	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	高さ 法長	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-26
	2	3	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 厚さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-27
2	3	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	3-2-3-27	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 [施工中]	3-2-3-28
						※幅 ※高さ	200m又は1施工箇所 に1回 [※印は場所打ちのある場合] [埋戻し前]	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 [埋戻し前]	3-2-3-29
						厚さ 幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 [型枠取外し後]	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	29	2	側溝工 (場所打水路工)	幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 [埋戻し前]	3-2-3-29
						幅 深さ	120m又は1施工箇所 に1回 [埋戻し前]	
	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	30		集水桝工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所 に1回 [型枠取外し後]	3-2-3-30
2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	31		現場塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 [使用前後]	3-2-3-31	
					ケレン状況 (塗替)	スパン毎、部材別 [施工前後]		
					塗装状況	各層毎1スパン に1回 [塗装後]		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 厚さ	40m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	3-2-4-1
						幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 [型枠取外し後]	
						据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	
	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	1	基礎工護岸(現場打)	幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 [型枠取外し後]	3-2-4-3
						据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	
	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	2	基礎工護岸(プレキャスト)	据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	3-2-4-3
偏心量						1施工箇所 に1回 [打込後]		
2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	根入長	1施工箇所 に1回 [打込前]	3-2-4-4	
					数量	全数量 [打込後]		
杭頭処理状 況	1施工箇所 に1回 [処理前、中、後]							
偏心量	1施工箇所 に1回 [打込後]							
2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	根入長(鋼管 杭・掘削心)	1施工箇所 に1回 [打込後]	3-2-4-4	
					根入長(鋼管 杭、ロッド)	1施工箇所 に1回 [打込前]		
数量、杭径(ソ イルセメント柱 径)	全数量 杭頭余盛部の撤去 前、杭頭処理後							
杭頭処理状 況	1施工箇所 に1回 [処理前、中、後]							
2 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	根入長	1施工箇所 に1回 [施工中]	3-2-4-5	
					偏心量	1施工箇所 に1回 [打込後]		
					数量、杭径	全数量 [杭頭余盛部の撤 去前、杭頭処理後]		
					杭頭処理状 況	1施工箇所 に1回 [処理前、中、後]		
					鉄筋組立状 況	1施工箇所 に1回 [組立後]		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	根入長	全数量〔掘削後〕	3-2-4-7
						偏心量	全数量〔施工後〕	
						数量、基礎径		
						ライナープレート設置状況	1施工箇所につき1回〔掘削後〕	
						土質	土質が変わる毎につき1回〔掘削中〕	
	鉄筋組立状況	全数量〔組立後〕						
	2 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	沓	1基につき1回〔据付後〕	3-2-4-7
						ケーソンの長さ	1ロットにつき1回〔設置後及び型枠取外し後〕	
						ケーソンの幅		
						ケーソンの高さ		
						ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況		
	載荷状況	1基につき1回〔載荷時〕						
封鎖コンクリート	1基につき1回〔施工時〕							
打設状況								
中埋状況								
2 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	沓	1基につき1回〔据付後〕	3-2-4-8	
					ケーソンの長さ	1ロットにつき1回〔設置後及び型枠取外し後〕		
					ケーソンの幅			
					ケーソンの高さ			
					ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況			
載荷状況	1基につき1回〔載荷時〕							
封鎖コンクリート	1基につき1回〔施工時〕							
打設状況								
中埋状況								
2 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	沓	1基につき1回〔据付後〕	3-2-4-9	
					根入長	1基につき1回〔設置後〕		
					偏心量			
					鉄筋組立状況			
					載荷状況	1基につき1回〔載荷時〕		
封鎖コンクリート	1基につき1回〔施工時〕							
打設状況								
中埋状況								
2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブロック工(コンクリートブロック積)(コンクリートブロック張り)	厚さ(裏込)	120m又は1施工箇所につき1回〔施工中〕	3-2-5-3	
					法長 厚さ(ブロック積張)	200m又は1施工箇所につき1回〔施工後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	3	2	コンクリートブロック工(連節 ブロック張り)	法長	200m又は1施工箇所 に1回 【施工後】 ただし、根入部は40m に1回	3-2-5-3
							200m又は1施工箇所 に1回 【施工後】	
	2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	3	3	コンクリートブロック工(天端 保護ブロック)	幅	200m又は1施工箇所 に1回 【施工後】	3-2-5-3
2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	4		緑化ブロック工	厚さ(裏込)	120m又は1施工箇所 に1回 【施工中】	3-2-5-4	
					法長 厚さ(ブロック)	200m又は1施工箇所 に1回 【施工後】 ただし、根入部は40m に1回		
2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 (張) 工	5		石積(張)工	厚さ(裏込)	120m又は1施工箇所 に1回 【施工中】	3-2-5-5	
					法長 厚さ(石積・張)	200m又は1施工箇所 に1回 【施工後】 ただし、根入部は40m に1回		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]		
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	1	アスファルト舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-7	
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕		
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	2	アスファルト舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕		3-2-6-7
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕		
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	3	アスファルト舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-7
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	4	4	アスファルト舗装工(加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-7
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	5	アスファルト舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 【整正後】	3-2-6-7
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 【散布時】	
						幅	各層毎80mに1回 【整正後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【整正後】	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	6	アスファルト舗装工(表層工)	整正状況	400mに1回 【整正後】	3-2-6-7
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 【散布時】	
						平坦性	1工事に1回【実施中】	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	1	半たわみ性舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-8
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-8
						転圧状況		
						厚さ	各層毎200mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
						幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
	2	6	8	3	半たわみ性舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-8
						転圧状況		
						厚さ	各層毎200mに1回 【修正後】 ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
						幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	4	半たわみ性舗装工(加熱ア スファルト安定処理工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-8
						転圧状況	各層毎400mに1回 【整形後】	
						幅	各層毎80mに1回 【整形後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【整形後】	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	5	半たわみ性舗装工(基層工)	整形状況	400mに1回 【整形後】	3-2-6-8
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 【散布時】	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	6	半たわみ性舗装工(表層工)	整形状況	400mに1回 【整形後】	3-2-6-8
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 【散布時】	
						浸透性ミルク注 入状況	400mに1回 【注入時】	
						平坦性	1工事1回 【実施中】	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	1	排水性舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-9
						転圧状況	各層毎400mに1回 【整形後】	
						厚さ	各層毎200mに1回 【整形後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」により「厚さあるい は標高較差」を管理する場合 は 各層毎1工事に1回 【整形後】	
幅						各層毎80mに1回 【整形後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【整形後】		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	2	排水性舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-9
						転圧状況	各層毎400mに1回 【修正後】	
						厚さ	各層毎200mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
						幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
2 一般施工	6 一般舗装工	9	3	3	排水性舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-9
						転圧状況	各層毎400mに1回 【修正後】	
						厚さ	各層毎200mに1回 【修正後】 ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	
						幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【修正後】	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-9
						転圧状況		
						幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 【修正後】	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	5	排水性舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 【修正後】	3-2-6-9	
					タックコート、プライムコート	各層毎に1回 【散布時】		
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	6	排水性舗装工(表層工)	整正状況	400mに1回 【修正後】	3-2-6-9	
					タックコート、プライムコート	各層毎に1回 【散布時】		
					平坦性	1工事に1回 【実施中】		
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	10	1	透水性舗装工 路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-10	
					転圧状況			
					整正状況	各層毎400mに1回 【修正後】		
					厚さ	各層毎200mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は各層毎1工事に1回 【修正後】		
幅	各層毎80mに1回 【修正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 【修正後】							

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	10	2	透水性舗装工 表層工	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	3-2-6-10
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-11
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	2	グースアスファルト舗装工 (基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	3-2-6-11
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	3	グースアスファルト舗装工 (表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	3-2-6-11
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
	2	6	12	2	コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	3	コンクリート舗装工(セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 【施工中】	3-2-6-12
						整正状況	各層毎400mに1回 【整正後】	
						厚さ	1,000㎡に1回 【整正後】 ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 【整正後】	
						幅	各層毎80mに1回 【整正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【整正後】	
2 一般施工	6 一般舗装工	12	4	コンクリート舗装工(アスファルト中間層)	整正状況	400mに1回 【整正後】	3-2-6-12	
					タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 【散布時】		
					幅	各層毎80mに1回 【整正後】 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 【整正後】		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	5	コンクリート舗装工(コンクリート舗装版工)	石粉、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	3-2-6-12
						スリップバー、タイヤバー寸法、	80mに1回 〔据付後〕	
						鉄網寸法、位置	80mに1回 〔据付後〕	
						平坦性	1工事に1回〔実施中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						目地段差	1工事に1回	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	6	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) 下層路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕		
					厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔修正後〕		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	7	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	8	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12	
					転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕		
					厚さ	1,000㎡に1回 〔修正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	9	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	3-2-6-12
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	10	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ	400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-12
						転圧状況		
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
					平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	11	コンクリート舗装工(連続鉄筋コンクリート舗装工)	石粉、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	3-2-6-12
						鉄筋寸法、位置	80mに1回 〔据付後〕	
						横膨張目地部ダウエルバー寸法、位置	1施工箇所1回 〔据付後〕	
						縦そり突合せ目地部・縦そりダミー目地部タイバー寸法、位置	80mに1回 〔据付後〕	
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕 〔スリップフォーム工法の場合は打設前後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」により「厚さあるいは標高較差」を管理する場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
						目地段差	1工事に1回	
2 一般施工	6 一般舗装工	13	1	薄層カラー舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-13	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
					厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔整正後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	2	薄層カラー舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-13
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
2 一般施工	6 一般舗装工	13	3	薄層カラー舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-13	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
					厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要		
					幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
2 一般施工	6 一般舗装工	13	4	薄層カラー舗装工(加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-13	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	5	薄層カラー舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	3-2-6-13
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	1	ブロック舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-14	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
					厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	2	ブロック舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-14	
					整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
					厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	3	ブロック舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-14
						転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔修正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要	
						幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕	
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理 工)	敷均し厚さ	各層毎400mに1回 〔施工中〕	3-2-6-14	
					転圧状況	各層毎400mに1回 〔修正後〕		
					幅	各層毎80mに1回 〔修正後〕 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔修正後〕		
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	5	ブロック舗装工(基層工)	修正状況	400mに1回 〔修正後〕	3-2-6-14	
					タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	15		路面切削工	幅 厚さ(基準高)	1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)舗 装工編 多点計測技術(面管 理の場合)」による場合は 各層毎1工事に1回 〔施工後〕	3-2-6-15	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2	6	16		舗装打換え工	幅 延長 厚さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-6-16
	2	6	17		オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-6-17
						タックコート	各層毎につき1回 〔散布時〕	
						整正状況	400mにつき1回 〔施工後〕	
	2	7	2		路床安定処理工	施工厚さ 幅	40mにつき1回〔施工後〕	3-2-7-2
	2	7	3		置換工	置換厚さ 幅	40m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-7-3
	2	7	5		パイルネット工	厚さ 幅	40m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-7-5
2	7	6		サンドマット工	施工厚さ 幅	40m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-7-6	
2	7	7	8	バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	打込長さ 出来ばえ	200㎡又は1施工箇所につき1回 〔打込み前後〕	3-2-7-7	
					杭径 位置・間隔	200㎡又は1施工箇所につき1回 〔打込後〕		
					砂の投入量	全数量〔打込前後〕		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所につき1回 〔打込後〕	3-2-7-9
						深度	1施工箇所につき1回 〔打込前後〕	
			ただし、(スラリー攪拌工)において、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)第8編固結工(スラリー攪拌工)・パーチカルドレーン編」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形管理に関わる写真管理項目を省略できる。					
	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9	2	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m ³ ～4,000m ³ につき1回、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1回。 〔施工厚さ 施工中〕 〔幅 施工後〕	3-2-7-9
	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	変位 根入長	40m又は1施工箇所につき1回 〔打込前〕	3-2-10-5
						数量	全数量 〔打込後〕	
2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工(アンカー工)	削孔深さ	1施工箇所につき1回 〔削孔後〕	3-2-10-5	
					配置誤差	1施工箇所につき1回 〔施工後〕		
2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工(連節ブロック張り工)	法長	200m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mにつき1回	3-2-10-5	
2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工(締切盛土)	天端幅 法長	250m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-10-5	
2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工(中詰盛土)	出来ばえ	250m又は1施工箇所につき1回 〔施工後〕	3-2-10-5	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2	10	9		地中連続壁工(壁式)	連壁の長さ 変位	40m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	3-2-10-9
	2	10	10		地中連続壁工(柱列式)	連壁の長さ 変位	40m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	3-2-10-10
	2	10	22		法面吹付工		第3編2-14-3吹付工に準 ずる	3-2-10-22
	2	12	1	1	鑄造費(金属支承工)	製作状況	適宜 [製作中]	3-2-12-1
	2	12	1	2	鑄造費(大型ゴム支承工)	製作状況	適宜 [製作中]	3-2-12-1
	2	12	1	3	仮設材製作工	原寸状況 製作状況	1橋に1回又は1工事に1回 [原寸時] 適宜 [製作中]	3-2-12-1
	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃口高さ 外周長	1施工箇所 に1回 [仮組立時]	3-2-12-1
	2	12	3	1	桁製作工(仮組立による検査 を実施する場合) ※シミュレーション仮組立検 査を行う場合	原寸状況 製作状況 仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 [原寸時] 適宜 [製作中] 1橋に1回又は1工事に1回 [仮組立時]	3-2-12-3 ※シミュレー ション仮組立 検査の場合は 仮組立寸法を 省略

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	3	2	桁製作工(仮組立検査を実施しない場合)	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-3
						製作状況	適宜 〔製作中〕	
	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	3	3	桁製作工(鋼製堰堤製作工(仮組立時))	仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1基に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	3-2-12-3
	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	4		検査路製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-4
						製作状況	適宜 〔製作中〕	
	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	5		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-5
						製作状況	適宜 〔製作中〕	
仮組立寸法						1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	6		落橋防止装置製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-6	
					製作状況	適宜 〔製作中〕		
2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	7		橋梁用防護柵製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-7	
					製作状況	適宜 〔製作中〕		
2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	8		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	3-2-12-8	
2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	9		プレビーム用桁製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	3-2-12-9	
					製作状況	適宜 〔製作中〕		
					仮組立寸法	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	10		鋼製排水管製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 [原寸時]	3-2-12-10
						製作状況	適宜 [製作中]	
	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工	11		工場塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 [使用前後]	3-2-12-11
						素地調整状 況(塗替)	部材別 [施工前後]	
						塗装状況	各層毎に1回 [塗装後]	
2 一 般 施 工	13 橋 梁 架 設 工			架設工 (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラバラークレーン架設)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 [架設中]	3-2-13	
2 一 般 施 工	14 法 面 工	2	1	植生工 (種子吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工、植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	材料使用量	1工事に1回 [混合前]	3-2-14-2	
					土羽土の厚さ	200m又は1施工箇所に1回 [施工中]		
					法長	200m又は1施工箇所に1回 [施工後]		
2 一 般 施 工	14 法 面 工	2	2	植生工 (厚層基材吹付工) (客土吹付工)	清掃状況	200m又は1施工箇所に1回 [清掃後]	3-2-14-2	
					ラス鉄網の重 ね合せ寸法	200m又は1施工箇所に1回 [吹付前]		
					厚さ(検測孔)	200㎡又は1施工箇所に1回 [吹付後]		
					法長	200m又は1施工箇所に1回 [施工後]		
					材料使用量	1工事に1回 [混合前]		
2 一 般 施 工	14 法 面 工	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	清掃状況	200m又は1施工箇所に1回 [清掃後]	3-2-14-3	
					ラス鉄網の重 ね合せ寸法	200m又は1施工箇所に1回 [吹付前]		
					法長	200m又は1施工箇所に1回 [施工後]		
					厚さ(検測孔)	200㎡又は1施工箇所に1回 [吹付後]		

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長、 幅、 高さ、 枠中心間隔	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	3-2-14-4
							ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法面工編」に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることが出来る。	
	2 一 般 施 工	14 法 面 工	4	2	法枠工(プレキャスト法枠工)	法長	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	3-2-14-4
	2 一 般 施 工	14 法 面 工	6		アンカー工	削孔深さ	1施工箇所 に1回 〔削孔後〕	3-2-14-6
							配置誤差	
	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工	1		場所打擁壁工	裏込厚さ	120m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕	3-2-15-1
							厚さ 幅 高さ	
	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工	2		プレキャスト擁壁工	掘付状況	200m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	3-2-15-2
	2 一 般 施 工	15 擁 壁 工	3		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工 法) (多数アンカー式補強土工 法) (ジオテキスタイルを用いた	高さ 鉛直度	120m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	3-2-15-3
2 一 般 施 工	15 擁 壁 工	4		井桁ブロック工	裏込厚さ	120m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕	3-2-15-4	
						法長 厚さ		200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕
2 一 般 施 工	16 浚 渫 工	3		浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船) (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	運転状況	1施工箇所 に1回 〔施工後〕	3-2-16-3	
2 一 般 施 工	18 床 版 工	2		床版・横組工	幅 厚さ 鉄筋の有効 高さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	1スパン に1回 〔打設前後〕	3-2-18-2	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第6編 河川編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
6 河川編	1	7	4		護岸付属物工	幅 高さ	1施工箇所に1回 [施工後]	6-1-7-4
	1	10	8		杭出し水制工	径 杭長	1施工箇所に1回 [打込み前]	6-1-10-8
						幅 方向	1施工箇所に1回 [施工後]	
	1	13	3		配管工	配管状況	100m又は1施工箇所に1回 [施工後]	6-1-13-3
	1	13	4		ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	100m又は1施工箇所に1回 [施工後]	6-1-13-4
	3	5	6	1	函渠工(本体工)	厚さ 幅 内空幅 内空高	1施工箇所に1回 [型枠取外し後]	6-3-5-6
3	5	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル 鋳鉄管)	据付状況	120m又は1施工箇所に1回 [巻立前]	6-3-5-6	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第6編 河川編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
6 河川編	3	5	7		翼壁工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所1回 〔型枠取外し後〕	6-3-5-7
	3	5	8		水叩工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所1回 〔型枠取外し後〕	6-3-5-8
	4	6	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所1回 〔型枠取外し後〕	6-4-6-7
	4	9	10	1	支承工(鋼製支承)	支承取付状 況	1スパンに1回 〔取付後〕	6-4-9-10
	4	9	10	2	支承工(ゴム支承)	支承取付状 況	1スパンに1回 〔取付後〕	6-4-9-10
	4	12	4		地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	1施工箇所1回 〔施工後〕	6-4-12-4

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第6編 河川編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
6 河川編	4	12	5 6		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 高さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-4-12-5
	4	12	7		検査路工	幅 高さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-4-12-7
	5	6	13 14		閘門工 土砂吐工	厚さ 幅 高さ 延長	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-5-6-13 6-5-6-14
	5	7	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-5-7-8 6-5-7-9 6-5-7-10
	5	8	3		魚道本体工	厚さ 幅 高さ	200m又は測定箇所毎につき1回 〔施工後〕	6-5-8-3
	5	9	2		管理橋橋台工	厚さ 天端幅 (橋軸方向) 敷幅 (橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-5-9-2
	6	4	6		本体工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	6-6-4-6

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第6編 河川編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
6 河川 編	6	4	7		燃料貯油槽工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所1回 [施工後]	6-6-4-7
	6	5	7		コンクリート床版工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所1回 [施工後]	6-6-5-7
	7	4	6		本体工(床固め本体工)	天端幅 堤幅 水通し幅	測定箇所毎に1回 [施工後]	6-7-4-6
	7	4	8		水叩工	幅 高さ	測定箇所毎に1回 [施工後]	6-7-4-8
	7	5	6		側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回 [施工後]	6-7-5-6

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第7編 河川海岸編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	5 護岸基 礎工	5		場所打コンクリート工	幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔型枠取外後〕	7-1-5-5
	1 堤防・ 護岸	5 護岸基 礎工	6		海岸コンクリートブロック工	数量	全数量〔製作後〕	7-1-5-6
						ブロックの形 状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	
						据付状況	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	
	1 堤防・ 護岸	6 護岸工	4		海岸コンクリートブロック工	数量	全数量〔製作後〕	7-1-6-4
						ブロックの形 状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔施工後〕	
						法長 厚さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	
1 堤防・ 護岸	6 護岸工	5		コンクリート被覆工	法長 厚さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-1-6-5	
					裏込材厚	40m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕		
1 堤防・ 護岸	8 天端被 覆工	2		コンクリート被覆工	幅 厚さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-1-8-2	
					基礎厚	40m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕		
1 堤防・ 護岸	9 波返工	3		波返工	幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-1-9-3	
2 突堤・ 人工岬	4 突堤基 礎工	4		捨石工	法長 天端幅	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-2-4-4	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第7編 河川海岸編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工岬	4 突堤基礎 工	5		吸出し防止工	幅	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-2-4-5
	2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	5		海岸コン クリート ブロック 工	数量	全数量〔製作後〕	7-2-5-5
						ブロックの 形状寸法	形状寸法変 わる毎に 1回 〔製作後〕	
						天端幅	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	
	2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	9		石砕工	厚さ 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-2-5-9
						間詰石状 況	1施工箇所 に1回 〔施工後〕	
2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	10			場所打 コンクリ ート工	幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	7-2-5-10
2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	11	1		ケーソン 工(ケー ソン工製 作)	壁厚 幅 高さ 長さ 底版厚 さ フーチン グ高さ	1基に1回 〔製作後〕	7-2-5-11
2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	11	2		ケーソン 工(ケー ソン工据 付)	据付状 況	1施工箇所 に1回 〔据付後〕	7-2-5-11

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第7編 河川海岸編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要								
						撮影項目	撮影頻度[時期]									
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	11	3	ケーソン工(突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロック	厚さ 幅	1施工箇所に1回 〔施工後〕	7-2-5-11								
									2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	12	1	セルラー工(セルラー工製 作)	壁厚 幅 高さ	1基に1回 〔製作後〕	7-2-5-12
	2 突堤・ 人工岬	5 突堤本 体工	12	3	セルラー工(突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロック	厚さ 幅	1施工箇所に1回 〔施工後〕	7-2-5-12								
									2 突堤・ 人工岬	6 根固め 工	2		捨石工	法長 天端幅	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	7-2-6-2
	2 突堤・ 人工岬	6 根固め 工	3		根固めブロック工	数量 ブロックの形 状寸法	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	7-2-6-3								

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第7編 河川海岸編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	7 消波工	3		消波ブロック工	数量 ブロックの形状寸法	全数量〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回〔製作後〕	7-2-7-3
	3 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海域堤基礎工	3		捨石工	法長 天端幅	200m又は1施工箇所1回〔施工後〕	7-3-3-3

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第8編 砂防編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
8 砂防編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	8-1-3-4
						製作状況	適宜 〔製作中〕	
1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4			コンクリート堰堤本体工	骨材採取製造 コンクリート製造 運搬	月に1回 〔施工中〕	8-1-8-4
						打継目処理 打込・養生	4リフトに1回 〔施工中〕	
						天端幅 堤幅 水通しの幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	
1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6			コンクリート側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-1-8-6
1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8			水叩工	幅 厚さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-1-8-8
1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	1		鋼製堰堤本体工(不透過型)	長さ 幅 下流側倒れ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-1-9-5
1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	2		鋼製堰堤本体工(透過型)	堤長 堤幅 高さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-1-9-5

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第8編 砂防編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
8 砂防編	1	9	6		鋼製側壁工	長さ 幅 下流側倒れ 高さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-1-9-6
	2	5	8		魚道工	幅 高さ 厚さ	200m又は測定箇所毎に1回 〔施工後〕	8-2-5-8
	3	6	4		山腹明暗渠工	厚さ 幅 高さ 深さ	120m又は1施工箇所につき1回 〔型枠取外し後〕	8-3-6-4
	3	7	4		集排水ボーリング工	削孔深さ 配置誤差	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	8-3-7-4
	3	7	5		集水井工	偏心量 長さ 巻立て幅 巻立て厚さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	8-3-7-5
	3	9	6		合成杭工	偏心量 数量	1施工箇所につき1回 〔施工後〕 全数量 〔打込後〕	8-3-9-6

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第9編 ダム編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
9 ダム 編	1	4			コンクリートダム工(本体)	天端幅 ジョイント間隔 リフト高 堤幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-1-4
	1	4			コンクリートダム工(水叩)	ジョイント間隔 幅 長さ 打継目処理	測定箇所毎に1回 〔施工後〕 奇数ブロック毎に岩着部中間 リフトに1回	9-1-4
	1	4			コンクリートダム工(副ダム)	ジョイント間隔 リフト高 堤幅 堤長	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-1-4
	1	4			コンクリートダム工(導流壁)	ジョイント間隔 リフト高 厚さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-1-4
	2	4	5		コアの盛立	外側境界線	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-2-3-5

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第9編 ダム編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
9 ダム 編	2 フィル ダム	4 盛立 工	6		フィルターの盛立	外側境界線 盛立幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-2-3-6
					ロックの盛立	外側境界線	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-2-3-7
	2 フィル ダム				フィルダム(洪水吐)	ジョイント間隔 厚さ 幅 リフト高さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	9-2
					ボーリング工	ボーリング状 況 水押テスト状 況 グラウト状況 深度 配置誤差	ブロック毎に1回 〔施工中〕	9-3-3
3 基礎 ラウチ ング	3 ボー リ ン グ 工				コアー	地質変化毎全数量 〔採取後〕		

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	1 道路 改良	3 工場 製作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部材長	1施工箇所1回 〔製作後〕	10-1-3-2
	1 道路 改良	9 カル バート 工	6		場所打函渠工	厚さ 幅(内空) 高さ	100m又は1施工箇所1回 〔型枠取外し後〕	10-1-9-6
	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	4		落石防止網工	幅	1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-1-11-4
	1 道路 改良	11 落石 雪害 防	5		落石防護柵工	高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-1-11-5
	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	6		防雪柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-1-11-6
	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	7		雪崩予防柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ アンカー長	1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-1-11-7
	1 道路 改良	12 遮音 壁工	4		遮音壁基礎工	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所に1回(施 工前は必要に応じて)〔施工前 後〕	10-1-12-5

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]		
10 道路 編	1	12	5		遮音壁本体工	支柱間隔 支柱ずれ 支柱倒れ 高さ	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	10-1-12-5	
	2 舗装	4 舗装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	敷均し厚さ	各層毎400mにつき1回 〔施工中〕	10-2-4	
						転圧状況			
						厚さ			各層毎400mにつき1回 〔整正後〕
						幅			各層毎200mにつき1回 〔整正後〕
	2 舗装	4 舗装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	整正状況	400mにつき1回 〔整正後〕	10-2-4	
						タックコート、 プライムコート			各層毎につき1回 〔散布時〕
平坦性						1工事に1回 〔実施中〕			
2 舗装	5		9		排水性舗装用路肩排水工	据付状況	200m又は1施工箇所につき1回 〔施工中〕	10-2-5-9	
2 舗装	7	4			踏掛版工 (コンクリート工) (ラバーシュー) (アンカーボルト)	<コンクリート工> 各部の厚さ 各部の長さ <ラバーシュー> 各部の長さ 厚さ <アンカーボルト> 中心のずれ アンカー長	1施工箇所につき1回 〔施工後〕	10-2-7-4	
2 舗装	9	4	1		大型標識工(標識基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所につき1回 〔施工後〕	10-2-9-4	
2 舗装	9	4	2		大型標識工(標識柱工)	設置高さ	1施工箇所につき1回	10-2-9-4	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	2 舗装	12 道路付 属施設 工	5	1	ケーブル配管工	配管状況	100m又は1施工箇所に1回 【施工後】	10-2-12-5
	2 舗装	12 道路付 属施設 工	5	2	ケーブル配管工(ハンドホ ール)	厚さ 幅 高さ	100m又は1施工箇所に1回 【施工後】	10-2-12-5
	2 舗装	12 道路付 属施設 工	6		照明工(照明柱基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所に1回(施 工前は必要に応じて)【施工前 後】	10-2-12-6
	3 橋梁 下部	3 工場 製作 工	3		鋼製橋脚製作工	原寸状況	1脚に1回又は1工事に1回 【原寸時】	10-3-3-3
						製作状況	適宜 【製作中】	
						仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1脚に1回又は1工事に1回 【仮組立時】	
3 橋梁 下部	6 橋台 工	8		橋台躯体工	厚さ 天端幅(橋軸 方向) 敷幅(橋軸方 向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	全数量 【型枠取外し後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)構 造物工編(試行)」により出来 形管理資料を提出する場合 は、出来形計測状況を1工事 1回	10-3-6-8	
3 橋梁 下部	7 R C 橋脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 天端長 敷長	全数量 【型枠取外し後】 ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)構 造物工編(試行)」により出来 形管理資料を提出する場合 は、出来形計測状況を1工事 1回	10-3-7-9	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	3 橋梁 下部	7 R C 橋 脚 工	9	2	橋脚躯体工(ラーメン式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外し後〕	10-3-7-9
							ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形計測状況を1工事1回	
	3 橋梁 下部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工(I型・T型)	幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外後〕	10-3-8-9
	3 橋梁 下部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工(門型)	幅 高さ	全数量 〔型枠取外後〕	10-3-8-9
	3 橋梁 下部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工(I型・T型)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	10-3-8-10
3 橋梁 下部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工(門型)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	10-3-8-10	
3 橋梁 下部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	継手部のすき 間	1施工箇所1回 〔施工後〕	10-3-8-11	
4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	10-4-3-9	
					製作状況	適宜 〔製作中〕		
4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	1施工箇所1回(削孔後)	10-4-8-3	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	5 コン クリ ート 橋 上 部	6 プレ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工(現場)	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	10-5-6-2
						製作状況	適宜 〔製作中〕	
						仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	
						幅 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕	
6 トン ネル (N A T M)	4 支 保 工	3			吹付工	岩質	岩質の変わる毎に1回 〔掘削中〕	10-6-4-3
						湧水状況	適宜 〔掘削中〕	
						吹付面の清 掃状況	80mに1回 〔清掃後〕	
						金網の重合 せ状況	80mに1回 〔2次吹付前〕	
						吹付け厚さ (検測孔)	80mに1回 〔吹付後〕	
6 トン ネル (N A T M)	4 支 保 工	4			ロックボルト工	位置間隔 角度 削孔深さ 孔径 突出量	施工パターン毎又は80mに1 断面〔穿孔中〕	10-6-4-4
						ロックボルト注 入状況	施工パターン毎又は80mに1 断面〔注入中〕	
						ロックボルト打 設後の状況	施工パターン毎又は80mに1 断面〔打設後〕	
6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	3			覆工コンクリート工	覆工 (巻立空間)	1セントルに1回 〔型枠組立後〕	10-6-5-3
						覆工 (厚さ)	1セントルに1回 〔型枠取外し後〕	
						幅 高さ	200m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	6 トンネル (N A T M)	5 覆工	5		床版コンクリート工	幅 厚さ	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	10-6-5-5
	幅(全幅)	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]						
	6 トンネル (N A T M)	8 坑門 工	4	坑門本体工	幅 高さ	1施工箇所 に1回 [埋戻し前]	10-6-8-4	
	6 トンネル (N A T M)							8 坑門 工
覆工 (厚さ)	40m又は1施工箇所 に1回(型 枠取外し後)							
幅(全幅) 高さ(内法)	200m又は1施工箇所 に1回 [施工後]							
11 共同溝	6 現場打 構築工	2		現場打躯体工	厚さ 内空幅 内空高	200m又は1施工箇所 に1回 [型枠取外し後]	10-11-6-2	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	11 共同溝	6 現場打構築工	4		カラー継手工	厚さ 幅 長さ	1施工箇所1回 〔設置後〕	10-11-6-4
	11 共同溝	6 現場打構築工	5	1	防水工(防水)	幅	100m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-11-6-5
	11 共同溝	6 現場打構築工	5	2	防水工(防水保護工)	厚さ	100m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-11-6-5
	11 共同溝	6 現場打構築工	5	3	防水工(防水壁)	高さ 幅 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	10-11-6-5
	11 共同溝	7 プレキャスト構築工	2		プレキャスト躯体工	据付状況	200m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	10-11-7-2
	12 電線 共同溝	5 電線共同溝工	2		管路工(管路部)	敷設状況	100m又は1施工箇所に1回 〔敷設後〕	10-12-5-2

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(出来形管理)【第10編 道路編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
10 道路 編	12	5	3		プレキャストボックス工(特殊部)	据付状況	100m又は1施工箇所1回 [据付後]	10-12-5-3
	12	5	4		現場打ちボックス工(特殊部)	厚さ 内空幅 内空高	100m又は1施工箇所1回 [型枠取外し後]	10-12-5-4
	12	6	2		ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 [型枠取外し後]	10-12-6-2
14 道路 維持	4	舗 装 工	5		切削オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所に1回 [施工後]	10-14-4-5
						タックコート	各層毎に1回 [散布時]	
						整正状況	400mに1回 [施工後]	
14 道路 維持	4	舗 装 工	7		路上再生工	敷均厚 転圧状況	各層毎400mに1回 [施工中]	10-14-4-11
						整正状況 厚さ	各層毎400mに1回 [整正後]	
14 道路 維持	4	舗 装 工	11		グルーピング工	出来ばえ	施工日に1回 [施工前後]	10-16-3-4
16 道路 修繕	3	工 場 製 作 工	4		桁補強材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 [原寸時]	10-16-3-4
						製作状況	適宜 [製作中]	
						仮組立寸法 (撮影項目は 適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 [仮組立時]	
16 道路 修繕	22	橋 梁 付 属 物	4		落橋防止装置工	長さ、径、材質	1橋に1回又は1工事に1回 [材料搬入時]	10-16-22-4
						出来ばえ	適宜 [施工中]	

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(その他)

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]		
その他					舗装工関係	橋面防水工	塗布又は設置状況	1施工箇所につき1回 〔施工中〕	
					ダム工関係	仮排水路	厚さ、高さ	100m又は1施工箇所につき1回 〔型枠取外後〕	
						仮締切(土石)	巻出し厚	100m又は1施工箇所につき1回 〔巻出し時〕	
							転圧状況	転圧機械が変わる毎につき1回 〔締固時〕	
					仮締切(コンクリート)	厚さ、高さ	100m又は1施工箇所につき1回 〔型枠取外後〕		
					基礎掘削	組合せ機械	組合せ機械	組合せ機械が変わる毎につき1回 〔施工中〕	
							土質、岩質	土質、岩質が変わる毎につき1回 〔掘削中〕	
						岩盤清掃状況	1施工箇所につき1回 〔清掃前後〕		
					堤体コンクリート打設	骨材採取製造、コンクリート製造、運搬	月に1回〔施工中〕		
						打継目処理、打込養生	8リフトにつき1回 〔施工中〕		
					堤体止水	止水板の厚さ、幅、埋設位置、岩着及	各ブロック毎、先行ブロックについて4リフトにつき1回		
					堤体排水工	排水孔の位置、箱抜断面、排水管取付箇所	各ブロック毎、先行ブロックについて4リフトにつき1回 〔据付後〕		
					堤体冷却工	配管間隔、通水状況	5リフトにつき1回 〔据付後〕		
					堤体埋設計器	器種、位置、間隔	1施工箇所につき1回 〔据付後〕		
					トンネル関係	トンネル坑門工	厚さ、幅、高さ	1施工箇所につき1回 〔埋戻し前〕	
						トンネル(矢板工法)	岩質	岩質が変わる毎につき1回 〔掘削中〕	
							湧水状況	適宜〔掘削中〕	
							埋設支保工(建込間隔、寸法、基数)	100m又は1施工箇所につき1回 〔建込後〕	
	湧水処理工設置状況	全数量〔設置後〕							

出来形管理写真撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(その他)

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要		
						撮影項目	撮影頻度[時期]			
その他					トンネル関係	トンネル(矢板工法)	集水渠(幅、高さ、位置)	100m又は1施工箇所1回 〔設置後〕		
						地下排水工(管接合据付状況)				
						地下排水工(フィルター厚さ)	100m又は1施工箇所1回 〔投入前後〕			
						矢板設置状況	岩質の変わる毎に1回 〔設置後〕			
						グラウト材料使用量	全数量〔使用前後〕			
					トンネル関係	シールド	掘削の地山状態	地質の変化毎に1回 〔掘削中〕		
							セグメント組立状況	1工事に1回 〔組立後〕		
							二次覆工(セグメント清掃状況)	1工事に1回 〔清掃後〕		
							二次覆工の厚さ	1スパンに1回 〔型枠取外し後〕		
					維持修繕工関係	アスファルト舗装	打換パッチング	施工日に1回 〔施工前後〕		
							コンクリート舗装	目地清掃	3,000m ² に1回 〔施工前後〕	
						コンクリート舗装	目地充填	3,000m ² に1回 〔施工後〕		
							注入工、削孔状況(位置、間隔)	2,000m ² に1回 〔削孔後〕		
							注入工、注入圧	2,000m ² に1回 〔注入時〕		
							目地亀裂防止材、張付け状況	3,000m ² に1回 〔張付け後〕		
							局部打換、各層厚さ	各層毎100mに1回又は1施工箇所1回		
							路肩、路側路盤工	厚さ	100mに1回又は1施工箇所1回 〔施工後〕	
							道路除草	出来ばえ	5kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕	
						路肩整正	出来ばえ	1kmに1回		
						新設、更新、修理防護柵類	出来ばえ	1施工箇所に1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕		
新設、更新、修理標識類	基礎幅、深さ、出来ばえ	基礎タイプ毎5カ所に1回(施工前は必要に応じて)〔施工前後〕								
新設、更新、修理照明灯	基礎幅、深さ、出来ばえ	基礎タイプ毎5カ所に1回(施工前は必要に応じて)〔施工前後〕								
視線誘導標	出来ばえ	施工日に1回 〔施工後〕								

撮影箇所一覧表(出来形管理)

撮影箇所一覧表(その他)

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]		
その他				維持修繕工関係	清掃(路面、標識、側溝、集水樹)	出来ばえ	施工日に1回 〔施工前後〕		
					区画線路面表示	出来ばえ	施工日に1回 〔施工前後〕		
						材料使用量	全数量〔施工前後〕		
					街路樹植樹	出来ばえ	適宜〔施工前後〕		
					街路樹補強補植	出来ばえ	適宜〔施工前後〕		
					街路樹剪定	出来ばえ	街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工前後〕		
					街路樹消毒、施肥	出来ばえ	街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工前後〕		
					街路樹雪囲	出来ばえ	適宜〔施工後〕		
					排雪除雪	施工状況、機種	施工中に1回〔施工中〕		
					凍結防止剤散布	出来ばえ	施工中に1回〔施工中〕		
						材料使用量	全数量〔施工前後〕		
					河川除草	出来ばえ	1kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕		
					応急処置	処理の状況	その都度〔施工前後〕		
					鉄筋・無筋コンクリート関係				
					配筋	位置、間隔、継手寸法	打設ロット毎に1回又は1施工箇所 に1回〔組立後〕		
					コンクリート打設	打継目処理、締固施工状況	工種種別毎に1回 〔施工時〕		
			養生	養生状況	工種種別毎に1回、養生方法毎 に1回〔養生時〕				

港湾編・港湾海岸編

凡例

1. 共通仮設

特： 図面及び特記仕様書

1-1 汚濁防止膜工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 水質汚濁防止膜	施工管理	取付け、組立て	取付け、組立状況
		設 置	設置状況
	撤 去	撤去状況	
	品質管理	カーテンの種類、形状	カーテン
汚濁防止膜の構造		アンカー、フロート、ワイヤー等	
出来形管理	設置位置	設置状況	

2. 無筋・鉄筋コンクリート

2-1 コンクリートミキサー船

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	施工管理	材料の貯蔵	セメント、混和材料及び骨材の貯蔵状況
		プラントの設備	全景及び細部
		材料の計量及び練混ぜ	計量及び練混ぜ状況

2-2 水中コンクリート

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	施工管理	打 設	打設状況
		打設用機械器具等	打設状況
	出来形管理	出来形の確認	出来形寸法等の測定状況

2-3 袋詰コンクリート

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	施工管理	使用船舶機械等	使用船舶、機械等
		袋 詰	コンクリート袋詰状況
	設置	設置状況	
出来形管理	出来形の確認	出来形寸法等の測定状況、設置（積上）状態	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
組立時、全体及び部分	カーテンの接続、アンカー等の取付状況が判明できるように撮影
設置時 撤去時	作業状況が判明できるよう使用船舶機械を配慮し撮影
組立時、種類及び形状毎	カーテンの種類、規格、形状等が判明できるように撮影
組立時、種類及び形状毎	アンカー、フロート、ワイヤー等の規格形状等が判明できるように撮影
設置完了後	正面、側面等全体の設置状況が判明できるように撮影

基準 撮影時期	注意事項及び説明
貯蔵時	
施工時	
施工時	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時 施工時	トレミー、コンクリートポンプ、底開き箱、底開き袋等
出来形測定時	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時 施工時 施工時	
出来形測定時	

2-4 水中不分離性コンクリート

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	施工管理	打 設	打設状況
		打設用機械器具等	打設状況
	品質管理	各種試験	スランプフロー、圧縮強度、懸濁物質等の試験状況
	出来形管理	出来形の確認	出来形寸法等の測定状況

2-5 プレパックドコンクリート

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	施工管理	型枠状況一般	型枠組立て、建込状況
		骨材の投入	骨材洗浄、投入状況
		プラントの設備	設備の全景及び細部
	品質管理	注入管及び検査管	管の配置状況
		モルタル注入	注入状況
出来形管理	各種試験	圧縮強度、フロー値、膨張率、ブリージング率等の試験状況	
	出来形管理	出来形の確認	出来形寸法等の測定状況、岩盤かき均し状況等

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	トレミー、コンクリートポンプ等
施工時	
試験時	
出来形測定時	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	
施工時	
施工時	
モルタル注入前	配置間隔が判明できるようにテープ等を同時撮影
注入時	注入の状態が判明できるように全景を撮影
試験時	
測定時	

3. 一般施工

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 排砂管設備工			
1) 排砂管設備	施工管理	排砂管設備	排砂管、零号等設置撤去
2. 土運船運搬工			
1) 土運船運搬	施工管理	土砂の運搬状況	運搬時積載状況
3. 揚土土捨工			
1) バージアンロー ダー揚土	施工管理	使用船舶機械等	作業現場
2) 空気圧送揚土		バージアンローダー揚 土、空気圧送揚土	排砂状況
3) リクレーマ揚土			海洋汚染防止対策
4) バックホウ揚土		リクレーマ揚土、バッ クホウ揚土	土砂の揚土状況
4. 圧密・排水工			
1) サンドドレーン 【海上】	施工管理	使用船舶機器等	杭打船舶機械 記録計器 測量橋等 砂運搬船舶機械
	品質管理	材料の確認	材 料 品質試験状況

基 準 撮 影 時 期	注意事項及び説明
布設撤去の作業時	設置状況が判明できるように撮影
土砂運搬時	運搬経路が判明できる背景を入れて撮影
現地搬入前または現地搬入時	全景及び数量が判明できるように撮影
排砂時	
余水吐における濁り防止処	特の内容に対応させる。
置、設置及び状態	
揚土作業時	
組立完了後船舶機械毎打設	
打設時	
測量中、櫓等毎	
運搬中	
現場搬入時（種類、品質及	
び形状寸法の異なる毎）	
試験時	

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
【陸上】	施工管理	使用施工機械	クローラクレーン
		その他	発動発電機
		施工状況	作業状況
	品質管理	材料の確認	品質試験状況 材料置場
2) 敷 砂 3) 敷砂均し	施工管理	使用船舶機械等	運搬船舶機械 均し船舶機械
		その他	海洋汚染防止対策 飛砂防止対策
		品質管理	材 料 品質試験状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4) 載荷土砂	施工管理	使用船舶機械等	砂運搬船、機械 排砂管設備 浚渫船（採取船）
		その他	海洋汚染防止対策
		品質管理	材 料 品質試験状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
5) ペーパードレーン			
6) グラベルマット	施工管理	使用船舶機械等	運搬及び均し（船舶）機 械
		施工状況	碎石投入状況 碎石均し状況
		その他	海洋汚染防止対策
	品質管理	材料の確認	材 料 品質試験状況
出来形管理	出来形の確認	測定状況	
7) グラベルドレーン	施工管理	使用施工機械	クローラクレーン
		その他	アースオーガマシン、 リーダーオーガ、発動発 電機、コンプレッサ、ト ラクターショベル
		施工状況	作業状況
	品質管理	材料の確認	品質試験状況 材料置場

基準	注意事項及び説明
撮影時期	
現場搬入時、組立時、機械毎	全 景
現場搬入時、組立時、機械毎	全 景
施工時	全 景
試験時	全 景
現場搬入時	全 景
投入時	全景が判明できるように撮影
均し作業時	均し用具は、作業前に撮影
対策を講じた時	
現場搬入時（種類、品質及び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
測定時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。
運搬時、船舶機械毎	
敷設時	
排砂中	
浚渫中	
対策を講じた時	
現場搬入時（種類、品質及び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
測定時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-4圧密・排水工 1) サンドドレーンを適用する。
施工時	全景が判明できるように撮影 均し用具は、作業前に撮影
投入時、規格毎及び作業機	
規格及び作業機械・船種毎	
対策を講じた時	
現場搬入時（種類、品質及び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
測定時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。
現場搬入時、組立時、機械毎	全 景
現場搬入時、組立時、機械毎	全 景
施工時	全 景
試験時	全 景
現場搬入時	全 景

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
5. 締固工			
1) ロッドコンパクション	施工管理	使用施工機械	振動体（パイプロ）
		その他	ロッド、リーダー、トラクターショベル、発動発電機、ショベルローダー
	品質管理	施工状況 材料の確認	作業状況 品質試験状況 材料置場
2) サンドコンパクションパイル【海上】	施工管理	使用船舶機器等	杭打船舶機械 記録計器 測量檣等 砂運搬船舶機械
		品質管理	材料の確認
	【陸上】	施工管理	使用施工機械 その他 施工状況
3) 盛上土砂撤去	施工管理	使用船舶機械等	材料置場 品質試験状況
		施工状況 その他	使用船舶、機械等 撤去状況 海洋汚染防止対策
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4) 敷 砂			
5) 敷砂均し			
6. 固化工			
1) 深層混合処理杭	施工管理	使用船舶機器等	改良船、材料運搬船、潜水士船、引船、揚錨船
		施工状況	測量檣設置、撤去状況 障害物撤去状況 改良杭打設状況 海洋汚染防止対策 改良船計器類 代表的計器
	品質管理	材料の確認	固化材料 品質管理試験状況

基準 撮影時期	注意事項及び説明
現場搬入時、組立時、機械 毎	全 景
現場搬入時、組立時、機械 毎	全 景
施工時	全 景
試験時	全 景
現場搬入時	全 景
組立完了後船舶機械毎打設 時	
打設時	
測量中、櫓等毎	
運搬中	
現場搬入時（種類、品質及 び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
現場搬入時、組立時、機械 毎	全 景
現場搬入時、組立時、機械 毎	全 景
施工時	全 景
現場搬入時	全 景
試験時	全 景
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
撤去中	
対策を講じた時	
測定時	
	3-1-4圧密・排水工 2)敷砂、3)敷砂均しを適用する。
搬入時、船舶機械毎	
測量櫓設置時、改良船位誘 導時	
障害物調査、撤去時	
試験杭打時、作業時	
対策を講じた時	
計測時	
現場搬入時、材料毎	
試験時、試験種類毎	

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
2) 盛上土砂撤去			
3) 敷 砂			
4) 敷砂均し			
5) 事前混合処理	施工管理	使用船舶機器等	主要船舶機械
		材料の貯蔵	貯蔵状況
		プラントの設備	全景及び細部
		施工状況	混合処理状況 処理土運搬状況 処理土投入状況
	品質管理	材料の確認	固化材料 品質管理試験状況
	6) 表層固化処理	施工管理	使用船舶機器等
材料の貯蔵			貯蔵状況
プラントの設備			全景及び細部
施工状況			配合状況 固化処理状況
品質管理		材料の確認	固化材料 配合試験状況 品質管理試験状況
7. 洗掘防止工			
1) 洗掘防止	施工管理	マット類の確認	補強材セット状況
			アスファルトコンクリート打設状況
			搬入仮置 アンカー取付け、加工 運 搬
	敷設状況	敷設状況と使用船舶機械	
出来形管理	出来形の確認	敷設位置、重ね幅、延長及びジョイントの確認	
8. 中詰工			
1) 砂・石材中詰	施工管理	使用船舶機械等	運搬船等
		投 入	投入状況
		均 し	均し状況
	品質管理	縮固め	縮固め状況
	出来形管理	品質試験 材料の確認	品質試験状況 材料及び作業船等
2) コンクリート中詰			
3) プレパックドコンクリート中詰			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-5締固工 3)盛上土砂撤去を適用する。 3-1-4圧密・排水工 2)敷砂、3)敷砂均しを適用する。
搬入時、船舶機械毎	使用する船舶機械の種類が判明できるように撮影
貯蔵時	
施工時	
混合作業時	
運搬時	
投入時	
現場搬入時、材料毎	
試験時、試験種類毎	
搬入時、船舶機械毎	使用する船舶機械の種類が判明できるように撮影
貯蔵時	
施工時	
施工時	
施工時	
現場搬入時、材料毎	
試験時	
試験時、試験種類毎	
施工時	作業状況が判明できるように撮影
アスファルトコンクリート 打設時	
搬入仮置時	
取付加工時	
運搬時	
敷設時	
敷設完了時	確認箇所が判る背景を入れる。
施工時	作業状況が判明できるように撮影
施工時	
施工時	
施工時	
試験項目毎	
搬入時に適宜	テープ等を同時撮影
均し完了後	中詰材の天端とケーソン天端との高低差が判明できるようにテープ等を同時撮影
	2. 無筋・鉄筋コンクリートの関連事項及び3-1-8 1) 砂・石材中詰を適用する。
	2. 無筋・鉄筋コンクリートの関連事項及び3-1-8 1) 砂・石材中詰を適用する。

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
9. 蓋コンクリート工			
1) 蓋コンクリート	施工管理	使用船舶機械等	コンクリートミキサー船及び付属船
		ルーフィング敷設	中詰上面
	品質管理		
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
10. 蓋ブロック工			
1) 蓋ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
		函 台	製作函台
	品質管理		
	出来形管理	鉄 筋	組立てかぶり
		型 枠	組立完了
		コンクリート	形状寸法、外観
		完 成	完成品
		仮置状況	
2) 蓋ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
3) 間詰コンクリート	施工管理	使用船舶機械等	コンクリートミキサー船及び付属船
		ルーフィング敷設	中詰上面
	品質管理		
11. 鋼矢板工			
1) 先行掘削	施工管理	掘 削	掘削状況
2) 鋼矢板	施工管理	矢板の保管	保管状況
		矢板の積込み	吊上げ及び積込状況
		矢板の運搬	運搬状況
		導材の設置	導材の設置状況
		矢板の建込み	建込状況（位置出し、吊込み、建込み等）
		矢板の打込み	打込状況
			ハンマーの種類、型式等 打込記録中
		継ぎ手部の離脱	飛油、騒音防止対策 離脱箇所

基準 撮影時期	注意事項及び説明
コンクリート打設前	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートミキサー船及び付属船の形状が判るように前方、側面からそれぞれ撮影 ・作業状況が判明できるように撮影
コンクリート打設前	
打設完了後	コンクリートの品質管理項目 蓋コンクリートの施工天端とケーソンまたはセルラープロックの天端との差が判明できるようにテープ等を同時撮影
着工時全景	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立確認時	
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複数枚入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
据付時	据付作業が判明できるように撮影
測定時	据付の全体が判明できるように撮影
コンクリート打設前	3-1-10蓋コンクリート工の関連事項を適用する。
コンクリート打設前	
	コンクリートの品質管理項目
施工時	
保管時	全景及びまくら木、くさび等の変形、転落防止措置を撮影
施工時	使用機械器具、積込方法が判明できるように撮影
施工時	荷くずれ防止措置、台船への積載状況、使用船舶機械等が判明できるように撮影
施工時	使用材料及び船舶機械、導枠の構造が判明できるように撮影
施工時	作業状況が判明できるように撮影
施工時	杭打船等の全景、打込み方法、順序等が判明できるように撮影
適宜	
測定時	
対策を講じた時	飛油対策、騒音防止対策等を行った場合
離脱があった時	離脱部の状況が判明できるように撮影すること。

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
	品質管理	矢板の規格、外観、形状寸法	観察、測定状況
	出来形管理	出来形の確認	測定作業状況
12. 控 工			
1) 控鋼矢板	施工管理	腹起しの取付け	取付け及び締付状況
2) 控鋼管		タイロッド受杭	組立て及び取付状況
3) 腹 起		タイロッド、タイワイヤーの組立て、取付け	
4) タイ材		プレキャストコンクリート控壁 控杭、控矢板 控頂部コンクリート、場所打コンクリート控壁	
	品質管理	腹起し材、タイロッド、タイワイヤーの規格、外観、形状寸法	観察、測定状況
		タイロッド、タイワイヤーの試験杭、矢板の品質、コンクリートの品質	引張試験の状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況、完成状況
13. 鋼杭工			
1) 先行掘削			
2) 鋼 杭	施工管理	杭の保管	保管状況
		杭の積込み	吊上げ及び積込状況
		杭の運搬	運搬状況
		導材の設置	導材の設置状況
		杭の建込み	建込状況（位置出し、吊込み、建込み等）
		杭の打込み	打込状況 ハンマーの種類、型式等 打込記録中 飛油、騒音防止対策
		品質管理	杭の規格、外観、形状寸法
	出来形管理	出来形の確認	測定作業状況
14. コンクリート杭工			
1) コンクリート杭			

基準	注意事項及び説明
撮影時期	
観察、測定時	種類、形状寸法が変る毎にテープ等を同時撮影
施工時及び打込完了時	
施工時及び完了時	
施工時	3-1-11鋼矢板工を適用する。 3-1-11鋼矢板工を適用する。 3-6本土工（ブロック式）を適用する。 3-14-1上部コンクリート工を適用する。
観察、測定時	種類、形状寸法が変る毎にテープ等を同時撮影
試験時	3-1-11鋼矢板工を適用する。 3-14-1上部コンクリート工を適用する。
施工時及び取付完了時	
保管時	3-1-11鋼矢板工 1) 先行掘削を適用する。 全景及びまくら木、くさび等の変形、転落防止措置を撮影
施工時	使用機械器具、積込方法が判明できるように撮影
施工時	荷くずれ防止措置、台船への積載状況、使用船舶機械等が判明できるように撮影
施工時	使用材料及び船舶機械、導棒の構造が判明できるように撮影
施工時	作業状況が判明できるように撮影
施工時	杭打船等の全景、打込み方法、順序等が判明できるように撮影
適宜	
測定時	
対策を講じた時	飛油対策、騒音防止対策等を行った場合
観察、測定時	種類、形状寸法が変る毎にテープ等を同時撮影
施工時及び打込完了時	
	3-1-13鋼杭工 2) 鋼杭を適用する。

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
15. 防食工			
1) 電気防食	施工管理	使用船舶機械等	曳船、台船、潜水士船、溶接機
		製品（陽極）	取付陽極
		取付け（陽極） （電位測定装置）	取付状況 設置状況
	品質管理	形状寸法	測定状況
	出来形管理	出来形の確認 （陽極） （電位測定装置）	取付完了状態 電位測定
（素地調整）	施工管理	使用機械	ブレーカ、ブラスト等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	完 成	完成全景
2) FRPモルタル被覆	施工管理	使用船舶機械等	曳船、台船、潜水士船、溶接機
		施工状況	モルタル注入
		製品（FRP）	
	品質管理	形状寸法	設置状況 測定状況
	出来形管理	出来形の確認 （陽極） （電位測定装置）	取付完了状態 電位測定
（素地調整）	施工管理	使用機械	ブレーカ、ブラスト等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	完 成	完成全景
（モルタル工）	施工管理	使用機械	ブレーカ、ブラスト等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	出来形の確認 完 成	測定状況 完成全景
3) ペトロラタム被覆	施工管理	使用船舶機械等	曳船、台船、潜水士船、溶接機
		製品（FRP）	
		施工状況	設置状況
	品質管理	形状寸法	測定状況
	出来形管理	出来形の確認	取付完了状態
	（素地調整）	施工管理	使用機械
施工状況			作業状況
出来形管理		完 成	素地調整完了状態
（被覆）	施工管理	使用機械	ブレーカ、ブラスト等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	完 成	被覆完了状態

基準 撮影時期	注意事項及び説明
取付時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
取付前	取付陽極の部分（1組）及び取付陽極全体
取付時	取付状況（水中写真）
取付時	測定用端子の設置状況
測定時	
取付完了時	潜水士船による確認検査状況
測定時	電位差測定の状態
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
完成時	
取付時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
施工時	
取付前、取付後	
取付時	FRP被覆材の設置状況
測定時	
取付完了時	潜水士船による確認検査状況
測定時	電位差測定の状態
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
完成時	
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
測定時	
完成時	
取付時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
取付前、取付後	
取付時	FRP被覆材の設置状況
測定時	
取付完了時	潜水士船による確認検査状況
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
完成時	完了の部分（適宜）
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
完成時	完了の部分（適宜）

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
4) コンクリート被覆	施工管理	使用船舶機械等 被覆防食の作業状況	使用船舶、機械類 施工状況
	出来形管理	出来形の確認	被覆防食完了状態
5) 防食塗装	施工管理	使用船舶機械等 塗 装	使用船舶、機械類 施工状況
	出来形管理	出来形の確認	塗装完了状態

基 準	注意事項及び説明
撮 影 時 期	
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
施工時	
完了時	完了の部分（1箇所）及び正面全体と延長方向を撮影
施工時	曳船、台船、コンプレッサー等が判明できるように撮影
施工時、各層毎	
完了時	完了の部分（1箇所）及び正面全体と延長方向を撮影

3-1 共通の工種

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
19. 植生工			
1) 張 芝 2) 筋 芝	施工管理	使用機械器具等	転圧機械、打固め器具等
		施工状況	材料の管理 土の敷均し、肥料の散布 状況 芝の張付け
	品質管理 出来形管理	使用材料	土、芝、肥料
		植生状況	施工前区域 完成区域
3) 播 種 4) 種子吹付	施工管理	使用機械器具等	整地、鎮圧、散布機械等
		施工状況	材料の管理 種子の播き付け、土の敷 均し等
	品質管理	使用材料	土、種子、肥料、土壤改 良剤、養生剤等
	出来形管理	植生状況	施工前区域
完成区域			
5) 植 栽	施工管理	使用機械器具等	掘削機械、締固め器具
		施工状況	運搬機械、材料管理 土の敷均し、肥料の散布 状況 根回し、運搬、植穴、植 付け、名札等の状況
	品質管理	使用材料	土、肥料等
	出来形管理	植樹状況	樹 木
施工前区域 完成区域			

3-2 土捨工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 排砂管設備工			
2. 土運船運搬工			
3. 揚土土捨工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
搬入時	使用機器の規格、形状等が判明できるように撮影
施工時	材料の管理状況が判明できるように撮影
施工時	土の敷均し厚、肥料の散布状況が判明できるように撮影
施工時	剥離しやすい箇所固定、ローラ等による鎮圧状況が判明できるように撮影
搬入時	芝、肥料の種類、土の性状等が判明できるように撮影
施工前、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
施工完了後、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
搬入時	使用機器の規格、形状等が判明できるように撮影
施工時	材料の管理状況が判明できるように撮影
施工時、工程毎	作業状況が判明できるように撮影
搬入時	種子、肥料等材料の種類、品質が判明できるように撮影
施工前、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
施工完了後、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
搬入時	使用機器の規格、形状が判明できるように撮影
施工前	材料の管理状況が判明できるように撮影
施工前	土の敷均し、肥料の散布状況が判明できるように撮影
施工時、工程毎	植樹の施工状況が判明できるように撮影
搬入時	土の性状、肥料の種類が判明できるように撮影
搬入時、種類毎	樹木の形状が判明できるように撮影
施工前、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成状況が判明できるように撮影
施工完了後、全体区域及び部分	全体区域、部分的に施工前及び完成状況が判明できるように撮影

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-1排砂管設備工を適用する。
	3-1-2土運船運搬工を適用する。
	3-1-3揚土土捨工を適用する。

3-3 海上地盤改良工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 床掘工			
1) ポンプ床掘	施工管理	使用船舶機械等	作業現場
		床 掘	床掘位置測量状況
			中継船設置、撤去
		障害物除去	床掘状況
	障害物積込状況 運搬船に積込まれた状態		
出来形管理	出来形の確認	測定状況	
2) グラブ床掘	施工管理	使用船舶機械等	作業現場
3) 硬土盤床掘		床 掘	床掘位置測量状況
4) 砕岩床掘			床掘状況
5) バックホウ床掘		障害物除去	土質状況
			障害物積込状況 運搬船に積込まれた状態
出来形管理	出来形の確認	測定状況	
2. 排砂管設備工			
3. 土運船運搬工			
4. 揚土土捨工			
5. 置換工			
1) 置換材 2) 置換材均し	施工管理	使用船舶機械等	運搬船舶機械 均し船舶機械
		その他	海洋汚染防止対策 飛砂防止対策
	品質管理	材料の確認	材 料 品質試験状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
6. 圧密・排水工			
7. 締固工			
8. 固化工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
現地搬入前または現地搬入時	全景及び数量が判明できるように撮影
測量時	法線または区域標識を入れる。
設置撤去の作業時	
浚渫作業時、作業船毎積込時	床掘位置が判明できる背景を入れる。
積込完了時、運搬毎適宜	運搬個数が判明できるように撮影、或いは障害物の大きさが判明できるようにテープ等を同時に撮影、など障害物の状況に応じ撮影
捨込時	
測量作業時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。
現地搬入前または現地搬入時	全景及び数量が判明できるように撮影。
測量時	法線または区域標識を入れる。
床掘作業時、作業船毎	船団の配置及び床掘位置が判明できる背景を入れる。
床掘作業時	位置、深度または層を明記する。
積込時	
積込完了時、運搬毎適宜	運搬個数が判明できるように撮影、或いは障害物の大きさが判明できるようにテープ等を同時に撮影、など障害物の状況に応じ撮影
捨込時	
測量作業時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-1排砂管設備工を適用する。 3-1-2土運搬運搬工を適用する。 3-1-3揚土捨工を適用する。
投入時	全景が判明できるように撮影
均し作業時	均し用具は、作業前に撮影
対策を講じた時	
対策を講じた時	
現場搬入時（種類、品質及び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
測定時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-4圧密・排水工 1)サドトレーン、2)敷砂、3)敷砂均し、4) 載荷土砂、5)ペーパートレーンを適用する。 3-1-5締固工 2)サドコンパクション、3)盛上土砂撤去、4) 敷砂、5)敷砂均しを適用する。 3-1-6固化工 1)深層混合処理杭、3)敷砂、4)敷砂均しを適用する。

3-4 基礎工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 基礎盛砂工			
1) 盛 砂 2) 盛砂均し	施工管理	使用船舶機械等	運搬船舶機械 均し船舶機械
		その他	海洋汚染防止対策
	品質管理	材料の確認	材 料
	出来形管理	出来形の確認	品質試験状況 測定状況
2. 洗掘防止工			
3. 基礎捨石工			
1) 基礎捨石 2) 捨石本均し 3) 捨石荒均し	施工管理	準備、仮設	ストックヤード、仮設道路等
		陸上運搬	ストック、積込み、運搬状況
		捨石投入	投入状況
		捨石均し	均し状況
	品質管理	材料試験	試験状況
	出来形管理	材料の確認	産地・規格毎 測量状況
4. 袋詰コンクリート工			
5. 基礎ブロック工			
1) 基礎ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
	品質管理	函 台	製作函台
	出来形管理	鉄 筋 型 枠	組立てかぶり 組立完了
		コンクリート 完 成	形状寸法、外観 完成品
		仮置状況	
2) 基礎ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
6. 水中コンクリート工			
7. 水中不分離性コンクリート工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
投入時	全景が判明できるように撮影
均し作業時	均し用具は、作業前に撮影
対策を講じた時	
現場搬入時（種類、品質及び形状寸法の異なる毎）	
試験時	
測定時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-7洗掘防止工を適用する。
仮設道路、ストックヤード 使用前後	
運搬時	使用機械作業状況等が判明できるように撮影
投入時、捨石規格毎及び作業船種毎	
規格及び作業船毎	
試験時	公的機関が実施する場合は省略できる。
搬入時	スタッフ、テープ等を同時撮影
測量作業時	2-3袋詰コンクリートを適用する。
着工時全景	ヤード全景及び設備が判明出来るように撮影
施工時	使用する機械等の種類が判明できるように撮影
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立確認時	函台、函台の平坦性（敷砂等）及び剥離材（ルーフィング等）敷設状況の撮影
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複個数入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
据付時	据付作業が判明できるように撮影
目地測定時及び法線出入の測定時	据付の全体が判明できるように撮影
	2-2水中コンクリートを適用する。
	2-4水中不分離性コンクリートを適用する。

3-5 本土工（ケーソン式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影	
			撮 影 箇 所	
1. ケーソン製作工				
1) ケーソン製作用台船	施工管理	使用船舶機械等	フローティングドック、引船、起重機船、運搬船、クレーン運搬機械等	
		ヤード等	ヤード及び設備	
2) 底 面	施工管理	函 台	製作函台	
3) マット	施工管理	摩擦増大用マット類の確認（※1）	補強材セット状況	
			アスファルトコンクリート打設状況	
			搬入仮置	
	出来形管理	摩擦増大用マット敷設状況	アンカー取付け、加工	
運 搬				
出来形管理	摩擦増大用マット出来形の確認	敷設位置、重ね幅、延長及びジョイントの確認		
4) 支 保				
5) 足 場	施工管理	足場（※1）	組立状況	
			昇り足場設置状況	
			壁継ぎ設置状況	
			足場スペースの確保状況	
解体状況				
6) 鉄 筋	施工管理	鉄 筋	組立て	
	出来形管理			底 版
				フーチング
				外壁（側壁）
				隔 壁
				ハンチ部
				吊筋等
かぶり				
7) 型 枠	施工管理	型 枠（※1）	組立て	
	出来形管理			底版
				フーチング
				外壁（側壁）
				隔 壁
ハンチ部				
8) コンクリート	施工管理	コンクリート	形状寸法、外観（※2）	
	品質管理			完 成
	出来形管理			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	使用する船舶、機械の種類が判明できるように撮影
着工時全景	ヤード全景及び設備が判明できるように撮影
着工時及び作業時	函台、函台の平坦性（敷砂等）及び剥離材（ルーフィング等）の敷設状況の撮影
作業中、完了時	作業状況が判明できるように撮影
アスファルトコンクリート 打設時	
搬入仮置時	
取付加工時	
運搬時	
敷設時	
敷設完了時	確認箇所が判る背景を入れる。
	施工状況
組立時	内足場及び外足場の組立状況を撮影
同上	足場の構造、安全ネット等が判明できるように撮影
同上	
同上	
解体時	
組立段階確認時	施工状況 組立完了状況が判明できるように撮影
組立段階確認時	
各層 組立段階確認時	
各層 組立段階確認時	
上段 組立段階確認時	
上段 組立段階確認時	
各層 組立段階確認時	鉄筋と型枠の間隔が判明できるように撮影
組立段階確認時	施工状況 組立完了状況が判明できるように撮影
組立段階確認時	
各層 組立段階確認時	
各層 組立段階確認時	
上段 組立段階確認時	
	施工状況
	コンクリートの品質管理項目
打設後、各層	打設完了状況が判明できるように撮影
完成時、各函毎	ケーソン番号、吃水マーク等を入れて撮影

（※1）同一形状のケーソン毎に代表的な1サイクルの撮影で可とする

（※2）形状寸法は出来形管理基準の測定密度以上、外観は全段階・全数の撮影とする

3-5 本土工（ケーソン式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
2. ケーソン進水据付工			
1) バラスト	施工管理	バラスト投入	バラスト材投入状況
2) 止水板	施工管理	止水板	止水板の設置状況
3) 上 蓋	施工管理	蓋(ネットを含む。)	蓋の設置状況
4) 進 水	施工管理	進 水	進水方法
			進水設備
			進水状況
5) 仮 置	施工管理	浮 上	浮上または吊上げ完了状
		使用船舶機械等	起重機船、発電機、ポンプ等設置状況
	(沈設の場合) (係留の場合)	仮置作業	沈設状況
		仮置作業	係留状況
6) 回航・えい航	施工管理	出来形管理 (係留の場合)	仮置完了 仮置完了
		出来形管理 (係留の場合)	沈設完了状況 係留完了状況
7) 据 付	施工管理	蓋の設置状況	完了状況
		使用船舶	引船全景
		えい航・回航用ロープ	取付状況及び、吊具取付状況
		えい航・回航 寄港避難	えい航・回航姿勢 寄港及び避難の状況
	出来形管理	えい航・回航完了	完了（目的地着）状況
3. 中詰工	施工管理	使用船舶機械等	起重機船、発電機、ポンプ等配置状況
		据付作業	据付作業状況
		据付位置	前面または背面の確認
		出来形管理	出来形の確認
4. 蓋コンクリート工	施工管理	据付目地	据付完了状況
		据付法線の出入	据付完了状況
5. 蓋ブロック工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
投入時	バラスト投入方法及び材料が判明できるように撮影
進水時	曳航の場合で蓋の取付状況または取付完了状態を撮影
進水時	曳航の場合で蓋の取付状況または取付完了状態を撮影
進水時	斜路式、ドライドック、FD、吊降し等の方法が判明できるように撮影
進水時	設備（吊降しの場合、起重機船、吊具を含む。）が判明できるように撮影
進水時	漏水がある場合は漏水状況及び処置状況を撮影
進水（吊上げ）完了時	計画吃水であることが確認できるように撮影
設置時	使用する船舶機械等の種類が判明できるように撮影
仮置時	沈設作業（注水を含む。）が判明できるように撮影
仮置時	係留作業（係留アンカーを含む。）が判明できるように撮影
完了時、各函毎	沈設仮置完了状態が判明できるように撮影
完了時、各函毎	係留完了状態（係留ロープを含む。）が判明できるように撮影
完了時、各函毎	
えい航開始時	形象物等が判明できるように撮影
えい航開始時	えい航・回航用ロープの取付位置及び状況について撮影
えい航・回航時	えい航・回航の姿勢が判明できるように撮影
寄港時及び避難時、各函毎	途中寄港した場合には、その係留等の状態が判明できるように撮影
えい航・回航完了時	えい航・回航が完了したことが判明できるように撮影（付近の背景を同時撮影）
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
据付時、各函毎	据付作業が判明できるように撮影
据付時、各函毎	配筋が非対象の場合に適用する。
完了時	据付完了が判明できるように撮影
完了時	代表的な部分を撮影
完了時	完成法線が判明できるように撮影（延長方向へ撮影）
	3-1-8中詰工を適用する。
	3-1-9蓋コンクリート工を適用する。
	3-1-10蓋ブロック工を適用する。

3-6 本土工（ブロック式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 本体ブロック製作工			
1) 底 面	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等 函 台	クレーン等 製作函台
2) 足 場		足場	組立て 解体
3) 鉄 筋	施工管理	鉄 筋	組立て 底 盤 フーチング 壁 ハンチ部 吊筋等 かぶり
	出来形管理		
4) 型 枠	施工管理	型 枠	組立完了
	出来形管理		
5) コンクリート	施工管理	コンクリート 完 成	形状寸法、外観 完成品 仮置状況
	品質管理		
	出来形管理		
2. 本体ブロック据付工			
1) 本体ブロック据 付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
3. 中詰工			
4. 蓋コンクリート工			
5. 蓋ブロック工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
着工時全景	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
組立時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
解体時	
組立完了時	施工状況 組立完了状況が判明できるように撮影
組立完了時	
組立完了時	
組立完了時	
組立完了時	鉄筋と型枠の間隔が判明できるように撮影
組立確認時	施工状況 組立完了状況が判明できるように撮影
	施工状況
	コンクリートの品質管理項目
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複数入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
据付時	据付作業が判明できるように撮影
目地測定時及び法線出入の測定時	据付の全体が判明できるように撮影
	3-1-8中詰工を適用する。
	3-1-9蓋コンクリート工を適用する。
	3-1-10蓋ブロック工を適用する。

3-7 本土工（場所打式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 場所打コンクリート工			
1) 足 場		足場	組立て 解体
2) 鉄 筋	施工管理	鉄 筋	鉄筋の仮置、溶接、組立 作業 組立て、結束及び溶接
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
3) 型 枠	施工管理	型 枠	型枠の構造 目地材等の取付状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4) 伸縮目地	施工管理	伸縮目地	伸縮目地の設置状況
5) コンクリート	施工管理	準備仮設	プラント仮設、コンク リートミキサー船回航、 仮設道路、登坂路等
			コンクリートミキサー船 回航
			仮設道路、登坂路等
		打継ぎ処理	処理作業
		コンクリート	仕上状況
		その他	灯台基礎、電柱穴、階段 等
	品質管理		
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
6) 補助ヤード施設	施工管理	補助ヤード	補助ヤード
2. 水中コンクリート工			
3. プレパックドコンクリート工			
4. 水中不分離性コンクリート工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
組立時 解体時 施工時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立時 測定時 施工時 施工時 測定時 施工時	測定作業が判明できるように撮影 作業機械、船舶、作業方法が判明できるように撮影 測定作業が判明できるように撮影
着手前後作業中及び跡片付後	
回航開始時、終了時及び作業時	使用船舶、回航の状況等が判明できるように撮影
仮設作業時、設置後及び撤去時 施工時 表面仕上時 穴埋等 施工時	路線状況が判明できるように撮影 作業方法が判明できるように撮影 天端均し仕上状況を撮影 型枠取外後の締付材等の穴埋状況を撮影
	コンクリートの品質管理項目
測定時 着工時全景	測定作業が判明できるように撮影 ヤード全景及び設備が判明できるように撮影 2-2水中コンクリートを適用する。 2-5プレパックドコンクリート工を適用する。 2-4水中不分離性コンクリートを適用する。

3-8 本土工（捨石・捨ブロック式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 洗掘防止工			
2. 本体捨石工			
1) 本体捨石 2) 本体捨石均し	施工管理	準備、仮設	ストックヤード、仮設道路等
		陸上運搬	ストック、積み込み、運搬状況
		捨石投入	投入状況
		捨石均し	均し状況
	品質管理	材料試験	試験状況
	出来形管理	材料の確認	産地・規格毎 測量状況
3. 捨ブロック工			
1) 捨ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
		函 台	製作函台
	品質管理		
	出来形管理	鉄 筋	組立てかぶり
		型 枠	組立完了
		コンクリート	形状寸法、外観
		完 成	完成品
			仮置状況
2) 捨ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4. 場所打コンクリート工			
1) 基礎砕石	品質管理	材料の確認	材 料
			品質試験状況
2) 型 枠	施工管理	型 枠	型枠の構造 目地材等の取付状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
3) 伸縮目地	施工管理	伸縮目地	伸縮目地の設置状況
4) コンクリート	施工管理	準備仮設	プラント仮設、コンクリートミキサー船回航、仮設道路、登坂路等 コンクリートミキサー船回航 仮設道路、登坂路等
		打継ぎ処理 コンクリート	処理作業 仕上状況

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-7洗掘防止工を適用する。
仮設道路、ストックヤード 使用前後 運搬時	作業機械作業状況等が判明できるように撮影
投入時、捨石規格毎及び作 業船種毎 規格及び作業船毎	
試験時	公的機関が実施する場合は省略できる。
搬入時	スタッフ、テープ等を同時撮影
測量作業時	
着工時全景 施工時 着工時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立完了時 組立確認時	コンクリートの品質管理項目 3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
打設後 完成時	番号等を入れて撮影 個数が確認できれば1枚に複数枚入れて撮影（全個数確認必 要枚数撮影）
仮置時 施工時 据付時 測定時	積重ね段数が判明できるように撮影 使用する船舶機械等が判明できるように撮影 据付作業が判明できるように撮影 据付の全体が判明できるように撮影
現場搬入時（種類、品質及 び形状寸法の異なる毎） 試験時 施工時 施工時 測定時 施工時	作業機械、船舶、作業方法が判明できるように撮影 測定作業が判明できるように撮影
着手前後作業中及び跡片付 後	
回航開始時、終了時及び作 業時 仮設作業時、設置後及び撤 去時 施工時 表面仕上時 穴埋時	使用船舶、回航の状況等が判明できるように撮影 路線状況が判明できるように撮影 作業方法が判明できるように撮影 天端均し仕上状況を撮影 型枠取外後の締付材等の穴埋状況を撮影

3-8 本土工（捨石・捨ブロック式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
		その他	灯台基礎、電柱穴、階段等
	品質管理		
	出来形管理	出来形の確認	測定状況

3-9 本土工（鋼矢板式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 鋼矢板工			
2. 控 工			

3-10 本土工（コンクリート矢板式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. コンクリート矢板工			
1) コンクリート矢板			
2. 控 工			

3-11 本土工（鋼杭式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 鋼杭工			

3-12 本土工（コンクリート杭式）

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. コンクリート杭工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	
	コンクリートの品質管理項目
測定時	測定作業が判明できるように撮影

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-11鋼矢板工を適用する。
	3-1-12控工を適用する。

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-11鋼矢板工 2) 鋼矢板を適用する。
	3-1-12控工を適用する。

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-13鋼杭工を適用する。

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-13鋼杭工を適用する。

3-13 被覆・根固工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 被覆石工			
1) 被覆石			
2) 被覆石均し			
2. 袋詰コンクリート工			
3. 被覆ブロック工			
1) 被覆ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
	品質管理 出来形管理	函 台	製作函台
		鉄 筋 型 枠（※1） コンクリート（※2） 完 成	組立てかぶり 組立完了 形状寸法、外観 完成品 仮置状況
2) 被覆ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4. 根固ブロック工			
1) 根固ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
	品質管理 出来形管理	函 台	製作函台
		鉄 筋 型 枠（※1） コンクリート（※2） 完 成	組立てかぶり 組立完了 形状寸法、外観 完成品 仮置状況
2) 根固ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等 据付作業	起重機船、台船等 据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
5. 水中コンクリート工			
6. 水中不分離性コンクリート工			
7. サンドマスチック工			
1) サンドマスチック	施工管理	使用船舶機械等	起重機船、台船等
		施工状況	作業状況
	品質管理 出来形管理	材料の確認	試験及び検査
		出来形の確認	測定状況

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-4-3基礎捨石工 1)基礎捨石を適用する。
	3-4-3基礎捨石工 2)捨石本均し、3)捨石荒均しを適用す
	2-3袋詰コンクリートを適用する。
着工時全景	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立確認時	
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複数数入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
据付時	据付作業が判明できるように撮影
測定時	据付の全体が判明できるように撮影
着工時全景	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立確認時	
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複数数入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	3-13-3被覆ブロック工 2)被覆ブロック据付の関連事項を適用する。
据付時	
測定時	
	2-2水中コンクリートを適用する。
	2-4水中不分離性コンクリートを適用する。
施工時	
施工時	
試験及び検査時	
測定時	

（※1）同一形状のブロック毎に代表的な1サイクルの撮影で可とする

（※2）出来形管理基準の測定密度以上の撮影とする

3-14 上部工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影	
			撮 影 箇 所	
1. 上部コンクリート工				
1) 支 保				
2) 足 場		足場	組立て 解体	
3) 鉄 筋	施工管理	鉄 筋	鉄筋の仮置、溶接、組立 作業 組立て、結束及び溶接	
	出来形管理	出来形の確認	測定状況	
4) 型 枠	施工管理	型 枠	型枠の構造 目地材等の取付状況	
	出来形管理	出来形の確認	測定状況	
5) 伸縮目地	施工管理	伸縮目地	伸縮目地の設置状況	
6) コンクリート	施工管理	準備仮設	プラント仮設、コンク リートミキサー船回航、 仮設道路、登坂路等 コンクリートミキサー船 回航 仮設道路、登坂路等	
			打継ぎ処理	処理作業
			コンクリート	仕上状況
		その他	灯台基礎、電柱穴、階段 等	
	品質管理			
	出来形管理	出来形の確認	測定状況	
7) 補助ヤード施設	施工管理	補助ヤード	補助ヤード	
2. 上部ブロック工				
1) 上部ブロック製 作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備	
		使用船舶機械等	クレーン等	
		函 台	製作函台	
	品質管理			
	出来形管理	鉄 筋	組立てかぶり	
		型 枠	組立完了	
コンクリート 完 成		形状寸法、外観 完成品		
		仮置状況		
2) 上部ブロック据 付	施工管理	使用船舶機械等	起重機船、台船等	
		据付作業	据付作業状況	
	出来形管理	出来形の確認	測定状況	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	施工状況
組立時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
解体時	
施工時	
組立時	
測定時	測定作業が判明できるように撮影
施工時	作業機械、船舶、作業方法が判明できるように撮影
施工時	
測定時	測定作業が判明できるように撮影
施工時	
着手前後作業中及び跡片付後	
回航開始時、終了時及び作業時	使用船舶、回航の状況等が判明できるように撮影
仮設作業時、設置後及び撤去時	路線状況が判明できるように撮影
施工時	作業方法が判明できるように撮影
表面仕上時	天端均し仕上状況を撮影
穴埋時	型枠取外後の締付材等の穴埋状況を撮影
施工時	
	コンクリートの品質管理項目
測定時	測定作業が判明できるように撮影
着工時全景	ヤード全景及び設備が判明できるように撮影
着工時全景	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-5-1ケーソン製作工の関連事項を適用する。
組立確認時	
打設後	番号等を入れて撮影
完成時	個数が確認できれば1枚に複数入れて撮影（全個数確認必要枚数撮影）
仮置時	積重ね段数が判明できるように撮影
施工時	3-13-3被覆ブロック工 2)被覆ブロック据付の関連事項を適用する。
据付時	
測定時	

3-15 付属工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 係船柱工			
1) 係船柱	施工管理	使用船舶機械等	杭打機、クレーン車（船）、トラック等
		施 工	基礎工施工状況
		据 付	本体据付状況
	品質管理 出来形管理	搬入数量の確認	係船柱
		杭	基礎杭
		石材投入、均し	基礎石投入均し完了状況
		型 枠	型枠組立完了状況
		基礎完成	基礎完成状況
	据付完成	本体据付確認状況	
2. 防舷材工			
1) 防舷材	施工管理	使用船舶機械等	台船、クレーン車(船)
		取付け	取付位置の状況
			取付状況
	品質管理 出来形管理	搬入数量の確認 出来形の確認	防舷材 取付完了状態
3. 車止・縁金物工			
1) 車止・縁金物	施工管理	使用船舶機械等	台船、溶接機、クレーン
		取付け	取付状況 塗装状況
	品質管理	形状寸法	測定状況
	出来形管理	塗 料 取付け	塗料の種類毎 取付完了状態
4. 防食工			
5. 付属設備工			
1) 係船環	施工管理	使用船舶機械等	クレーン車(船)、トラック等
		取 付	本体取付状況
	品質管理	搬入数量の確認	係船環
	出来形管理	取付完了	本体取付確認状況

基準 撮影時期	注意事項及び説明
設置時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
施工時	基礎施工状況（杭打ち、基礎石投入、均し及びコンクリート打設等）を撮影（押込ボルトを含む。）
据付時	据付状況が判明できるように撮影
搬入時	搬入数量及び所定の規格表示が判明できるように撮影
杭打完了時	基礎杭打込完了状況が判明できるように撮影
均し完了時	基礎石均しが判明できるように撮影
組立完了時	打設前の型枠、埋込ボルト検査状態
完成時	完成が判明できるように撮影
完成時	据付完了状態が判明できるように撮影
取付時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
取付前	埋込（取付）ボルトの部分及び全景取付状況の撮影
取付時	
搬入時	搬入数量及び所定の規格表示が判明できるように撮影
取付完了時	取付完了状態の部分（1基）及び正面全体と延長方向全景
取付時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
取付時	取付状況（取付け、溶接、コンクリート打設）
塗装時、各層毎	各層毎の塗装状況（警戒色塗装を含む。）
測定時	
搬入時	塗料の種類別に内容が判明できるもの
取付完了時	取付完了状態の部分（1基）及び正面全体と法線方向全景
	3-1-15防食工を適用する。
設置時	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
取付時	取付状況が判明できるように撮影
搬入時	搬入数量及び所定の規格表示が判明できるように撮影
完了時	取付完了状態が判明できるように撮影

3-16 消波工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 洗掘防止工			
2. 消波ブロック工			
1) 消波ブロック製作	施工管理	ヤード等	ヤード及び設備
		使用船舶機械等	クレーン等
		函 台	製作函台
	品質管理		
	出来形管理	鉄 筋	組立てかぶり
		型 枠（※1）	組立完了
コンクリート（※2）		形状寸法、外観	
		完 成	完成品
			仮置状況
2) 消波ブロック据付	施工管理	使用船舶機械等	起重機船、台船等
		据付作業	据付作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況

3-17 裏込・裏土工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影	
			撮 影 箇 所	
1. 裏込工				
1) 目地板	施工管理	目地板の確認	搬入	
		敷設状況	敷設状況と使用船舶機械	
	品質管理	材料試験	試験状況	
		目地板の形状寸法	測定状況	
	出来形管理	出来形の確認	敷設完了状態	
2) 裏込材 3) 瀬取り 4) 裏込均し	施工管理	準備、仮設	ストックヤード、仮設道路等	
		陸上運搬	ストック、積込み、運搬状況	
		瀬取り	瀬取り状況	
		裏込材投入	投入状況	
		裏込均し	均し状況	
	品質管理	材料試験	試験状況	
		材料の確認	産地・規格毎	
	出来形管理	出来形の確認	測量状況	
	5) 吸い出し防止材	施工管理	吸い出し防止材の確認	搬入
			敷設状況	敷設状況と使用船舶機械
品質管理		材料試験	試験状況	
		吸い出し防止材の形状寸法	測定状況	
出来形管理	出来形の確認	敷設完了状態		

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-7洗掘防止工を適用する。
着工時全景	3-13-3被覆ブロック工 1)被覆ブロック製作の関連事項を適用する。
施工時	
着工時	
	コンクリートの品質管理項目
組立完了時	3-13-3被覆ブロック工 1)被覆ブロック製作の関連事項を適用する。
組立確認時	
打設後	
完成時	
仮置時	
施工時	3-13-3被覆ブロック工 2)被覆ブロック据付の関連事項を適用する。
据付時	
測定時	

（※1）同一形状のブロック毎に代表的な1サイクルの撮影で可とする

（※2）出来形管理基準の測定密度以上の撮影とする

基準 撮影時期	注意事項及び説明
搬入時	
敷設時	
試験時	
測定時	
敷設完了時	
仮設道路、ストックヤード 使用前後	
運搬時	作業機械及び作業状況等が判明できるように撮影
施工時	
施工時	
投入時、捨石規格毎及び作 業船種毎	
規格及び作業船毎	
試験時	公的機関が実施する場合は省略できる。
搬入時	スタッフ、テープ等を同時撮影
測量作業時	
搬入時	
敷設時	
試験時	
測定時	
敷設完了時	

3-17 裏込・裏埋工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
2. 裏埋工			
1) 裏埋材	施工管理	使用船舶機械	主要船舶機械
		施工状況一般	埋立材の採取状況
			埋立材運搬の状況
			埋立材整地状況
	品質管理	材料の品質管理状況	特に定められた品質管理の作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
3. 裏埋土工			
1) 土砂掘削	施工管理	使用機械	主要機械
		仮置場及び土砂処分場掘削・切土	仮置及び土砂処分状況
		運搬	掘削、切土、穿孔及び発破状況
	埋戻し及び裏込め	土砂の搬入、搬出状況	
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
2) 土砂盛土	施工管理	使用機械	主要機械
		仮置場及び土砂処分場	仮置及び土砂処分状況
		運搬	土砂の搬入、搬出状況
		盛土	盛土及び各層の転圧状況
	品質管理	材料の確認	試験及び搬入状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況

3-18 陸上地盤改良工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 圧密・排水工			
2. 締固工			
3. 固化工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時、船舶機械毎 採取作業時 運搬作業時 整地作業時	使用する船舶機械の種類が判明できるように撮影
設置作業時及び撤去時 防止処置作業時 品質管理作業時、品質管理 内容毎 測定時	余水吐が判明できるように撮影
施工時、機械毎 施工時、機械毎 施工時、機械毎	使用機械の種類が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影
施工時、機械毎 施工時、機械毎	各作業状況が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影 埋没物等は、その状況が判明できるように撮影
測定時、作業毎 施工時、機械毎 施工時、機械毎 施工時、機械毎 施工時、機械毎 試験及び搬入時 測定時、作業毎	使用機械の種類が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影 各作業状況が判明できるように撮影 主要材料並びに試験及び搬入の状況が判明できるように撮 盛土の各層の仕上り厚さが判明できるように撮影

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-4圧密・排水工を適用する。
	3-1-5締固工を適用する。
	3-1-6固化工を適用する。

3-19 維持補修工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 維持塗装工			
1) 係船柱塗装	施工管理	使用船舶機械等	使用船舶、機械類
2) 車止塗装		塗 装	施工状況
3) 縁金物塗装	出来形管理	出来形の確認	塗装完了状態
2. 防食工			

3-20 構造物撤去工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 取壊し工			
1) コンクリート取壊し	施工管理	使用船舶機械等	使用船舶、機械等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
		完 成	完成全景
2. 撤去工			
1) 水中コンクリート撤去	施工管理	使用船舶機械等	使用船舶、機械等
2) 鋼矢板等切断撤去		施工状況	作業状況
3) 腹起・タイ材撤去			
4) 舗装版撤去	出来形管理	出来形の確認	測定状況
5) 石材撤去			
6) ケーソン撤去			
7) ブロック撤去		完 成	完成全景
8) 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去			

3-21 仮設工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 仮設鋼矢板工			
1) 仮設鋼矢板・H形鋼杭			
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工			
1) 先行掘削			
2) 仮設鋼管杭・鋼管矢板			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	曳船、台船、コンプレッサー等が判明できるように撮影
施工時、各層毎 完了時	完了の部分（1箇所）及び正面全体と延長方向を撮影 3-1-15防食工を適用する。

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
測定時	
完成時	
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
測定時	
完成時	

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-11鋼矢板工 2) 鋼矢板を適用する。
	3-1-13鋼杭工 1) 先行掘削を適用する。 3-1-13鋼杭工 2) 鋼杭を適用する。

3-22 雑工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 現場鋼材溶接工			
1) 現場鋼材溶接	施工管理	開先の加工	加工状況
2) 被覆溶接 (水中)		溶 接	作業状況
		水中溶接	作業状況
3) スタッド溶接 (水中)	品質管理	溶接棒、溶接ワイヤ	特の品質であることの表示
	出来形管理	外観、形状寸法	観察、測定状況 形状寸法
		試 験	試料の採取状況 強度試験の状況 非破壊試験の状況 カラーチェックの結果
2. 現場鋼材切断工			
1) 現場鋼材切断	施工管理	切 断	作業状況
		水中切断	作業状況
	品質管理	酸素ガス及び溶解アセチレン	特の品質であることの表示
	出来形管理	外観、形状寸法	観察、測定状況 形状寸法
3. その他雑工			
1) 清 掃	施工管理	使用機械	ブレーカ、ブラスト等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	施工前区域	施工前
		完 成	完成全景
2) 削 孔	施工管理	使用機械	カッター、ブレーカ等
		施工状況	作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
		完 成	完成全景

基準 撮影時期	注意事項及び説明
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
施工時	
使用前	包装の表示が判明できるように撮影
測定時	
測定時	ゲージを同時撮影
採取前及び採取時	
試験時	
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	ポンベの表示等が判明できるように撮影
使用前	
測定時	ゲージを同時撮影
測定時	
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
施工前	
完成時	全体区域、部分的に施工前及び完成の状況が判明できるように撮影
施工時	使用機械器具が判明できるように撮影
施工時	
測定時	
完成時	

3-23 浚渫工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影	
			撮 影 箇 所	
1. ポンプ浚渫工				
1) ポンプ浚渫	施工管理	使用船舶機械等	作業現場	
		位置測量	浚渫位置測量状況	
		施工状況	浚渫状況 中継船設置、撤去	
		障害物除去	障害物積込状況	運搬船に積込まれた状態
			障害物捨込状況	
		出来形管理	出来形の確認	測定状況
2) 排砂管設備				
2. グラブ浚渫工				
1) グラブ浚渫	施工管理	使用船舶機械等	作業現場	
		位置測量	浚渫位置測量状況	
		施工状況	浚渫状況 土質状況	
		障害物除去	障害物積込状況	運搬船に積込まれた状態
			障害物捨込状況	
		出来形管理	出来形の確認	測定状況
2) 土運船運搬				
3. 硬土盤浚渫工				
1) 硬土盤浚渫				
2) 土運船運搬				
4. 岩盤浚渫工				
1) 砕岩浚渫				
2) 土運船運搬				
5. バックホウ浚渫工				
1) バックホウ浚渫				
2) 土運船運搬				

基準 撮影時期	注意事項及び説明
現地搬入前または現地搬入時	全景及び数量が判明できるように撮影。
測量時	法線または区域標識を入れる。
浚渫作業時、作業船毎	浚渫位置が判明できる背景を入れる。
設置撤去の作業時	
積込時	
積込完了時、運搬毎適宜	運搬個数が判明できるように撮影、或いは障害物の大きさが判明できるようにテープ等を同時に撮影、など障害物の状況に応じ撮影
捨込時	
測量作業時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-1排砂管設備工を適用する。
現地搬入前または現地搬入時	全景及び数量が判明できるように撮影。
測量時	法線または区域標識を入れる。
浚渫作業時、作業船毎	船団の配置及び浚渫位置が判明できる背景を入れる。
浚渫作業時	位置、深度または層を明記する。
積込時	
積込完了時、運搬毎適宜	運搬個数が判明できるように撮影、或いは障害物の大きさが判明できるようにテープ等を同時に撮影、など障害物の状況に応じ撮影
捨込時	
測量作業時	全景については、位置が判明できる背景を入れる。 3-1-2土運船運搬工を適用する。
	3-23-2グラブ浚渫工 1) グラブ浚渫を適用する。
	3-1-2土運船運搬工を適用する。
	3-23-2グラブ浚渫工 1) グラブ浚渫を適用する。
	3-1-2土運船運搬工を適用する。
	3-23-2グラブ浚渫工 1) グラブ浚渫を適用する。
	3-1-2土運船運搬工を適用する。

3-24 埋立工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 余水吐工			
1) 余水吐	施工管理	施工状況一般	余水吐の設置及び撤去 公害防止対策
2. 固化工			
3. 埋立工			
1) ポンプ土取	施工管理	使用船舶機械	主要船舶機械
2) グラブ土取		施工状況一般	埋立材の採取状況
3) ガット土取			埋立材運搬の状況 埋立材整地状況
	品質管理	材料の品質管理状況	特に定められた品質管理 の作業状況
	出来形管理	出来形の確認	測定状況
4. 排砂管設備工			
5. 土運船運搬工			
6. 揚土埋立工			
1) バー吉安ロー ター揚土			
2) 空気圧送揚土			
3) リクレーマ揚土			
4) バックホウ揚土			
7. 埋立土工			
1) 土砂掘削			
2) 土砂盛土			

3-25 緑地工

工 種	撮影区分	撮影項目	撮 影
			撮 影 箇 所
1. 植生工			

基準 撮影時期	注意事項及び説明
設置作業時及び撤去時 防止処置作業時	余水吐が判明できるように撮影 3-1-6固化工 5) 事前混合処理を適用する。
施工時、船舶機械毎 採取作業時 運搬作業時 整地作業時 品質管理作業時、品質管理 内容毎 測定時	使用する船舶機械の種類が判明できるように撮影 3-1-1排砂管設備工を適用する。 3-1-2土運船運搬工を適用する。 3-1-3揚土土捨工 1) バージアンローダー揚土を適用する。 3-1-3揚土土捨工 2) 空気圧送揚土を適用する。 3-1-3揚土土捨工 3) リクレーマ揚土を適用する。 3-1-3揚土土捨工 4) バックホウ揚土を適用する。 3-17-3裏埋土工 1) 土砂掘削を適用する。 3-17-3裏埋土工 2) 土砂盛土を適用する。

基準 撮影時期	注意事項及び説明
	3-1-19植生工を適用する。

写真管理基準（港湾編・港湾海岸編）

（白紙）

4. デジタル写真管理情報基準

(白紙)

1 適用

「デジタル写真管理情報基準」(以下「本基準」という)は、写真(工事・測量・調査・地質・広報・設計)の原本を電子媒体で提出する場合の属性情報等の標準仕様を定めたものである。

2 フォルダ構成

写真の原本を電子媒体で提出する場合のフォルダ構成は、以下のとおりとする。
なお、「PHOTO」フォルダ以外のフォルダ構成については、電子納品等の運用を定める各ガイドラインによる。

- 「PHOTO」フォルダの直下に写真管理ファイルと「PIC」及び「DRA」のサブフォルダを置く。なお、DTD 及びXSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。
- 「PIC」とは、撮影した写真ファイルを格納するサブフォルダを示し、「DRA」とは、参考図ファイルを格納するサブフォルダを示す。
- 参考図とは、撮影位置、撮影状況等の説明に必要な撮影位置図、平面図、凡例図、構造図等である。
- 参考図がない場合は「DRA」サブフォルダは作成しなくてもよい。
- フォルダ名称は半角英大文字とする。
- 写真フォルダ(PIC)及び参考図フォルダ(DRA)直下に直接対象ファイルを保存し、階層分けは行わない。

3 写真管理項目

電子媒体に格納する写真管理ファイル（PHOTO. XML）に記入する写真管理項目は下表に示すとおりである。

表3-1写真管理項目（1/2）

分類	項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	写真フォルダ名	写真ファイルを格納するフォルダ名称（PHOTO/PCで固定）を記入する。	半角英大文字	9 固定	▲	◎
	参考図フォルダ名	参考図ファイルを格納するために「DRA」サブフォルダを作成した場合、そのフォルダ名称（PHOTO/DRAで固定）を記入する。	半角英大文字	9 固定	▲	○
	適用要領基準	電子成果品の作成で適用した要領・基準の版（土木202003-01）で固定を記入する。 （分野：土木、西暦年：2020、月：03、版：01）	全角文字半角英数字	30	▲	◎
写真ファイル情報	写真ファイル番号	写真識別番号。提出時の電子媒体を通じて、一連のまとまった写真についてユニークであれば、中抜けしてもいい。123枚目を、「000123」の様に0を付けて記入してはならない。	半角数字	7	▲	◎
	写真ファイル名	写真ファイル名称を拡張子も含めて記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
	写真ファイル日本語名	写真ファイルに関する日本語名等を記入する。	全角文字半角英数字	127	□	△
	メディア番号	一連のまとまった写真について、保存されている電子媒体番号を記入する。単一の電子媒体であれば、全て「1」となる。	半角数字	8	□	◎
	写真-大分類	写真を撮影した業務の種別が「工事」「測量」「調査」「地質」「広報」「設計」その他の場合を選択して記入する。工事写真は常に「工事」と記入する。	全角文字半角英数字	8	□	◎
	写真区分	写真管理基準案の分類に準じ、「前半期及び完成写真」「既済部分写真等を含む」「施工状況写真」「安全管理写真」「使用材料写真」「品質管理写真」「出射形管理写真」「災害写真」「事故写真」「その他（公害、環境、補償等）の区分が決められる記入する。 大分類が「工事」ではない場合は、自由記入とし、大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は、記入は不要とする。	全角文字半角英数字	127	□	○
	工種	土木工事の場合、工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事種別体系のレベル4「工種」を記入する。 大分類が「工事」ではない場合は、自由記入とし、大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は、記入は不要とする。	全角文字半角英数字	127	□	○
	種別	土木工事の場合、工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事種別体系のレベル4「種別」を記入する。 大分類が「工事」ではない場合は、自由記入とし、大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は、記入は不要とする。	全角文字半角英数字	127	□	○
	細別	土木工事の場合、工種以下の分類が明確で記入可能であれば、新土木工事種別体系のレベル4「細別」を記入する。 大分類が「工事」ではない場合は、自由記入とし、大分類が「工事」で「提出頻度写真」ではない場合は、記入は不要とする。	全角文字半角英数字	127	□	○
	写真タイトル	写真の撮影内容が分かるように、写真管理基情報中の撮影項目、撮影時期に相当する内容を記入する。	全角文字半角英数字	127	□	◎
写真工程区分	工程区分予備	工程区分に関して特筆事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字半角英数字	127	□	△
	参考図ファイル名	撮影位置図、凡例図等の参考図のファイル名を記入する。異称に記した図の判別が困難な場合、又は当該写真に関し、撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図または凡例図等の参考図を添付者が作成している場合に記入する。	半角英数大文字	13	▲	◎
	参考図ファイル日本語名	参考図ファイルに関する日本語名等を記入する。	全角文字半角英数字	127	□	○
	参考図タイトル	参考図の内容が分かるようなタイトルを記入する。異称に記した図の判別が困難な場合、又は当該写真に関し、撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図または凡例図等の参考図を添付者が作成している場合に記入する。	全角文字半角英数字	127	□	◎
撮影情報	付加情報予備	参考図、撮影箇所等に関して特筆事項があれば記入する。（複数記入可）	全角文字半角英数字	127	□	△
	撮影箇所	当該写真に関する観測位置、撮影対象までの距離、撮影内容を簡潔に記入する。撮影位置図上に複数撮影位置が記載されている場合には、位置図上の記号等を記入する。	全角文字半角英数字	127	□	○
	撮影年月日	写真を撮影した年月日をCCYY-MM-DD方式で記入する。月または日が不明な場合は命令句を付記して、必ず10桁で記入する。（CCYY：西暦が年数、MM：月、DD：日） 例）平成20年12月3日 → 2008-12-03	半角数字 YYYYMMDD	10 固定	□	◎

表3-1 写真管理項目（2/2）

分類	項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
写真 管理 ※	代表写真	写真管理基準(案)の撮影箇所一覧表に示される提出頻度が不要以外の写真のうちから工事の全作業現場や当該工事で重要となる代表写真の場 合、「1」を記入する。代表写真でない場合は「0」を記入する。	半角数字	1 固定	□	◎
	提出頻度写真	写真管理基準(案)の提出頻度に基づき写真である場合、「1」を記入す る。それ以外の場合は「0」を記入する。	半角数字	1 固定	□	◎
※	施工管理値	照像の照度が不明な場合、設計手法及び実施手法等の補足事項を記入 する。	全角文字半 角英数字	127	□	○
	受注者説明文	受注者側で検査立会者、特筆事項等があれば記入する。	全角文字半 角英数字	127	□	△
	ソフトウェア用TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字半 角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字2文字で全角文字1文字に相当する。

【記入者】 □：電子成果品作成者が記入する項目

▲：電子成果品作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず入力する）

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- 写真管理項目は、写真の電子データファイルを検索、参照するなど活用して
いくための属性項目である。
- 写真管理項目のデータ表現の定義は、「9-2 使用文字」に従う。
- 付属資料1に管理ファイルのDTD、付属資料2に管理ファイルのXML 記入
例を示す。
- 工種、種別、細別の各項目は、新土木工事積算体系にない土木工事や他の工
事の場合には、対応するレベルのものを正しく記入する。
- 写真区分ごとに工種、種別、細別の記入可否は異なる。写真区分ごとの記入
可否の目安は、以下のとおりである。

表3-2 工種区分の記入可否の目安

写真区分	工種	種別	細別
着手前及び完成写真	×	×	×
施工状況写真	△	△	△
安全管理写真	△	×	×
使用材料写真	△	△	△
品質管理写真	○	△	△
出来形管理写真	○	△	△
災害写真	×	×	×
その他	×	×	×

(○：記入、△：記入可能な場合は記入、×：記入は不要とするが、任意の記入も可)

- 「代表写真」の項目には、当該工事の概要が把握できる、または重要な写真
である場合に「1」を記入する。代表写真でない場合は「0」を記入する。

4 ファイル形式

ファイル形式は、以下のとおりとする。

- 写真管理ファイルのファイル形式はXML形式(XML1.0 に準拠)とする。
- 写真ファイルの記録形式は日本産業規格 (JIS) に示されるJPEG、TIFFやSVG形式等とし、撮影モードによる圧縮比がある場合は、「標準 (BASIC、約1/16圧縮)」とする。動画のファイル形式については、監督職員の承諾を得た上で使用する。
- 動画ファイルの記録形式は日本産業規格 (JIS) に示されるMP4形式等とする。
- 参考図ファイルの記録形式はJPEG、TIFFもしくはSVG形式とする。JPEGの圧縮率、撮影モードは監督(調査)職員と協議の上決定する。TIFF は図面が判読できる程度の解像度とする。
- 写真管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合はXSLに準じる。

【解説】

- 本基準「2 フォルダ構成」に示したように、写真管理ファイルのファイル形式はXML形式とする。
- 写真管理ファイルの閲覧性を高めるため、スタイルシートを用いてもよいが、XSLに準じて作成する。スタイルシートを作成した場合は、管理ファイルと同じ場所に格納する。
- 写真ファイルと参考図ファイルの記録形式は、監督(調査)職員の承諾を得た上で、JPEG (JIS X 4301:1995)、TIFF (JIS X 9205:2005)、SVG (JIS X 4197:2012)以外の形式とすることができる。
- 動画ファイルの記録形式は、監督(調査)職員の承諾を得た上で、MP4 (JIS X 4332:2002)以外の形式とすることができる。

5 ファイル命名規則

- ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- ファイル名8 文字以内、拡張子3 文字以内とする。
- 写真管理ファイルは「PHOTO.XML」とし、写真管理ファイルのDTD は「PHOTO05.DTD」(05 は版番号)とする。
- 写真管理ファイルのスタイルシートのファイル名は「PHOTO05.XSL」とする。
- 写真ファイルの命名規則は次図の通り。

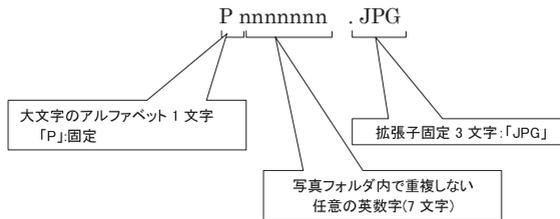


図 5-1 写真ファイルの命名規則

- 参考図ファイルの命名規則は次図の通り。

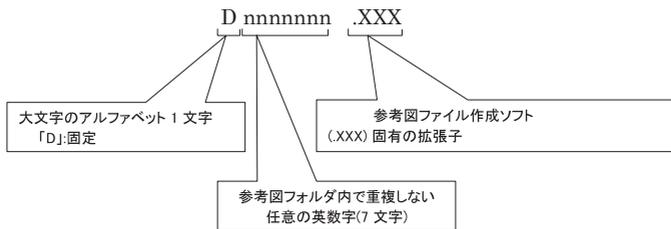


図 5-2 参考図ファイルの命名規則

【解説】

ファイル名の文字数は、半角(1 バイト文字)で8 文字以内、拡張子3 文字以内とする。参考図ファイルの拡張子は4文字でもよい。ファイル名に使用する文字は、半角(1 バイト文字)で、大文字のアルファベット「A~Z」、数字「0~9」、アンダースコア「_」とする。

オリジナルファイルの通し番号は、工事の経緯がわかるように日付昇順に付番することを基本とする。ファイル名は連番により、ファイルを区別することを基本とするが、欠番があっても構わない。

6 写真編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。

7 有効画素数

有効画素数は、黒板の文字が確認できることを指標とする。

【解説】

- 有効画素数は、黒板の文字及び撮影対象が確認できることを指標（100～300万画素程度＝1,200×900程度～2,000×1,500程度）として設定する。
- 不要に有効画素数を大きくすると、ファイル容量が大きくなり、電子媒体が複数枚になるとともに、操作性も低くなるので、目的物及び黒板の文字等が確認できる範囲で適切な有効画素数を設定する。

8 撮影頻度と提出頻度の取り扱い

写真の原本を電子媒体で提出する場合は、写真管理基準に示される撮影頻度に基づくものとする。

9 その他留意事項

9.1 ウイルス対策

- 受注者は、写真を電子媒体に格納した時点で、ウイルスチェックを行う。
- ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、信頼性の高いものを利用する。
- 最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新(アップデート)したものを利用する。
- 電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス(パターンファイル)定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日(西暦表示)」を明記する。

9.2 使用文字

- 本規定は、管理ファイル(XML 文書)を対象とする。
- 使用できる半角文字は、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いたラテン文字用図形文字のみとする。
- 使用できる全角文字は、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字のみとする。

【解説】

(1) 写真管理ファイルのデータ表現形式

使用文字の一般原則は上記の通りであり、写真管理ファイルでの文字の表現は、一般原則に従っている。以下に、写真管理ファイルでの文字の表現方法を解説する。

1) 全角文字

写真管理ファイルのデータ表現形式に示す「全角文字」とは、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字をいう。すなわち、全角文字には、漢字、数字、ラテン文字(a～z、A～Z)、ギリシャ文字、記号などがあるが、このうち全角の数字、ラテン文字は使用できない。全角文字を使用する項目では、必ず半角英数字も合わせて使用できるので、「平成22年」といったデータでは”22”を半角文字とする。

2) 半角英数字

同じく「半角英数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字(半角カタカナ、日本語文で使用する半角の記号(句点(。)、カギ括弧(「、」)、読点(、)、中点(・)、濁点(°)、半濁点(゜))を除いた文字をいう。

3) 半角英数大文字

同じく「半角英数大文字」とは、「半角英数字」からラテン小文字(a～z)を除いた文字をいう。半角英数大文字を使用する項目は、フォルダ名やファイル名といった命名規則が決められている場合であるので、命名規則に従ってデータを入力する。

4) 半角数字

同じく「半角数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字のうち、数字(0～9)及び小数点(.)をいう。

(2) 留意事項

機種依存文字（例えば、丸囲い数字、ローマ数字、(株)、No、kg、m²、地名や人名等の特殊漢字等）、利用者が独自に作成した外字等は、他の端末では表示できない場合もあるので使用しない。また、数字やラテン文字も全角、半角を混在して使用すると検索する上で問題となるため、数字やラテン文字は半角文字で統一する。

付属資料1 写真管理ファイルのDTD

電子媒体に格納する写真管理ファイル (PHOTO.XML) のDTD (PHOTO05.DTD) を以下に示す。

なお、DTD ファイルは、国土交通省のホームページ (<http://www.cals-ed.go.jp/>) から入手できる。

```

<!-PHOTO05.DTD / 2008/05 -->
<!ELEMENT photodata (基礎情報,写真情報+,ソフトメーカー用TAG*)>
<!ATTLIST photodata DTD_version CDATA #FIXED "05">

<!- 基礎情報 -->
<!ELEMENT 基礎情報 (写真フォルダ名,参考図フォルダ名?,適用要領基準)>
  <!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 参考図フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!- 写真情報 -->
<!ELEMENT 写真情報 (写真ファイル情報,撮影工種区分,付加情報*,撮影情報,代表写真,提出頻度写真,施工管理値?,請負者説明文?)>
  <!ELEMENT 代表写真 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 提出頻度写真 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 施工管理値 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 請負者説明文 (#PCDATA)>

<!- 写真ファイル情報 -->
<!ELEMENT 写真ファイル情報 (シリアル番号,写真ファイル名,写真ファイル日本語名?,メディア番号)>
  <!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 写真ファイル日本語名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>

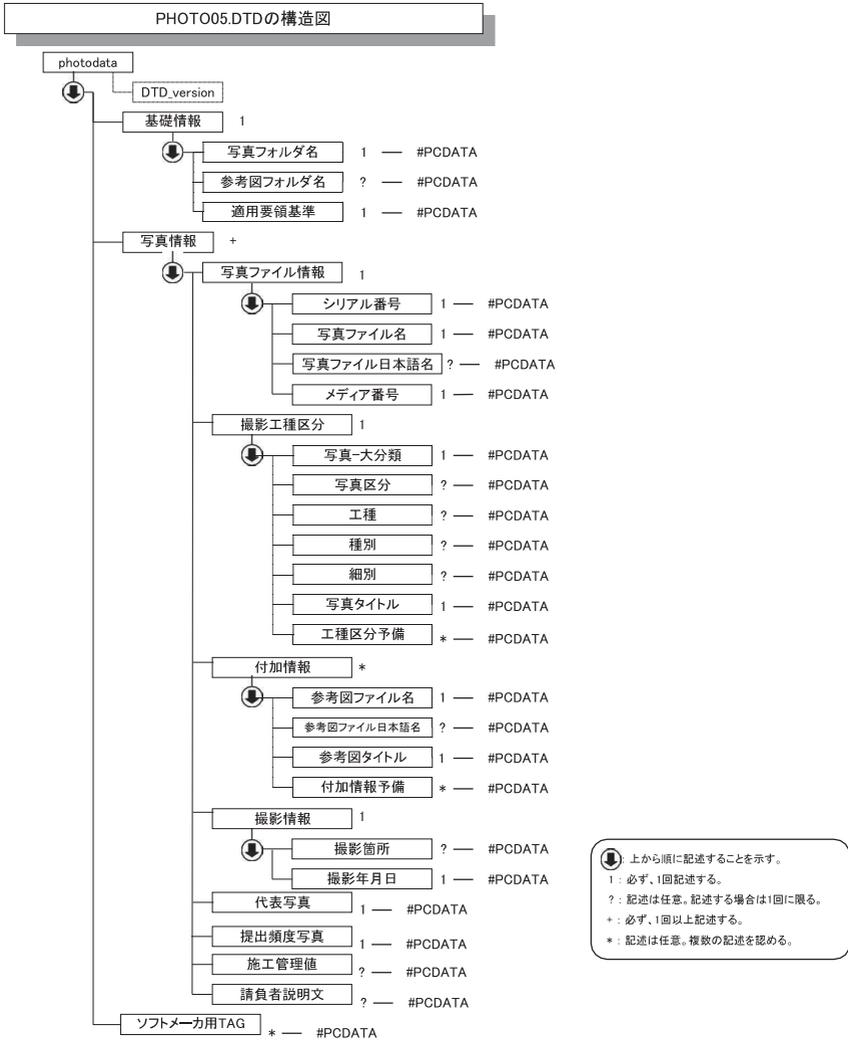
<!- 撮影工種区分 -->
<!ELEMENT 撮影工種区分 (写真-大分類,写真区分?,工種?,種別?,細別?,写真タイトル,工種区分予備*)>
  <!ELEMENT 写真-大分類 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 写真区分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 種別 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 細別 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 写真タイトル (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工種区分予備 (#PCDATA)>

<!- 付加情報 -->
<!ELEMENT 付加情報 (参考図ファイル名,参考図ファイル日本語名?,参考図タイトル,付加情報予備*)>
  <!ELEMENT 参考図ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 参考図ファイル日本語名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 参考図タイトル (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 付加情報予備 (#PCDATA)>

<!- 撮影情報 -->
<!ELEMENT 撮影情報 (撮影箇所?,撮影年月日)>
  <!ELEMENT 撮影箇所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影年月日 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>

```



図付1-1 写真管理ファイルのDTD の構造

付属資料 2 写真管理ファイルのXML 記入例

電子媒体に格納する写真管理ファイル (PHOTO.XML) の記入例を以下に示す。

なお、DTDファイルは、国土交通省のホームページ (<http://www.cals-ed.go.jp/>) から入手できる。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE photodata SYSTEM "PHOTO05.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="PHOTO05.XSL" ?>
<photodata DTD_version="05">
  <基礎情報>
    <写真フォルダ名>PHOTO/PI</写真フォルダ名>
    <参考図フォルダ名>PHOTO/DRA</参考図フォルダ名>
    <適用要領基準>土木202003-01</適用要領基準>
  </基礎情報>
  <写真情報>
    <写真ファイル情報>
      <シリアル番号>1</シリアル番号>
      <写真ファイル名>P0000001.JPG</写真ファイル名>
      <写真ファイル日本語名>着手前0001.JPG</写真ファイル日本語名>
      <メディア番号>1</メディア番号>
    </写真ファイル情報>
    <撮影工程区分>
      <写真-大分類>工事</写真-大分類>
      <写真区分>着手前及び完成写真</写真区分>
      <写真タイトル>着手前写真</写真タイトル>
      <工程区分予備>工程区分の特筆事項があれば記入する。(複数入力可)</工程区分予備>
    </撮影工程区分>
    <付加情報>
      <参考図ファイル名>D0000001.JPG</参考図ファイル名>
      <参考図ファイル日本語名>平面図00001.JPG</参考図ファイル日本語名>
      <参考図タイトル>平面図</参考図タイトル>
      <付加情報予備>付加情報の特筆事項があれば記入する</付加情報予備>
    </付加情報>
    <撮影情報>
      <撮影箇所>測点:1L</撮影箇所>
      <撮影年月日>2010-11-14</撮影年月日>
    </撮影情報>
    <代表写真>1</代表写真>
    <提出頻度写真>1</提出頻度写真>
    <請負者説明文>受注者側で検査立会者、特記事項等状況等、特筆事項があれば記入する。</請負者説明文>
  </写真情報>
</写真情報>
  <写真ファイル情報>
    <シリアル番号>2</シリアル番号>

```

3行目 (<?xml-stylesheet~) は、XML文書の書式 (体裁) を指定する場合は宣言文。書式指定を宣言した場合、XSLファイルを格納すること。スタイルシートを利用しない場合は、当該1行を削除する。

写真管理項目の記入規則に基づき、赤字の部分について内容を記入する。

デジタル写真管理情報基準

<写真ファイル名>P0000002.JPG</写真ファイル名>
<写真ファイル日本語名>施工状況写真 0001.JPG</写真ファイル日本語名>
<メディア番号>1</メディア番号>
</写真ファイル情報>
<撮影工種区分>
<写真-大分類>工事</写真-大分類>
<写真区分>施工状況写真</写真区分>
<写真タイトル>掘削状況写真</写真タイトル>
</撮影工種区分>
<撮影情報>
<撮影箇所>測点:1L</撮影箇所>
<撮影年月日>2010-11-18</撮影年月日> </撮影情報>
<代表写真>1</代表写真>

<提出頻度写真>1</提出頻度写真>
</写真情報>
<写真情報>
<写真ファイル情報>
<シリアル番号>3</シリアル番号>
<写真ファイル名>P0000003.JPG</写真ファイル名>
<写真ファイル日本語名>安全管理 0001.JPG</写真ファイル日本語名>
<メディア番号>1</メディア番号>
</写真ファイル情報>
<撮影工種区分>
<写真-大分類>工事</写真-大分類>
<写真区分>安全管理写真</写真区分>
<写真タイトル>安全訓練等の写真</写真タイトル>
</撮影工種区分>
<撮影情報>
<撮影年月日>2010-11-21</撮影年月日>
</撮影情報>
<代表写真>0</代表写真>
<提出頻度写真>0</提出頻度写真>
</写真情報>
<写真情報>
<写真ファイル情報>
<シリアル番号>4</シリアル番号>
<写真ファイル名>P0000004.JPG</写真ファイル名>
<写真ファイル日本語名>出来形 0001.JPG</写真ファイル日本語名>
<メディア番号>1</メディア番号>
</写真ファイル情報>
<撮影工種区分>
<写真-大分類>工事</写真-大分類>
<写真区分>出来形管理写真</写真区分>
<工種>舗装修繕工</工種>
<種別>舗装打換え工</種別>

<細別>下層路盤</細別>
<写真タイトル>路盤(1層目)出来形測定</写真タイトル>
<工種区分予備>工種区分の特筆事項があれば記入する。(複数入力可)</工種区分予備>
</撮影工種区分>
<付加情報>
<参考図ファイル名>D0000002.JPG</参考図ファイル名>
<参考図ファイル日本語名>横断図 00002.JPG</参考図ファイル日本語名>
<参考図タイトル>横断図</参考図タイトル>
<付加情報予備>付加情報の特筆事項があれば記入する</付加情報予備>
</付加情報>
<撮影情報>
<撮影箇所>測点:1L</撮影箇所>
<撮影年月日>2010-11-22</撮影年月日>
</撮影情報>
<代表写真>1</代表写真>
<提出頻度写真>1</提出頻度写真>
<施工管理値>As 舗装工(下層路盤工):設計寸法 400mm・実測寸法 405mm</施工管理値>
<請負者説明文>受注者側で検査立会者、特記事項等状況等、特筆事項があれば記入する。</請負者説明文>
</写真情報>
<ソフトウェア用 TAG>ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数入力可)</ソフトウェア用 TAG>
</photodata>

(白紙)

共通仕様書（Ⅱ）

土木工事施工管理基準及び規格値

令和8年度以降

令和8年4月1日発行

編 発	集 行	岩手県県土整備部技術管理協議会 岩手県県土整備部建設技術振興課 〒020-8570 盛岡市内丸10番1号 電話 (019) 651-3111
印	刷	杜陵高速印刷株式会社 〒020-0811 盛岡市川目町23番2号 盛岡中央工業団地 電話 (019) 651-2110

共通仕様書（Ⅱ）

土木工事施工管理基準及び規格値

令和8年度以降

令和8年4月1日発行

編 発	集 行	岩手県県土整備部技術管理協議会 公益財団法人岩手県土木技術振興協会 〒020-0122 盛岡市みたけ二丁目2番10号 電話 (019) 643-8585
印	刷	杜陵高速印刷株式会社 〒020-0811 盛岡市川目町23番2号 盛岡中央工業団地 電話 (019) 651-2110